



シネマ気球

第41号 200円

シネマ気球©

編集兼発行人 関田孝正
〒270-0107
千葉県船橋市西栗井 339-2
TEL 04 (7153) 1533
FAX 04 (7156) 7122

「1秒先の彼女」

バレンタインデーの1日、彼女は何をしていたのか？

台湾映画。変わったファンタジー（時間SF）。テンポの速い女とテンポの遅い男のラブストーリー。

女は郵便局の受付で働く30歳。

彼女の父親はある晩失踪してそれっきり。公園でダンスを指導するスポーツマンと出会い、夏のバレンタインデー（台湾には日本と違って年2回ある）にデートの約束をするが、その1日のことが全く記憶から抜け落ちてしまう。朝目覚めるとバレンタインデーの翌日になっている。バレンタインデーの日は何をしていたのか。交番の警官に「私の1日が盗まれた」と主張するが、もちろん、笑って相手にされない。夏場のことなので顔や腕に日焼けの跡がある。それでも海などに行った記憶はない。自分は1日どこで何をしていたのか。

毎日手紙を出す男が今日も切手を1枚買いに窓口にやってくる。首からはカメラをぶら下げている。毎日手紙を出すのなら切手をまとめて買えばよいのに男に言う。男は女に気があるらしい。女はある日、写真店のショーウィンドウ

に自分のポートレートが額に入れて飾られているのを見える。そんな写真、撮られた記憶がない。いったれにどこで撮られたのか。

女は子供のころからテンポが速すぎて、みんなとそろわない。合唱をしても早く歌ってしまいうし、徒競走でみんなと横一線に並んでもドンが鳴る前に飛び出してしまいう。

カメラをぶら下げた男はバスの運転手。女とは逆に何事にもテンポが遅い。この二人が出会ったときに不思議なことが起こる。

昔、手塚治虫のマンガに「ふしぎな少年」という物語があった。テレビ化もされた。主人公の少年には時間を操る能力があり、「時間よ止まれ」と叫ぶと時間が止まってしまうのだ。この映画もこの不思議なことが起こり、彼女の失われた1日の謎が解明されていく。女と男の間には何があったのか。失踪した父親はどうなったのか。監督・脚本はチェン・ユーシューン。

（絵と文・流漂介）

ニミッツは運に恵まれ、山本五十六は、見放された！ 日本の悲劇、「ミッドウェイ」

門馬德行

1

〈太平洋戦争〉(1941〜45)のターニングポイントとなった〈ミッドウェイ海戦〉(1942・6・5〜7)。これをテーマにしたアメリカ映画「ミッドウェイ」(2020)は、「インデペンデンス・デイ」などを撮った破壊王、またはディザスタームービーの巨匠とも言われているローランド・エメリッヒの作品だ。彼は、あまり内容は重視しないで、見せ場、クライマックスの連続でたたみ掛けるビジュアル先行の監督と言われている。今回も、20年近く時間をかけたと言われた脚本のわりには、戦闘シーン(さすがにVFXはリアルだった)だけが目立ち、全体的には、キャラクターの造形も浅く(いつものことだが)、日常シーンもやや散漫な印象に終始している。一応、日米を相対的には撮っていたが「トラ・トラ・トラ」(1970)のように、日本側は日本のスタッフ&キャストで撮影したのではない。案の定、作品内容はこ

の海戦で圧倒的に勝利したアメリカ側の自画自賛になっていた。「トラ・トラ・トラ」は、次々と破壊された真珠湾の様子を克明に描いたため、アメリカ国内では評判が悪かったと聞いた。単純に言えば、観客は自分の国がとことん破壊される映像は見たくないのが本音ということだろう。この映画の最初に、〈これは米国史上最も重要な海戦の真実である〉という字幕が出る。つまり、この作品は、実際に沿って作り上げたというエメリッヒの宣言だ。が、果たして事実通りの作品など成立するのだろうか、と疑問を感じるが。例えば、捕虜になったアメリカのパイロットが情報を吐かなかった(悪態、暴言を吐く)、日本側が錨をつけて海に投げ込むシーンがある。これは〈真実〉なのか。ドイツ、ナチスの比ではないしろ、当時の日本軍も占領地の住民に対してかなり残忍なことをやっていたことが、最近兵士たちによって暴露されているので、一概には否定できない。この行為については、残念なこと

に〈半信半疑〉が正直な受け取り方ではないか。次に、日本を初空襲して中国に不時着したアメリカのパイロット(爆撃を指揮したドゥーリトル)が、中国人にライターをあげるシーンもある。これも、〈真実〉なのか。どうしても、取ってつけたような軽い印象を持つてしまう。プロデュースに参加している中国資本に付度したのだろう、という意見もあるようだ。一番肝心なのは、何故、これらのシーンを入れたのか、という作家たちの意図だろう。〈真実〉通りに描いても映画が面白いとはかぎらない。面白くなければ、観客は劇場に足を運ばないだろうから。ここで、脚色性という問題がクロージズアップされてくる。この際、「事実に基づいて制作した」というスタンスが妥当だったのではないか、と思われる。

2

〈太平洋戦争〉の勝敗に大きな影響を与えた〈ミッドウェイ海戦〉を扱った作品は、以前にアメリカ

建国200年を記念して作られた「ミッドウェイ」(1976)があった。エメリッヒは、おそらくこの作品をベースにしていると思われる。これは、ジャック・スマイト(監督)によるアメリカ・オールスター映画。山本五十六が三船敏郎、ニミッツをヘンリー・フォスター、さらに、チャールトン・ヘストン、ロバート・ミッチャムなど名優がズラリと出演している。が、戦闘シーンがすべて記録映像や既存の作品からの引用で、さらに登場する日本人がすべて英語を話すので、かなりちぐはぐな印象を感じる。内容は、基本的には本作と変わらないが、日本艦隊が全滅していくところがやや強調されている。ラスト近くで、ヘストンを急に出撃、戦死させ、無理やりヒーローにしているところに違和感を持つてしまう。今回も、急降下爆撃機の自信過剰なパイロットをヒーローにしている。彼を、カウボーイに例えるセリフが2、3度出てくるが、40数年たっても、アメリカは変わっていない、アメ



「ミッドウェイ」(監督=ローランド・エメリッヒ) ニミッツ役のウディ・ハレルソンと山本五十六役の豊川悦司

リカを救うのは、強いヒーローしかいないということなのだろう。邦画でも、「ミッドウェイ海戦」を描いた作品に「ハワイ・ミッドウェイ大海空戦 太平洋の嵐」(1960)がある。他、「連合艦隊司令長官山本五十六」(1968)、「連合艦隊」(1981)などもこの海戦に触れている。何故、勝利したアメリカではなく敗北した日本も扱うのだろうか。それは、この作戦が「太平洋戦争」の分れ道であり、巷で言われているように日本艦隊の命令系統の不一致、臨機応変の決断をできなかったなどの反

省と教訓とを含んでいるからなのだろう。あるいは、運に見放された悲劇のヒーロー、連合艦隊司令長官山本五十六(豊川悦司、ハマッてる)という人物の生きざまが人々の感情に触れるからだろうか。さらに言えば、もしも真正面からぶつかっていれば、日本が勝利していたかもしれない、という過剰な逆転願望が根強くあるからだろうか。それとも、虎の子の空母4隻を一気に失ってしまった日本艦隊に、滅びゆく民族の予感や美学を見たのだろうか。いずれにしろ、日本側から言えば、作戦を指揮した悲劇の長官、山本五十六なくしてこの海戦の本質は語れないと思う。対照的に、勝利し名を挙げたのがアメリカ太平洋艦隊司令長官チェスター・ニミッツ(ウディ・ハレルソン)だった。

3

エメリッヒの作品で冒頭描かれたのが、日本が不意打ち(一説にはルーズベルトは奇襲を知っていた、という説もあり)した「真珠湾攻撃」(1941・12・8)だ。このシーンは、激しい戦闘の連続とダイナミックな音響効果でぐいぐい観客の五感に迫ってくる。一

応、作戦自体は成功したが、真珠湾には空母が一隻もいなかった。このことが、「ミッドウェイ海戦」の必然性につながってくる。山本の誤算は、宣戦布告の通知が日本の緩慢な外交、事務手続きにより遅れたことにあった。前述の邦画中で、山本が攻撃の直前に宣戦布告の通知を確認するように、再三再四催促するシーンがあり、いかに彼がこの事前通知にこだわっていたかがわかる。しかし、結果的に「掟破りの攻撃」になってしまいアメリカを怒らせてしまう。山本の台詞にもあったように『眠っていた巨人を目覚めさせてしまった』。山本はそれが怖かった。軍勢力、産業力では到底日本が太刀打ちできる相手でないことは知っていたから。だから、出鼻をくじくしかない。案の定、怒るルーズベルトは、全力で仕返しにくる。それが、B25双発爆撃機による初の日本本土空襲となる。この作戦の様子は、マイケル・ベイの「パール・ハーバー」(2001)にも出てくるし、また、ジャック・スマイトの「ミッドウェイ」は、この空襲のシーンから映画が始まる。航続距離の短い爆撃機は、爆撃後中国に不着。パイロットに命の保

証はなかった。この一見、無謀ともいえる作戦は、アメリカにとつて、国家の威信をかけたものだったと言える。日本側の被害は大きななかったが、心理的打撃は大きいものがあつた。本作でも、がっくりと首を垂れている山本の姿が印象的に描写されている。空襲の影響もあり、やや慌てて進められたミッドウェイ作戦の狙い(山本の)は、アメリカ空母艦隊を殲滅し、再度ハワイを襲い西海岸も攻撃し、早期に和平交渉へ、戦争終結へと持っていこうとするものだった。が、仮に作戦が成功したとしても、日本の大本営がすぐ和平工作へ動くという保証は、まったくなかったのではない。とくに陸軍は反対したにちがいないし、誰が中心になってその任務を担うのか、という高いハードルがあつたのではないかと思われる。

4

この海戦では、兵力的には優勢だった日本艦隊の情報収集力のもろさが一気に出てくる。いかに「情報戦」が大切か、ということだろう。空母同士の戦いは、先に相手を見つけた方が圧倒的に有利。日本側は、米艦隊の動きをまるで

つかめていなかった。索敵機の数、範囲、通信力などが米国よりかなり劣り、とくに暗号解読力に關しては雲泥の差があったらしい。日本が使っていたのは、乱数表などによる暗号で、ドイツ最強の暗号機（エニグマ）によるような難解な暗号ではなかったようだ。アメリカ情報機関に大体解読され、作戦の手の内を読まれていては、勝敗はもう決まっていた。日本艦隊の行動をキャッチしていた米艦隊は、ニミッツの指揮のもと待ち伏せていた。真珠湾で不意打ちを喰わした日本は、逆にアメリカの待ち伏せに合ってしまった。エメリッヒは、主に空母を葬った急降下爆撃隊と、情報戦を指揮した参謀たちの活躍を中心に話を進めている。彼らの緻密な収集力と果敢な攻撃によって、日本の空母すべてを撃破し勝利を収めることができた。この戦いで表立ってヒーローになったのは、爆撃機のパイロットたちだった。が、調べてみると、彼らは稀にみる幸運に恵まれたことがわかった。帰りの燃料を気にしながらの飛行の中で、偶然に雲の切れ間から日本艦隊を見つける。天はアメリカ、ニミッツに味方した。逆に山本は見放された。

周りにはゼロ戦がない。この頃、アメリカには、ゼロ戦に勝る戦闘機はなかった。幸運にも、ゼロ戦は直前、アメリカの雷撃機を迎え撃つたために海面近くに降下していたらしい。彼らは、がら空きだった上空から急降下爆撃を敢行した。空母の甲板には攻撃機が並び、飛び立つ寸前。わずか、5分ちよつとで勝敗は決まってしまった。まさに、日本艦隊にとつては悪夢の一瞬だった。山本は愕然とするほかはなかった。この時点で、山本における（太平洋戦争）はもう終わりを告げていたのではない。（日本敗れたり）。山本はこの後、暗号を解読され、ソロモン群島視察中に襲われ（これも、待ち伏せ）命を落としている。アメリカは、彼が乗っているのは一番機で、座席の位置まで掴んでいたらしい。山本にとつて、無念の最後だった。

5

日本艦隊敗因の一つに、〈兵装転換〉もある。陸上攻撃用の装備を空母発見の知らせに急遽、艦上攻撃用に変更させた。その間にも米機は迫っているのに。ここは、陸上用爆弾のまま発信させる手はあったのではないか。空母の甲板に

落とすだけで効果がある。臨機応変な行動ができなかったわけだ。さらに作戦そのものがミッドウェイ島攻略と米艦隊殲滅の（二兎を追った）ことだとも言われている。数の上では、日本軍の方が勝っていたので、まさか完敗するとは思っていなかっただろう。映画は、一隻残った日本の空母「飛龍」の意地の反撃も描かれるが、結局攻撃を受け、動けなくなり味方の魚雷で沈み（大和魂）も不発に終わる。さらに、今となつては、なんのために戦艦大和が出撃したのか疑問だ。この作戦で、大和はいかなる力も發揮していない。これからは、空母、航空戦の時代で、巨艦主義ではないと力説していた山本が、大和で指揮していたのだから皮肉なものだ。その後、日本は歯止めのかかない破壊への道を、まっしぐらにつき進んでいく。そんな悲劇的な運命を暗示していたのが、〈ミッドウェイ海戦〉だった。逆に、アメリカにとつてこの勝利は、起死回生、反撃の第一歩となつたわけだ。

6

エメリッヒの作品としては、いつもの薄味ではなく、確かに細か

いところも良く調べてはいる。日本の空母が次々と沈められていく様を見ると、複雑な思いに襲われる。が、これを見ると、負けるべくして負けた！と言わざるを得ない。おおざっぱに言えば、精神論が科学力に屈したのかもしれない。彼の次回作もまた（太平洋戦争）をテーマにしたものになるそうだが、果たして、どんな話になるのかは、決まっていないという。だとしたら（日本に限定して言えば）、戦争末期、日本軍がとつた無謀な作戦（特攻）をアメリカサイドはどう見ていたのか、とか。アメリカ沿岸攻撃を目指した日本最大の（伊号400型潜水艦）（水中空母と言われた。戦後、アメリカがその船体を調べたらしい）の行動や運命とか。一発逆転を狙って敢行された偏西風だのみの（風船爆弾）の行方とか。非常に興味深い話がいっぱいあるので、ここはひとつ、ぜひとも、リサーチしてみてほしいところだ。いずれにしても、単なる見世物や戦争ショーにならないことを強く願うばかりだ。

韓国・中国・アメリカ合作映画

『レイトオータム』の謎に魅かれて

堀江広子

コロナ禍を韓国もので楽しむ

コロナ禍が始まった昨春から、洋画より韓国映画やテレビドラマに嵌まってしまい、ネットフリックスで毎晩五、六時間鑑賞するのが日課として定着してしまった。

今年、ハリウッドのアカデミー賞で、助演女優賞に韓国女優のユン・ヨジョン（七三歳）さんが受賞した『ミナリ』という作品の主人公の母役。ミナリとは、韓国語でセリの事だ。生命力が強く、しっかりと根を張る植物のセリ。韓国からアーカンソー州に移住し

てきた韓国人家族の物語である。主人公役のステイヴン・ユアンは、『バーニング 劇場版』というユ・アイン主演の映画で、不気味な殺人者を演じ、印象に残っている。

『ハウス・メイド』で知ったユン・ヨジョンさん。ヒロインの先輩メイド役で脇を固め、ベテランらしい演技が光っていた。

ハリウッドで韓国人俳優が認められるのは珍しいが個人的には、むしろ評価が遅すぎたぐらいだと思う。アメリカでは、名優を輩出している「アクトーススタジオ」が有名だが、韓国には映画・演劇学科のある大学が多く、たくさん俳優の卵たちが学び、演技のレベルも大変高いと聞く。実際、映画・ドラマを観ているとベテランに限らず、若手の俳優たちの演技は素晴らしい。

これまでのお気に入りには、『トッケビ』『シカゴ・タイプライター』『ヴィンチェンツォ』『愛の不時着』『秘密の森』『シグナル』等々。韓国では、一話が約四五分から一時間くらいで、半年から一年ほどかけて放映するらしい。短いもので十六話、五十話の作品もある。ゆっくりストーリーが進むので、脚

本と演出の力が試される。制作スタッフの切磋琢磨ぶりが凄いらしい。主役級の俳優たちも、人気と実力が落ちないよう競争に励むのだ。韓国の大学受験競争の凄まじさがよく報道されるが、就活も、五大財閥に入社出来なければ人生終わりみたいな面もあるし、熾烈な闘いの連続のようだ。

韓国サスペンスは傑作も多いが、恋愛ドラマでは、経済格差ものが目白押しで、財閥の御曹司と貧しい女性の恋愛ものがほとんどだ。最近では多少変わってきているよう

だが、現実には有り得ないハッピーエンドばかり。似たような内容なのに、なぜ飽きないかといえば、主人公を取り巻く家族なり、社会

なりの背景が詳しく描かれ、複雑に絡み合い、まことしやかに描かれているのでつい騙され沼落ちしてしまうのだ。勿論その内容には問題点がなくはない。日本ではまず放映NGの学歴・貧富に関して、極度に差別的な台詞や企業の上司による部下への暴力が平然と描かれている。思わずエーッ、それはダメでしょうと感じる場面

が驚くほど多い。それでも、観ないではおれない魅力がぎゅっと詰まっている。筆者は去年、『トッケ

ビ』全十六話を、三回見てしまった。優れた脚本と演出と演技のまさに三位一体のたまものであると確信する。

韓国発エンタメに世界が熱狂

今年六月十二日付の日経新聞の文化欄で韓国の芸能事情が書かれていた。音楽業界・ドラマ・映画の世界的な躍進がいかにも戦略的に進められているかを知って納得した。制作過程の手法がアメリカに近く、脚本の完成度や題材の新鮮さを出発点としていることなどで、俳優の知名度ではなく、練った物語が世界で売れ、投資が集まり、政府の補助金も企画や脚本支援に投じられるという。

IT革命で、欧米でのEDM（電子ダンス音楽）の潮流に韓国はすぐに追いつき、人気グループが全米で一位となったり、映画でアカデミー賞受賞に輝き、ドラマが世界中で人気を博すといった現象が決して偶然ではない事を物語っている。

幸運い女性と、男娼との出会い

そんな中で、少し古く映像も内容も突出して暗くて異色だったのが、映画『レイトオータム』であ



「レイトオータム」タン・ウェイ（右）とヒョンビン

る。もともと一九六〇年代に『晩秋』の名で公開された作品。時代を経ても色あせない魅力があるのか、これまで何度もリメイクされて来たという。

筆者は観ていないが、日本でも『約束』というタイトルで、岸恵子とショウケンこと萩原健一が共演して話題になった。

今回は、二〇一〇年に制作された四度目のリメイク版である。舞台をアメリカ、シアトルに移し、中国人女優のタン・ウェイと、今をときめく『愛の不時着』のヒョンビンが演じていたので、興味を

持った。

台詞が非常に少ない主人公役のタン・ウェイの射るような目と、チャライ若者を演じたヒョンビンの演技がうまくマッチしていて、終始異邦人としての二人のそれぞれの疎外感と孤独が浮き彫りにされ、不安定で刹那に息をしている男女の姿が胸に迫る。

主人公アンナは、夫との仲がうまくいかなくなり、昔一度は愛し合いながらも別れた幼なじみの男に駆け落ちを持ちかけられ、夫に知られ激しい暴力を受けた際、自衛的に包丁で夫を刺して死なせてしまう。服役して七年後、母親の葬儀のための七十二時間の外出が許され、シアトルにバスで向かっている。バスの中で若い男フンと知り合う。正体がよく分からないフンもまた、秘密を持っているようだ。

頑なだったアンナの心は、フンの軽口にくんざりしながらも、徐々にほぐれていく。ちなみに、二人の会話は英語で、アンナが身の上話をする時は中国語、フンは理解出来なくても「ハオ」と「ファ」だけで応えながらじつと耳を傾けていた。

母親の葬儀の後の会食にフンも

同席、駆け落ちまでしようとしていた男も。アンナの兄の友人でもあった男は、妻子持ち。事情を知ったフンは、男と諍いを起こし、アンナはここで初めて感情を爆発させ号泣する。筆者は思う。男と女って、どんなに月日を重ねても、全てを分かり合えるとは限らない。むしろ、月日は時に無慈悲でもある。感情のすれ違いから簡単に、埋めようのない溝を作ると。そしてまた、時間をかけなくても、分かり合える事も男女の間ではありうるのだろうと。

男と女は同じ事を思ったのか

フンは実は、ヘスコートサービスという女性からのあらゆる依頼を請け負う仕事、いわば男娼である。ある中年の女性に気に入られ、資金を出すから事業をしてみないかと持ちかけられる。だが、女性の夫がそれを知り、人を雇いフンを尾行していた。

アンナが刑務所に戻る日、バスにフンも乗って来る。途中、濃霧の為、バスは休憩する。その際に、女の夫がフンを拘束。妻をなぜ殺したのかと問い詰めたり、警察に捕まる前にフンに会ってみたかったとか、女性の夫の台詞は謎だら

けである。フンが女性を殺害したのか、夫が殺したのかよく分からないのだ。その状況でフンが女性の夫から解放されたのか分からないが、直後に、フンとアンナは長い長い狂おしく切ない抱擁を交わし、二年後の再会を誓うのだった。その長さの必要性は納得出来るものだった。これほど哀しく切実なキスシーンを知らない。

けれど、このシーンは果たして現実だったのだろうか、アンナの夢だったのではないかと疑問が残る。なぜなら、アンナがうたた寝中にフンは姿を消してしまっていたから。

二年後、アンナは出所、フンの約束の場所待っている。フンは来るのだろうか。フンを待つ間、かすかに見せた笑顔らしき表情に切なさもこもっている。

この終わりは何を物語っているのだろう、未だに謎である。

×

×

×

「ノマドランド」を観て コロナ禍の社会を思う

片桐公男

TVニュースで今年のアカデミー作品賞に「ノマドランド」が選ばれたことを知った。近くの映画館に来たら観に行こうと思っていた。5月連休が終了した6日、映画館へ足を運んだ。

「スリー・ビルボード」のオスカー女優フランシス・マクドーマンドが主演を務め、アメリカ西部の路上に暮らす車上生活者たちの生き様を、大自然の映像美とともに描いたロードムービー。ジェシカ・ブルードアーのノンフィクション「ノマド」漂流する高齢労働者たち」を原作に、「ザ・ライダー」で高く評価された新鋭クロエ・ジャオ監督がメガホンをとった。

アメリカ西部ネバダ州の企業城下町エンパイアに暮らす60代の女性フアンは、リーマンショックによる企業倒産の影響で、長年住み慣れた家を失ってしまう。キャ

ンピングカーに家財道具を詰め込んだ彼女は、「現代のノマド（遊牧民）」として、過酷な季節労働の現場を渡り歩きながら車上生活を送ることになった。ある時はアマゾンの商品倉庫での仕分けや、国立公園でのゴミ拾いなど雑用もする、短期労働で当面の生活費を稼いではまた移動する生活。旅先で出会うノマドたちも家族とうまういかなかったり、失業者だったりと事情は様々だが、助け合って力強く生きていく姿に共感する。一緒に働いていた同僚が家族のもとに帰り、そこを訪ねた際、彼から「君を愛している、ここで一緒に暮らそう」と告げられるが、その誘惑も断りフアンの車はまた知らない街へと走って行く。

家や土地、地縁に縛られない生活は、近代の管理社会で私たちが自明のように受け入れてきたさまざまな束縛からの解放を実践している面もあり、ある種の悟りの境地に達しているようでもある。

フアンが訪れるアメリカ西部の荒野、森、海といった広大な大自然を目にするのもこの映画の楽しみでもある。フアンが様々な事情を抱えるノマドたちと出会いこころの交流を重ね誇りを持って

自由に生きる彼女の旅は続いている。

映画の舞台となったアメリカ西部、カリフォルニア、ネバダ、アリゾナ、ユタ州など、ロスで暮らしていた兄を家内と訪ね、兄の運転で1990年と92年の2回、ドライブをしている。1回目は、砂漠の中のフリーウェイを夜通し走りギャンブルの街・ラスベガス、そしてグランドキャニオン、岩山のザイオン・ナショナルパーク、こけしが林立しているような赤い奇岩が並ぶブライス・キャニオン等々と、ロングビーチなどを経由して、サンディエゴまで海岸線を南下した。その2年後には、シエラネバダ山脈を眺めて北上しヨセミテ・ナショナルパークに泊まり、サンフランシスコへ出てウェストコーストを南下してロスアンジェルスまで、美しい海岸とラッコ、アザラシ、ペリカンなど珍しい生き物を見ながらドライブを楽しんだ。

そんな旅の途中でリタイアした老夫婦がキャンピングカーで走っている姿を見かけた。バスのように大きなキャンピングカーの後ろに小型の乗用車を牽引しているのも見かけた。兄は「目的地に着い

たら、大きいのは置いて、乗用車で日帰り旅行をするのさ」と説明してくれた。

当時は貿易摩擦など、日米間にはギクシャクする関係もあったが、まだアメリカの良さをかい間みられた時代であった。それから28年が経過しているが、アメリカトラップ前大統領が叫んだ「メキシコ国境に塀を築け」「アメリカファースト」などの叫びは、アメリカ社会に深刻な分断と心の壁を築いてしまった。また、持てる者と持てない者の格差社会はより深刻さを増してしまったことをこの映画からも伺うことができた。

リーマンショックから13年、やつと経済が戻った感があったが、このコロナ禍で13年前に戻ってしまったような、いやそれ以上の深刻さが世界を襲っている。

日本でもリーマンショック時には、日比谷公園には「派遣村」が開設され、住まいや職を失った派遣や期間工が列をなした。今回のコロナ禍でも、職を失った弱い立場の労働者やアルバイトに頼っていた学生、女性、子ども、老人たちが追い詰められている。コロナ禍でも過去最高益を上げているGAF Aなど巨大企業の陰で。

タクシーと小さな勇気 と希望について

『タクシー運転手 約束は
海を越えて』

菊地 智史

最初は金目当て

金目当てで長距離の仕事を受けたタクシー運転手のマンソプ（ソン・ガンホ）。苦勞して入った光州市で軍事政権による民主化運動に對する大規模弾圧事件「光州事件」に遭遇して沢山の生と死を見つめ彼の気持ちが変化し、弾圧の現場をとらえたカメラを持つドイツ人ジャーナリストを帰還させるラストの決死の逃避行、というのが本作のあらすじです。

タクシーという舞台装置の重要性① 2度のUターン

見るべきは、重要な舞台装置であるタクシーの使い方です。

マンソプは光州市に入り、民主化運動を戦う市民の車の後を追いますが、途中でUターンして家に帰ろうとします。これが、一度目のUターンです。彼にとって民主

化運動は他人事、巻き込まれて大切な商売道具のタクシーに傷がついては娘を養ってゆけません。娘を愛するがゆえに仁義や大義に對してそっぽを向く、一人の家庭人の顔が映されます。そしてカメラは彼を非難することなく、偶然から一旦は光州市街に戻ったもののその後涙ながらに娘の大切さを訴えやはりソウルに帰ろうとする彼を慰めるように、優しく映します。

私自身も現在、赤ちゃんの育児に奮闘しております。ですから、娘のために家路を急ごうとするマンソプを責めようとするカメラの姿勢を支持します。そこには、小さな幸福を守らなければならぬい小さな家庭人の姿が描かれています。

しかし、家路の途中でマンソプは、現場で世話になった仲間が軍の暴力によって命を奪われていることを知ります。娘の待つ家に帰らなければならぬ。でも、仲間たちのことも忘れられません。娘のために購入した小さなかわいい靴を見て「俺はどうしたらいいんだ！」と車中で叫び、苦悩の末、小さな勇気を振り絞ってタクシーをUターンさせ、再び光州に向かいます。

このように2度のUターンが、マンソプの家庭人としての顔と、軍事政権の弾圧に抗う市民の顔を、象徴的に描き出します。ただし本作には、どちらの顔が優れているという価値判断は存在しません。家庭人の顔と市民の顔、どちらも一人のタクシー運転手のこのろの中に、同時に存在しているのです。Uターンという同じ動きで、マンソプの持つ多面性と重い決断を描き出す演出に、舌を巻くばかりです。

タクシーという舞台装置の重要性② 猛スピードのバック走

このUターンのほかに、弾圧の現場で光州市の運転手たちがタクシーを武器にして軍事政権と戦う場面も見ものです。

ただし、私が最も見ていただきたいのは、ラスト近くのカーチェイスの場面です。

弾圧の現場を押さえたドイツ人ジャーナリストを乗せて光州市からの脱出を図るマンソプを、不気味な軍事車両が猛スピードで追尾します。光州市で知り合ったタクシー運転手たちが助けに来るのですが、一台ずつ撃たれて離脱してゆき、最後は名脇役ユ・ヘジンが演じるファン運転手の車だけが残

ダジャレ工房

山田 徹



友人が70歳になって俳句を始めました。毎朝食事前に散歩しながら俳句の題材を探すのだとか。
→こういうのを「ハイカイ老人」というのですね。
(本書より) これまで書き溜め、人様の前で発表したダジャレ 160篇を一挙公開！

山田 徹・著

新書判 200頁／1000円＋税

I S B N 978-4-902387-27-8

ダジャレ工房



ごめ書房

〒270-0107
千葉県流山市西深井 339-2
TEL 04-7156-7121
FAX 04-7156-7122

されます。このままではマンソプのタクシーがソウルに着く前に軍に捕獲されてしまうと考えたファンさん。並走するマンソプに「心配するな」と言い残し、一瞬の逡巡の後、猛スピードで車をバックさせて軍事車両に衝突させ、自らの命と引き換えにマンソプへの追撃を阻みます。決死の形相で言葉にならない叫びを上げながらのバック走には涙を禁じえません。

タクシーと希望と小さな勇気について

このように、本作では数々の名シーンで「タクシー」という装置が効果的に使われています。

ゆるい映画好き

中川恵彦

私はかなりのミューハーなどところがあります。そして邦画が大好きです。

映画を観る基準は、好きな女優が出演又は主演しているかというところ です。

最近では、2020年、松井愛莉主演の「癒しのこころみく自分を好きになる方法」、2020年、多部未華子主演の「空に住む」、

でも、単に映画的な効果を上げるためであれば小道具としてタクシーにこだわる必然性はないのです。「事ここに至ってはタクシー運転手という家庭人の顔は捨て、市民義勇軍として火炎瓶を手にする」という決断もありうるわけです。そうではなくて、あくまで家庭人としての生業の道具であるタクシーを武器に戦うという演出に執拗にこだわった本作から、私たちは希望というものを読み取るべきでしょう。

それは、どのような希望か。生業の道具であるタクシー運転の技術を使えることの延長線上に軍

2021年、有村架純主演の「花束みたいな恋をした」、この3作は劇場で観ました。

A m a z o nやW O W O Wでは奈緒主演の「ハルカの陶」、平手友梨奈主演の「響・H I B I K I」等を観ています。

好きな女優のくくり以外で最近観たのは、坂口健太郎主演の「劇場版シグナル」、アニメ「名探偵コナン 緋色の弾丸」です。コナンに關しては1997年からの第1作「時計じかけの摩天楼」以来24作全て観てます。一番のお気に入り

事独裁国家による弾圧への小さな抵抗という局地戦があり、その局地戦に勝利することで世界の報道を変え、国家を統治するシステムに変更を加えることができるかもしれない。運転手さんも、職人さんも、サラリーパーソンも、日々の生業を頑張っている家庭人がマンソプのように小さな勇気を振り絞れば、世界を変えられる可能性がある。そのような希望です。

「タクシー運転手の俺にできたことだ、あなたにもできるはずだ」。

ある種の困難に直面したときに本作のことを思い出せば、そのよ

は2016年公開の20作目「純黒の悪夢」です。女優の天海祐希がゲスト声優を務めました。原作でもまだ明かされていない、黒の組織の内部に迫る作品です。

私が今まで観てきた邦画で泣けた作品は2015年、有村架純主演の「映画ビリギャル」、2018年、有村架純主演の「コーヒーが冷めないうちに」です。「ビリギャル」のあらすじは、学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話です。家族愛に泣けてきました。「コー

うにマンソプが語り掛けてくるはずです。

学生をタクシーで送り届けた数十年後のマンソプが穏やかな顔で新聞を見るラストは、無敵のヒーローではなく、小さな家庭人の小さな勇気が社会を変えたことを示唆します。さえない黄緑色のタクシーが走るの、そのような希望の道なのです。

(杉並総合法律事務所 弁護士)

× ×

×

ヒーが冷めないうちに」は公開当時「4回泣けます」とのコピーでした。4つの泣けるエピソードがあるのですが、私は3回泣きました。最も泣けた作品は2020年公開「劇場版「鬼滅の刃」無限列車編」です。

映画を観る前にコミックスで読んでいたのですが、映像と声優さんのおかげで余計に泣きました。これからも最低月イチは劇場で観たいと思っています。

(テニスコーチ歴31年)

—読者から—
〈第8回〉

警備員的なものをめぐって

農律捨丸

関田監督、新人役者も七十歳になると、もう役はもらえないものではないか。昔から役者たちは実年齢よりも若く自分を売っているではありませんか。「いまから役者」の私にだって、その道はないものか。(わしやどうも納得出来ない) やつ当たりのですが、また一年、こうして待たされている者のボヤキにも耳を貸してください。

〈報告〉 一〇六年まえの第二信で紹介したF君のことです。私の百メートル隣りに持ち場していた宿直警備員をリタイアしました。病気が重なって、おまけにこの疫病状況とくれば止むを得ませんが、ま

たえらくサッパリと辞めてしまいました。私としては、ありやという受け止め方ですが、すぐれた男ほど身の処し方も潔い。まったくグズつかないもので、隣りの詰所にいる私も気づかぬうちに居なくなるという術でした。その後、あちこちから、あの人がいてくれたら……という声の上がる事態がありました。それが、それには私だって知らん顔。ならば、どうしてあの時にもっと大事に対応していなかったのだと、要らないかたきをとったりして、じつに惜しまれる人材なのです。しかし、こんなことはまれです。大概の場合には、柩に入って退場するのが主流ですから。このことも前にお話しましたね。その後、Fの持ち場では五人もの新人が、定着できずに交替をしています。エッセンシャルワークを勤める人間にもピンからキリまで、さまざまな動機と能力を持ったケースあり。まずはFよ、ありがとう。そして、ご苦労さまでした。でもその後の、健康回復ぶりを見ると、ひどい現場に引つ張り込んだ私にも責任の一半ありか……。

私が警備員になったのは、息子にすすめられてのこととは、これも何回も申し上げていますが、そ

の息子も、この七年間にさんざん試行錯誤のあぐく、いま、スイム用品にキヤラクターを入れ込むデザイナーとなりました。下から上から、左から右から、毎号でちがう報告をしてきましたが、ともかく「デザイナー」としての自分の道を見つけ出しました。父親が自分の勤めのアライバイを固めていた、それが根拠を失っていくのとは正反対に、さんざん動き回った息子のほうが、自己納得の高いところへたどり着いているように見えるのは、その示すとおりです。つまり私は、わけのわからないままに、ここまで来てしまった。そして、しつこくも監督に、自分の人生を納得させてくれと新しいきっかけを求めているのでしょうか。

〈報告〉 一二ついでによいですか、ちよつと私の思い出話におつき合ください。Fと出っ食わしたのは、昭和四十四年の春。新緑のW大キャンパス。お互い新入生です。劇団めるへんという、当時は何十もあった学生劇団の一つの部室でした。ここで、四月から六月までのわずか三ヶ月間の演劇部ぐらしを共にしたのですが、それが現在まで五十数年も続きにつづいているのです。Fは演劇につづ

て、深い動機を抱えていなかったと思う。ちよつとした勧誘で、何だか知らんがやってみるかというて来たようです。一方で私、W大なら演劇だ、加藤剛のようになるのだ、劇団自由舞台はどこだ、という調子でした。でも自由舞台は少しおっかないな、ちようどそこにある「めるへん」くらいが手頃かなという程度のことで。学生劇団はムチャクチャな動機の者たちの集まりですが、めるへんたるや、プレヒト劇を上演しようとしていました。わずか五、六人しかいない劇団なのに二十人ちかくもの新入生を収容。おまけにこちらが知りもしない芝居をやるうとする。このときには、私の高校の同級生Yさんも誘われていて、なんと彼女は予定されていた「セチュアンの善人」の主役へと抜擢されることになりました。みな大変だったにちがいないのですが、とにかく、長いセリフを覚えて(私やFは大した役でもなかった)夢中で演劇なるものに飛び込んだのでした。ところが、その大奮闘公演の直前になり、〇隈講堂バリエード封鎖。なんのことはない、パリスは歓迎だが、自分たちの公演が出来ないではないか。ここで何の

手もなく、わが劇団めるへんは雲散霧消の道をたどることになりま
す。なんともお粗末な次第ながら、
これが、わがなりそこない役者人
生のスタートなのでした。まだ十
八歳ですよ、関田監督。それ以来
まるでしょうもない自称演劇人な
のです、私は。

ですが、これがその後に関立っ
たこともあります。学生同士で取
り組んだ、いろいろな演技術勉強、
エチュードです。その少し前の時
代なら「ジェスチャー」が人気T
V番組でしたが、これに近いこと
題目を自分の好きなようにやって、
さんざん仲間たちから文句を言わ
れる、他人のときには好きなよう
に批評する。思い出しても、何だ
かよくわからないエネルギーに動
かされていました。こんな体験は
五十年経ってから、夜の巡回警備
中にふと出てきます。今度は○□
のつもりでやってみよう。△×で
はどうかな、なんて思わぬところ
でエチュードしているんですよ。
それは同行の相棒などにはわから
ずにいます。私の演技力がまさっ
ているのか、多重人格者だと思わ
れているのか、正解は不明ながら
〈報告 三〉もはや私も二十九歳と
なりました。ここは当時、社団法

人NN協会。私は出版編集者とし
て採用されたところです。新卒で
はありませんが、この組織ではこ
れが当たり前の採用なのでした。
即戦力ということですね。そして、
入職一日目。何があってもいきな
りだという時に、専務理事H氏の
執務室へご挨拶に連れて行かれま
した。ここで氏の開口一番、「いい

ですか、日本をここまでにしたの
は私たちです。あとは、あなたた
ちがやるんですよ。雷に打たれる
というのはこういうことなのかも
知れませんが、入職したばかりの
へなちょこエディターには十分ず
ぎるほどのショックです。まさか、
こちらが演劇しそこないのやから
とご存知でもないはずが、こと私
にとつては、この上もなく劇的な
衝撃なのでした。この気分で働け
るものならと、それからは何とし
てもこの「司令長官」の示すところ
を共にしてみたいと、三十歳台
の私は務めたのです。まったく、
劇的衝撃という意味では、思わぬ
ところで自分がつかまってしまっ
たものですが、こんな周回遅れの
「軍隊体験」が気に入ってしまっ
たこともたしかです。私は相当に、
軍人もどきの気分を持ちました。
(現にH氏など旧軍関係者多くあ

り)それで、二十年ほど経って、
まったく不本意な事態になっても、
長く組織に居続けざるを得なかつ
たのかも知れません。何もなくて
も、「N」と名のつくところが自分
の居場所と思いかった。その重
力圏をやつとの思いで脱出したの
が五十五歳のときですから、こり
やもうすっかり無力になっていた
ことでしょう。あの時も、TV局
勤めのFに「辞めるな！」と言わ
れたのでした。経営の一角に位置
していた友人にそう言われても、
私にはもう自分のつまらない気持
ちしか見えません。自分勝手な思
い込みで居続けた組織で、まるで
麻酔の切れてしまった手術中の患
者のように脱出を試みます。そし
て六十歳過ぎてたどり着いたのが
現職でした。「Fよ、めるへんでの
エチュードのときのように、も
う出来ないのか」。

〈報告 四〉警備員室の鍵をめぐつ
て、ひと騒動起きています。六名
のメンバーがその入口ドアの鍵を
それぞれ持っていたのですが、そ
れがおかしい、となったのです。
たしかにおかしい。鍵はせいぜい
一本だろう。でなくては意味がな
いと。これは、いきさつも知らぬ
過去から、その便利さを踏襲して
今日まで十年以上も伝わって来て
しまっている事態なのでした。も
しろん、そのための事故など起き
てはいません。ところが、その経
緯もはや分らず、規則にそむく
と判定されれば、その通りなの
です。客先からも自社からも、何の
説明も受けることなく、善意のジ
イさん警備員たちはみなそれぞれ
に理由をさがしながら、ぎくしゃ
くとした関係を持たなくてはなら
なくなりました。おかしいこと
です。大事なところでパイプがつま
っています。当事者たちの運用で
うまく動いていたところへ、ある
とき横風がまことしやかに吹き込
んできて、思わずも、あつたはず
の仲間意識がゆさぶられる。いや
はや、つまらんことになりかかっ
ているわが警備員室。ここには劇
的処方が期待出来るわけでもなく、
次回の報告が出来るかどうかすら
危ぶまれます。どうか成り行きを
気にかけてください、関田監督。

×

×

×

クラシック映画の森へ

森田洋一

●マニアックなもの

「第七の十字架」(1944・米)

原作は、ドイツ抵抗文学。本だけでも、内容がとても充実している力作。「山河遙かなり」「わが命つきるとも」「真昼の決闘」「地上より永遠に」「ジャッカルの日」「ジュリア」といった反戦人間ドラマでは一級品のフレッド・ジンネマン初期の傑作。主演に、名優スペンサー・トレシー、必見の作品。冒頭シーンが強制収容所からの脱走、1936年第二次大戦前、ナチスに逆らう抵抗者は、容赦なく収容所へ。町中に密告者がいる。

横丁のおかみさんも元気な少年もナチス大好き。当然、脱走者には懸賞金がかけられるし、親衛隊に追われる者には、誰も同情せず高みの見物。といった絶望の中、生きるとは、をストレートに問いかける。そして、スペンサー・トレシー、生気のない表情から、段々と過去の記憶を取り戻すまで、見事な演技。

ナチス政権になって給料があがったと喜ぶ親友がこの物語のキーマン。

さて、元婚約者、逃走中で会うトラックの運転手、手当をするユダヤ人医師、親友、親友の職場仲間、宿屋の女性、などなど、誰が裏切り、誰が真の味方か、ラストでおさらいできる。

当然、第七の十字架の意味もわかる。正しいことをやれ、そして生きろ、これがテーマの傑作です。

「戦慄のスパイ網」(1939・米)

原題が、ナチ・スパイの自白。アナトール・リトヴァク監督、30年代から50年代に、結構名作を残している監督。有名な作品では、「うたかたの戀」「私は殺される」「追想」「さよならをもう一度」など。

主演が、エドワード・G・ロビンソン。FBI捜査官の役。ジェームズ・キャグニーとエドワード・G・ロビンソンは、ギャングもFBIも、どちらの役もうまく演じる役者さんと思う。

冒頭のシーンから、前半の数々の場面は、全て伏線になって、後半やラストへつながってくる。派手なシーンはなく、論理的な謎解きパズルのような展開。舞台は、ナチスドイツが台頭する前の、アメリカ。すでにナチスの活動がアメリカでも繰り広げられ、現状に満足しない人が、民主主義を捨ててナチスに傾倒していく姿もみられる。アメリカから、ドイツへ強制送還されることが、一番恐ろしい罰であることが皮肉。当時、ドイツ人全てが、ナチス歓迎でないこともわかる。アメリカでのナチス集会、というシーンは、レア度が高いように感じる。まず、描かれることはないと思っていた。リアルな世界観を垣間見る作品。

「暁前の決断」(1951・米)

ドイツの捕虜が逆に母国を探りにいくといった設定が面白いです。オスカー・ウェルナーという俳優、「愚か者の船」で医者役を演

じた俳優さん、準主役なのに、出番が一番多いです。雰囲気、若き日のリチャード・アッテンボローに似てると感じました。作品自体、ドイツがどのようになっているかが主軸で描かれています。敵と味方、何が正しいのか問いかけてくる作品。ナチの親衛隊が、ドイツの国内でも敬遠されていた、なにかしでかすと大変、といったこともよくとらえていると思いました。

監督はアナトール・リトヴァク。

「ダーク・ストレンジャー」(1946・英)

若き日のデボラ・カーが、独特のセリフの言い回し、気が強いアイリッシュ女性を演じます。相手役に、イギリスの名優、トレヴァー・ハワード。

この作品、アイルランド独立戦争、第二次世界大戦中のアイルランドの立ち位置、カトリックとプロテスタント、北アイルランドがイギリス領で同じ島に国境がある、こういった背景がわかると、理解が深まると思います。

「ミュンヘンへの夜行列車」(1940・米)

レックス・ハリスン、「マイ・フェア・レディ」の俳優が、ユーモアあるイギリス人、ドイツ人っぽい将校をうまく演じている。戦時下だから、できた作品。

「第三の男」(落ちた偶像)のキヤロル・リード監督。「バルカン超特急」のマーガレット・ロックウッドがチェコ人のヒロインを演じる。

「ベルリン特急」「バルカン超特急」「ミュンヘンへの夜行列車」、列車ものサスペンスではお薦め。

「ラインの監視」(1943・米)

ポール・ルークスという俳優がアカデミー主演男優賞受賞、どちらかというと名脇役タイプの俳優の印象が強い。そして、名女優ベティ・デイヴィスが落ち着きある安定した演技をみせる。

クラシック映画の音楽では、一級のマックス・スタイナーの音楽が冒頭から引き込むような感じ、主人公が転居を繰り返して、物語の舞台となるアメリカへきたということが、あるシーンで予想できる。

戦火のヨーロッパとアメリカで

は、第二次大戦のとらえ方が異なることが展開が進むにつれて、観客は理解していく構成になっている。

物語のポイントは、皮のカバン。そこに何が入っているか。

一貫して訴えたいことは、正義と思うものを信じて、抵抗していく精神。平和な未来を作るために私たちは戦うというメッセージが強烈に伝わってくる。

●ハンフリー・ボガート

(1899~1957)

「渡洋爆撃隊」(1944)

回想録の中に回想、また回想と



何重にも物語が展開して、伏線を回収する作り方。ほとんどが、「カサブランカ」の俳優で、ヒロインがイングリッド・バーグマンからミシェル・モルガンにかわっています。車に乗った回想シーンまで「カサブランカ」に似ている。第二次大戦中、ペタンのようにドイツ

に懐柔するか、ドゴールのようにレジスタンスにまわるか、そんな決断が、ギアナの刑務所、洋上の船で展開される。ピーター・ローレが味のある脇役を演じています。「M」という作品が有名な俳優。

「夜までドライブ」(1940)

フィルムノワール第一人者の一人、ラオール・ウォールシュ監督。

主演がジョージ・ラフトとハンフリー・ボガート、ヒロインにアン・シェリダン、悪女にアイダ・ルピノと面白い顔合わせ。「ヘッドライト」のハリウッド版の印象。真面目に働く、トラックの運転手を描いています。

「背徳のナポレオン」(1939)

ハンフリー・ボガートがギャングのボスを演じています。ナポレオンの言葉をしばしば劇中引用するから、このタイトルかと。展開はみえてドキドキするものの、考えてみると、すごく間抜けな感じのギャング。

●オリヴィア・デ・ハヴィランド

(1916~2020)

「蛇の穴」(1948)

女性の精神病院が舞台です。オ



スカール受賞(遙かなる我が子)1946)も納得できる素晴らしい演技。残酷な描写や追いつめられる姿がモノクロームの映像に、深く印象に残る一作です。

「国境の南」(1941)

メキシコからの移民を扱った作品。シャルル・ボワイエが相手役、作品をみるとやっぱり悪役は似合わない、善人っぽい感じかなと思います。

女教師役のハヴィランド、悪女は、「征服されざる人々」のポーレット・ゴダードがユーモラスに演じています。ラストは、涙、涙、・・

「追憶の女」(1942)

ハヴィランドのまじめさ、ベティ・デイヴィスの悪女ぶり、2人の息がピッタリ合った作品。「ふるえて眠れ」でも共演しています。

特集

コロナ禍のなかで 2

少林寺拳法シニア流山健康クラブ

主役と脇役

石井宏明

映画の中心は主役だが、脇役なしでは成り立たない。思いつくままに男女を問わず、順不同で名脇役を挙げてみると、故人の堺駿二、左卜全、殿山泰司、大滝秀治、大杉漣、田中邦衛、沢村貞子、菅井きん、樹木希林、現役では橋爪功、笹野高史、石橋蓮司、岸部一徳、六平直政、松重豊、伊武雅刀、平田満、國村隼、リリー・フランキ

し、六角精児、小日向文世、田口トモロヲ、光石研、遠藤憲一、イッセー尾形、きたろう、竹原ピストル、余貴美子、キムラ緑子、高畑淳子、片桐はいり、などなど。また、かつては主役を張りながら、晩年脇役として新境地を開いた故嵐寛寿郎や故三國連太郎が脳裏に浮かんでくる。いずれもお馴染みの脇役俳優である。

外国の映画はどうしても主役中心に観てしまうので脇役まで目が届かない。

主役と脇役の関係は、映画や演劇の世界だけに留まらず全ての社会に通ずるものであろう。例えば社長と重役、医師と看護師、夫と妻（いずれにもなり得る）、食事で主食と副食、いずれも主役だけではその任を全うできない。主役を支えて生かす脇役の存在は欠かせない。顔で言えば主役は目である。コロナで街を歩く人もほぼ百パーセントマスク着用である。

「目は口ほどに物を言い」と昔から言われるが、道で知人に挨拶されても、目を見ただけでは誰だかわからない。マスク美人ということばがあるのか？寡聞にして知らないが、「夜目遠目笠の内」にマスク顔も付け加えたらと思う。女性

がみな美人に見えるのである。レストランなどで食事の時、初めてマスクを取ると想像していた顔との格差に愕然とすることがある（笑）。それだけに脇役である鼻や口、そして顎などは重要なのである。映画界でも脇役の存在は大きい。

福本清三という大部屋俳優は「ラストサムライ」にも出演した斬られ役専門の役者である。巷では五万回斬られたと言われているが、本人曰く「実際には二万回ぐらい」だそう。

それにしても大したものである。彼の脇役としての心得は、まずは主役を引き立てることであり、その上で自分を出すことであるという。彼の得意なえび反りなどはその最たるものであろう。水戸黄門も助さん格さんがいなければさまたまらないし、横綱の土俵入りも露払い、太刀持ちがいてこそ重みを増す。

私が脇役で最も注目するのは、映画「寅さんシリーズ」の脇役陣である。勿論主役は寅さんを演ずる渥美清であるが、その周りを囲む脇役たちがオーケストラを奏できるように、寅さんを中心にその各々の個性を発揮している。マドン

ナ役では最多出演回数を誇る浅丘ルリ子を始め歴代のマドンナは準主役であり、また寅さんにとって欠かせない脇役でもある。寅さんの家族や親しい隣人の顔触れも、竜造は森川信、松村達雄に次いで三代目、甥っ子の満男は少年時代の中村はもとに続いて二代目だが、残りのメンバーは初出演からほとんど変わっていない。まずは兄思いで明るい性格の清楚で働き者の倍賞千恵子演ずる妹のさくら、その夫で寅さんを義兄として常に立て、少々理屈っぽい博の前田吟、その二人の息子で寅さんを伯父さんと慕う素直な性格の満男の吉岡秀隆、とらやの六代目主人で寅さんの叔父にあたる少々短気な竜造役の下條正巳、その妻でおおらかで涙もろい典型的な下町のおばさん、つねの三崎千恵子、桂梅太郎という立派な名前があるが、寅さんに「タコ、タコ」と馬鹿にされ、時に寅さんと取っ組み合いの喧嘩もするタコ社長の太宰久雄、帝釈天の住職でいつも背筋をピンと伸ばしている御前様の笠智衆、そして寅さんの後ばかり追いかける子分のような寺男源公の佐藤蛾次郎、その脇役陣が時には寅さんと対等に向き合い、その存在感を遺憾な

「少林寺拳法シニア流山健康クラブ」（代表者＝石井宏明）は、一般財団法人少林寺拳法連盟の管轄下にあり、少林寺拳法の技法のエッセンスを取り入れた手軽な運動により、健康増進を目的として活動しています。流山市立常盤松中学校・武道場で週2回（火曜・木曜、夜7時から1時間半）、流山市コミュニティプラザで週1回（金曜、朝10時から1時間半）練習しています。

く發揮している。

翻って人の一生を考えると、主役がいて脇役がいてお互いに認め合い生かし合うことはスクリーンの中だけに留まらない。

私はこれからも主役だけでなく、脇役にも目を配りながら、映画鑑賞のよすがにしていきたいと思っている。

午後のテレビ洋画劇場

土田博志

1、2、3、4、5、6、7、8、9。

この数字は、私の居住地で放送されている地上波デジタル放送局のリモコン番号です。

1はNHK総合テレビ、2はNHK教育テレビ、3は千葉テレビ、4は日本テレビ、5はテレビ朝日、6はTBS、7はテレビ東京、8はフジテレビ、9はTOKYO MXテレビです。

リモコン番号、放送局などはそれぞれ地域によって異なるようです。

少し前には、月曜ロードショー、ゴールデン洋画劇場、木曜洋画劇場、金曜ロードショー、日曜洋画劇場など、どこかの局で定期的に映画番組が放送されていました。

そして、必ず番組の始めか終りに映画評論家が、さまざまな角度から背景、みどころなど解説していました。

芥川也寸志氏、荻昌弘氏、木村奈保子氏、小森和子氏、水野晴郎氏、淀川長治氏等の多彩な顔触れでした。

「いやあ映画って本当にいいもんだですね」「さよなら、さよなら、さよなら」「あなたのハートには何が残りましたか」などの名フレーズが思い出されます。

昭和39年東京オリピックが開催されたのを境に、白黒テレビからカラーテレビにかわり始め、技術の進歩、品質向上、大量生産で安価に市場に出回り、景気も好調な事もあり普及しました。

我が家でも、こげ茶色でがっちりした家具調のような、カラーテレビがどっかと置かれていた記憶があります。

当時、チャンネルを手で回してガチャガチャといきおいよく変えていたのでチャンネル回転部が摩耗し、部品交換した覚えがあり、それを考えると本当にリモコンで

便利でもう手放せません。

以前、泊まりの仕事をしていたので、泊まり明けは仕事の緊張から解放され、家に帰って横になるのが習慣となっていました。

いつも、「午後のロードショー」の番組が始まる頃に目覚めていました。

今でも、時間になるとテレビのスイッチを入れてしまいます。

最近、2008年制作の「96時間」、2012年制作の「96時間リベンジ」、2014年制作の「96時間レクイエム」が3週に渡り放送されました。

主演は、リアム・ニールソンで脚本をリュック・ベッソンが担当しています。

窮地に立つ、娘や元妻を迅速に救出するため、元CIA工作員のリアム・ニールソンが身に付けた能力を生かしながら、助けだすアクション満載の作品です。

第1作で、船内での格闘場面は、狭い通路で動きが制限される中で、狭さを逆手に取ってカベを利用し、相手を制圧して行くシーンは凄くハラハラしながら見入っていました。

3作品とも、主人公の熱い家族愛、悪に立ち向う姿勢、中年なが

ら体を張って頑張るリアム・ニールソンは格好よく懂れますね。

題材の96時間は、「誘拐事件で被害者が無事でいられる猶予時間」だそうです。

余談ですが、災害では72時間は、災害発生から被災者の生存率で、20〜30%と言われて、いかに早く助けだすかが鍵となります。

今、コロナウイルス感染は、終息のきざしが見えませんが。

私はどうしても感染が恐く、人ごみをさけてしまいますので、テレビの映画番組を見たいと思います。本当は、カットなし、コマシヤルなし邪魔されず映画館の大スクリーンで見るのが一番です。

あたりまえの日常が、早くともどせるように強く願っています。そして、ドリス・デイの「ケ・セラ・セラ」を聴きながら心を軽く安定させたい。最後にコロナウイルスに鉄槌を、オリヤー。

×

×

×

『タイタニック』

大築 猛

映画が始まると最初にスクリーン上に、当時のタイタニック号のセピア色の出港映像が現れます。そして1912年に実際に起きた当時最大級の英国豪華客船タイタニック号の沈没から、84年後の1996年の洋上から物語は始まっています。

タイタニック号最大の秘宝といわれるハートシェイプの56カラットの、『ブルーダイヤモンド』『青き海の心』(The heart of the ocean)を、トレジャーハンターは小型潜水艇を使って3、800mの深海に眠るタイタニック号内の探索を行っていました。そして、上流階級女性が搭乗していたと思われる1等船室の部屋から一つの金庫を発見します。歓喜に包まれるトレジャーハンターは金庫をこじ開けたものの、中にあつたのは彼らが探していた宝石ではなく、古ぼけたスケッチブックだったのです。皆に失望感が漂います。しかし、そのスケッチブックを丁寧に洗っていると、中から古ぼけた美女の裸体

が浮かび上がり、その胸元には『青き海の心』らしきダイヤモンドが身に付けられていたのです。そして、この情景はテレビで放送されており、ロクロを回して器を作っていた老女が、その放送を聞いていましたが、急に、手が止まり、「その絵は自分」だと名乗り出ました。こうして、彼女の口から悲惨な事故と、思いもよらない物語が語られることになりました。

なんと老女は沈没事故から奇跡的に生還し、今では100歳を超えるその絵のモデルだったのです。さて、タイタニック号は、1912年4月10日正午きっかりに、多くの見物人や見送りの人々の歓声に包まれて、イギリスのサウサンプトン港から2、224人の乗員乗客を乗せ、6日間の予定でニューヨークへと向けた処女航海に出発しました。

上流階級の令嬢だったローズ・デウィット・ブケイター(ケイト・ウィンスレット)は、婚約者のキャルドン・ホックリーと彼の結婚を一方的に決めたローズの母らと一緒にタイタニック号の1等船室へと乗船しますが、半ば強制された婚約に気分は晴れないでいました。ブケイター家は破産寸前

で母親がホックリー家の財産を目当てにしたものでありました。

一方、画家を目指している貧しい労働青年のジャック・ドーンソン(レオナルド・ディカプリオ)は、新天地ニューヨークでの成功を夢見て、出港直前にポーカーで3等船室のチケットを手に入れ、友人のイタリア青年フアブリッツィオと共にタイタニック号に乗船していました。

ローズは、母が強引に決めた結婚が嫌で、船の舳先から飛び降りようとしていたところを、ジャックに助けられます。二人は運命的な出会いを果たします。ローズはジャックの絵がとても気に入り、彼を晩餐会に招待しましたが、上流階級の人々はジャックを見下すようなことばかりを言います。ジャックが舳先で海を眺めているところに、ローズが謝ろうと近づくとジャックは彼女の目を塞いで体を支え、船首の柵にローズの足をかけさせ、ジャックがその後ろから両手を広げさせ、目を開くようにいいます。そこには、まるで空を飛んでいるかのような美しい大海原が広がっていくこのシーンは感動ものです。二人は身分を越えて惹かれ合っていくものの、婚約者

のキャルドンとの結婚が破談になれば、一家は破産してしまうためローズは悩みました。ジャックは、美しいローズの裸体の絵を描きます。そして、互いに惹かれ合い、まったく身分の違う二人が恋に落ち、様々な障害の中、強い絆で結ばれていきます。

しかし、航海4日目の4月14日午後11時40分、北大西洋上の波一つない水平線の向こうに、見張り員はぼんやりとたたずむ白い影を発見する。それはタイタニック号の針路に横たわる巨大な氷山の姿だったのです。「正面に冰山!!」。見張り員から直進すると冰山に衝突すると報告を受けた一等航海士は取舵一杯をとり、エンジンをは「逆回転させて後進全速」の号令をかけ、衝突を回避しようとしたが、すでに手遅れであった。タイタニック号は氷山の横をかすめるようにして衝突してしまいました。衝突の激震の瞬間を目撃し、船室へと戻った二人だが、徐々に傾き始めた船内で、ジャックはローズとの関係に嫉妬した婚約者のキャルドンから宝石泥棒の疑いかけられ、浸水しつつある船底の船倉へ、手錠を掛けられ繋がれてしまいま

特集

コロナ禍のなかで

2

す。船内に破損箇所から浸水が進んで徐々に船体が沈み始め、船全体がパニックに陥ります。救命ボートが用意されましたが、全乗客のわずか半数に満たない数の救命ボートしか積まれていなかったのです。まず、女性と子供、そして1等船室の客が優先されました。ローズも救命ボートに乗るよう促されますが、母と婚約者を振り切り、別れを言い残して立ち去ります。ジャックを捜すために船内を駆け回り、海水の押し寄せる3等区画へと駆け出して行きます。船倉に繋がれたジャックを見つけ出したローズは、手錠を斧でたたき割り、二人はすぐに甲板へと向けて逃げ始めますが、どの階段に通じるゲートも格子戸で閉ざされていて開きません。近くに散在する調度家具で壊し、辛くも甲板へとたどり着くことができましたが、たどり着いたその甲板上は、残り少ない救命ボートを巡って修羅場と化しつつあったのです。甲板に出た二人は、残り僅かな救命ボートに近づきます。「女性と子供が乗るように！」と叫ぶ乗務員に、ジャックは強引にローズをボートに

乗せますが、救命ボートが下げられていく途中で、タイタニック号に飛び移ってしまいます。再び、会えたローズは「飛び込むときは一緒でしょ！」と言って熱いキスを交わし、二人は船尾の方へと向かいます。そんな中、今まさに、沈み行くタイタニック号の船上で、乗客を落ち着かせようと、最後まで演奏を続けたバンドメンバー達は、演奏を中断しませんでした。そして、楽長は、「諸君、今夜、君たちと演奏できたことを光栄に思う」と言って、最後の曲、賛美歌「オールド・マム」を演奏しながら、それは最後の時が近づくのを待っていたのです。ボートから飛び移ったローズとジャックが熱い絆で結ばれたシーンと、勇敢な音楽家たちが命を削って音を奏で、現場の人々を勇気づけたシーンは涙腺を崩壊させました。

多くの乗客を残したまま船は大きく傾いた状態で沈み始め、人々は海に投げ出されていく中、ローズとジャックが最初に出会った、甲板の先端に逃げ延びていた二人は、手すりに決死の覚悟で捕まりますが、重量に耐え切れず沈んでいくタイタニック号と共に海中へ落ちていきます。ジャックとローズは船の残骸にしがみつきのながら、暗闇の中で救助を待ちます。周囲は深い闇に包まれ救援の姿は見えませんでした。真冬の海は二人の体力をどんどん奪っていきます。ジャックはローズに「必ず生き延びると、約束してくれ！」と言い、船の残骸の上にローズを乗せ、彼女の手を握り締めながら極寒の海の冷たさに耐えていました。ジャックとの約束を守り生き残るべく、生きる気力を振り絞ってローズは、近くで見つけた呼び笛を鳴らして自分の居場所を知らせ、一命をとりとめます。しかし、救助ボートがローズを発見したときにはジャックはすでに息絶えており、彼女は「愛してるわ!」と涙を流し彼を海へ葬ります。助けられたローズは、安否確認のため聞かれた名前を「ドーンソン。ローズ・ドーンソンよ!」ドーンソンはジャックのファミリーネームです。相手側の姓を名乗るということは結婚を意味します。ローズはジャックとの愛を誓い、今までの生活を捨てて何にも縛られない生き方をする決意

をしたことを明かします。

ラストシーンは、朽ち果ててロボロのタイタニック号が当時の姿に戻り、あの時計台の前にはジャックが立っています。時計の針はタイタニック号が沈没した深夜「2時20分」。そして周りにいる人たちは沈没で亡くなった人達です。ローズはジャックやタイタニック号に乗っていた人達に祝福されながら笑顔でキスをし、人生を終えるそんな素敵な夢を見ました。バックでセリヌ・ディオオンが歌っている「My Heart Will Go On」が流れています。今でも映画界の名曲です。セリヌ・ディオオンの澄んだ声のエネルギーやビブラートのかけ方は素晴らしいです。

♪Every night in my dreams

I see you, I feel you,

That is how I know you go on

Far across the distance

And spaces between us

You have come to show you go on

Near, far, wherever you are
I believe that the heart does
go on

Once more you open the door
And you're here in my heart
And my heart will go on and
on . . . ♪

全てを語り終えた老女ローズは、こっそりと隠し持っていた想い出の『青き海の心』を海に捨ててしまします。そして、3時間越えの感動の超大作の幕が下ります。

この作品は、タイタニック号沈没の史実を、架空の貧しい青年と上流階級の娘の悲恋を交えて展開させ、前半の運命的ラブストーリー、後半は一転して、パニック映画さながらの緊迫感のある展開で、感動と悲劇をうまく融合させていることと、シーンのバックに流れる主題歌『My Heart Will Go On』がさらに効果を盛り上げていると思います。

当時、世界最大の客船のタイタニック号は、総トン数46、328トン、全長269・1m、全幅28・2m、高さ53m、速力23ノット(42・6km/h)、旅客定員/

1等船室833人、2等船室614人、3等船室1、006人、合計2、453人、乗組員899人、総合計3、352人です。

さらに、1等船室の航海費用は6日間で4、350ドルだったと伝えられていて、1910年初めのアメリカ人の平均月収約500ドルだったので、平均月収の8倍強の高額でした。

タイタニック号の沈没事故は、乗客2、224名、生存者が711名、1、513人が亡くなりました。68%の命が失われています。生存者のほとんどは1等船室および2等船室の乗客で占められていた。装備されていた救命ボートは僅か20艇で、乗船者の半分程度でした。さらに、わずか2時間40分で沈没し、救助にあたった客船「カルパチア」が4月15日の9時15分に最後の1人を救い上げた時は、既に船の沈没から7時間、衝突から実に約9時間半が経っていました。

『タイタニック』はジェームズ・キャメロン監督・脚本による1997年のアメリカ映画で興行収入は、全世界で21・9億ドルに達し、

『ジュラシック・パーク』(1993年)を抜いて当時の世界最高興行収入を記録しました。この『タイタニック』の世界興収記録を破つたのは、やはりジェームズ・キャメロン監督による「アバター」(2009)でした。主にSFアクション映画『ターミネーター』シリーズ、『エイリアン2』を手掛けてきたキャメロン監督が、一転して挑んだラブロマンス大作です。そして、着々とスターの階段を上っていったディカプリオ。しかし、アカデミー賞の主演男優賞に何度かノミネートされながらも、なかなか受賞することができませんでしたが、ついにそのトロフィーを掴むことができたのは2016年、『レヴェナント…蘇えりし者』で主演を務めた19年後でした。

(おわり)

忘れられた戦場

——占守島の戦い

杉山昇

あまり映画を観ない。それにコロナの追い打ちで映画館へは行く

気になれなかった。そんな折偶然にパソコン(YouTube)で「占守島の戦い」関連のアニメ等を観た。「占守島の戦い」帝国陸軍最後の戦車戦(制作者Kimm chan7)、「SHUMSHU」(監督大田原亮、製作公益社団法人日本青年会議所)「占守島の戦い」制作者世界が称賛する日本(本)などだ。いずれも10分前後の作品である。

私はこれらの動画を見るまで、不覚にも占守島の戦いを知らなかった。

これらのアニメや関連動画を観たり、占守島の戦いについて調べたりするうちに、ロシアの傍若無人な行為に腹が立ち、段々と体が熱くなってきた。

日本の終戦は1945年8月15日と誰もが思っている。が実は違っていた。玉音放送後、占守島(千島列島の最東端)の将兵たちも終戦を迎え、酒を酌み交わしながら談笑し懐かしい故郷に帰り家族に再会できることを心待ちにしていた。はしやぎ騒ぐ兵士、負けた悔しさに泣きじゃくる兵士、そんななかには幼い少年兵もいる。しかし、再び武器を手にかいに挑まざるを得なくなった時が来たのである。

る。

ロシア（当時はソ連）は戦後、満州で無抵抗な日本人に対して悪行の限りを尽くし、挙句の果てには何十万人（57万5千人という）もの日本人をシベリアへと抑留した。ロシアの悪行は満州に限らない。戦いを終えて故郷に帰る日本の若者の夢を打ち砕く、千島列島の悲劇までも生み出したのである。どこまでも卑劣なロシア！

占守島の戦いを簡単に紹介する。太平洋戦争終戦後（もしくは終戦準備・戦闘停止期間中）の1945年（昭和20年）8月18日～21日に、千島列島東端の占守島で行われたソ連労働赤軍と大日本帝国陸軍との間の戦闘である。（ウィキペディアより）

ソ連は8月9日に日ソ中立条約を一方的に破棄して対日参戦した。ポツダム宣言受諾により太平洋戦争が停戦した後の8月18日未明、ソ連軍は占守島も奇襲攻撃し、ポツダム宣言受諾に伴い武装解除中であつた日本軍守備隊と戦闘となつた。

ソ連軍が占守島に上陸したとの報を受け、第5方面軍司令官の樋

口季一郎中将は、第91師団に「断乎、反撃に転じ、ソ連軍を撃滅すべし」と指令を出した。師団長の堤中將は、射撃可能な砲兵に上陸地点への射撃を命ずるとともに、池田末男大佐率いる戦車第11連隊に対し師団工兵隊の一部とともに国端方面に進出して敵を撃滅するように命じた。

戦闘は日本軍優勢に推移するものの、軍命により21日に日本軍が降伏して停戦が成立、23日に日本軍は武装解除された。捕虜となつた日本兵はその後大勢が法的根拠無く拉致され、シベリアへ抑留された。

占守島の日本軍の中核である戦車第11連隊は、「十一」という漢数字と「土」という文字の連想から、「土魂部隊」と呼ばれていた。（早坂隆「WEB歴史街道」）

第11連隊は18日午前5時30分に出击し、ソ連軍を次々と撃破。精鋭・土魂部隊の名に恥じぬ奮闘を続け、戦局を逆転させた。しかし、戦車隊の神様と呼ばれた池田末男少将は、この占守島の戦いで戦死した。享年44歳。

おり、爆弾を抱いて敵陣に突っ込む兵士など、自らの命を犠牲にし、日本に暮らす人々たちを大切な家族を守る——その想いのもと、彼らは軍人としての本分をあくまでも全うした。占守島の戦いにおける日本軍の戦力は8、480名、ソ連軍は8、824名、戦死者日本軍256名、ソ連軍516名。

こうした数多の尊い兵士の犠牲のもとに今の日本があることを我々は心に刻んでおかねばならない。

私の終戦記念日

昭和20年8月15日、岐阜でのこと。私は国民学校3年生だった。天皇陛下の詔勅があるというのに私は川遊びに興じていた。疎開先の叔母の家に帰る途中、「おい！日本は戦争に負けたぞ」と聞かされた瞬間、？と思つたがホッとしました。これで毎夜にB29の攻撃もなくて済む！アメリカの飛行機には随分と悩まされ、時には機銃掃射まで受けたことがあつた。それだけにホッとするのは私だけではなかったらう。叔母の家に近づくとき数百人の日本陸軍兵士が叔母の家から流れ出るラジオの終戦解

説に聞き入っていた。これだけの兵士がどこにいてどこから来たのか？やがて彼らは風の如くどこかに消え去った。

数日後、愛嬌を振りまくアメリカ兵士の指示のもと村の若者が零戦と思われる大きなエンジン10機ほどを壊している。何時どこから運びどう隠していたのか？不思議。

それからまもなく学校の廊下におびたらしい通信機器が並べられ、それを私たちに持ち帰ってもよいと校長先生の指示があり、無線機、通信機などを持ち帰り、雨の日などに分解する遊び道具となつた。通信機はいったいどこから、誰が、どう運び、どう隠していたのか？疎開先の村にはそれらしきところは無いと思う。

戦後の不思議の数々。それを知る人は今となつては村にはいない……。

×

×

×

Outsiderの映画事情

門屋 大二

コロナ渦中であって、感染抑止の観点から諸々の行動制約が課され、止む無く巣籠り勝ちで鬱陶しい日々が続いている。これまで当たり前の様に過ごして来た日常生活を有難い事と思う。誰も予想しなかったコロナウイルス蔓延で、この日常を「new normal」とも言える新しい生活 pattern へ切り替えることを強いられている。妹婿・甥二人の身内の医者はコロナ感染危機意識が強く、毎日の様にコロナ感染防止のため細部に及ぶ注意事項を私宛に発信し続けている。二人の娘は78歳の一人暮らしの父親を心配してか、これに輪をかけて過剰に神経質な程の警報を鳴らしている。今や素直に老いては子に従っており、コロナ禍以前では我が生活の基軸であった少林寺拳法流山健康クラブ・仲間との食事会等にも出席出来ていない。社会は感染症の恐怖に怯え、内に籠った不安が鬱積し「忍耐疲れ」から焦燥感さえ見せ始めている。この日常生活の異変で喪失したものは

多々あるが、活発で健康な精神状態を維持するために必要不可欠な要素の一つである「感動」を忘れ勝ちになっている印象が拭えない。「感動」の起爆剤は自然・文化・芸術・文学・・・それぞれに十人十色で多々ある。喪失した必要不可欠なものを本能的に希求することは人間の本性であろうか。筋書き・音響・視覚で観る者を「感動」に誘導してくれる映画芸術は感動回復に欠かせぬものであるうと思われる。無類の映画好きの英語の先生の advice「Netflixなるものの存在をしり、巣籠り中これを通じて映画に浸った時間は以前に増して多かった様に思う。感性の劣化防止・anti-aging」Netflixの有効性を再確認した次第である。関田さんから「シネマ気球」寄稿の案内を頂き、コロナ厳戒下に映画を通じた我が「感動回復」を辿って見たが、一夜漬の悪習は依然変わらず、今回もDead Line 10分前の投稿となり、編集者に多大のご迷惑をかけることになったことをお詫び申し上げる次第です。映画Outsiderを自認する身で彼方此方に見当はずれが多いことを懸念しつつも投稿の蛮勇振ったことをご容赦方お願い申し上げます。

○「マイ・インターン」(Netflix)

主人公ベンは退職後悠々自適の生活を送っている。幕開けは公園でゆっくり太極拳を楽しむ典型的なシニア・ライフを象徴する風景。溜ったマイレージで海外旅行・ゴルフ・読書・映画・トランプ・ヨガ・料理教室・園芸・中国語レッスンに励むが、何処かに満たされない感覚が生じ始めた時、偶々スパーの張り紙で「65歳以上のインターン募集」広告を見る。募集主はインターネットを駆使して急成長したアパレル業界で活躍する新進気鋭の女性社長ジュールズ。ベンは早速自己PRビデオで応募し面接試験を受ける。4人のインターンが採用され、ベンは社長ジュールズ直属のインターンとして配属される。社長との最初の面会でいきなり「転属希望」を問われる程に殆ど無視された状態で当面の「実務」なしでスタートするが、次第に経験あるシニアインターンの知恵が随所に働いて来る。ベンがオフィスで懸案となっていた書類山積みのデスクをきれいに整理して社長以下社員の注目を引き感謝されたことを皮切りに社長のジャケットの紙魚取り等々地味だが有

効なベンの働きに社長以下ベンを見る目が変わり始める。社員の悩みに対しても適切なadviceが続き、ベンに対しても信頼も高まって行く。この頃ジュールズはベンの細部への気付き様が敏感に過ぎやや煙たく感じられ、ベンの所属移動指令を出す。理由は「too observant」。社長用車の運転手が出発前に飲酒するのを見て危険と思いベンが社長車代理運転を買って出て人知れず事故を未然に防ぐ。車中の社長との会話で会社の事・家庭の事・子供の事等相互の理解・信頼が徐々に深まる。ベンの働きで社内の人々が彼方此方の懸案事項が少しずつ改善されて行く。ジュールズがベンのフェイスブック登録を手伝って応援した時、ベンのモットーが「正しい行いは迷わずやれ」であることを知る。社長はベンが必要不可欠の人材であることに気付き、謝罪して移動指令を取り消し社長付のインターン継続を要請する。社長に認められていないと言う社員に鬱積する不満解消にもベンの経験・知恵が有効に働く。社長が母親に「you are a terrorist.」と言うmessageを誤発信してしまい、もし母親が読めば親子関係が決定的に断絶しかねない状況でベンを

中心にインターン4人組が活躍をし母親のPCから当該の文書削除に成功し、ジュールズの絶体絶命の窮地を救済したことでインターンチームに対してジュールズは心からの謝意を表明する。驚異的な急成長で彼方此方に表面化して来た組織上の整備・補強の必要な社内を社長は絶滅危惧種に貴重で最高の友人とも認識する。ベンは無くてはならない存在として評価されつつ活動の場を広げて行く。社長一人で会社を背負う負担の大きさを軽減するためCEOを採用する案が浮上して、社長ジュールズとベンがCEO候補と面接のためサンフランシスコに向かう。サンフランシスコ行きの中、ベンとジュールズの公私にわたる会話が弾み、会社を牽引するエンジン役のジュールズとこれを支援する補佐役のインターン・ベンの間で信頼が一層深まり、お互いが協力して助け合う体制が確固たるものになる。劇中歌「You were meant for me」は印象的に快く響く。この間ビジネスに燃えるジュールズとこの活躍を家庭で支えることに

専念する主夫の間にも夫の浮気が露見して夫婦間に離婚の危機が迫るが、ベンの経験と知恵の溢れるadviceで解消する。最後のシーンはベンが休暇を取って太極拳に興じている所へジュールズも加わり、二人の笑顔は二人で交わした風刺の効いたユーモアを思い出させながら、シニアが如何に輝くかと言う問いかけに一つの解答を示唆する終幕となっている。レイ・アームストロングが歌う「What a wonderful world」が聴こえてくる様な余韻に浸った一時を楽しんだ次第。

○「グリーンブック」(Netflix)

黒人の世界的ピアニストDr.シャリーとイタリア系市民の専属運転手トニーがアメリカ南部の演奏旅行を通じて人種差別の現実直面しながら相互の信頼と友情で克服していくと言う実話の映画化。この稀有な才能を持つピアニストは種々の学問分野で博士号を持ちDr.と称されている。一方NYの一流のバー・レストラン「コパカバーナ」で用心棒として働くトニーは揉め事を收拾したり暴力沙汰を

仲裁したり、ヤクザなトラブルシューターとしての活躍ぶり。トニー家はイタリア系で陽気な大家族。種々の稼ぎに明け暮れ、トッピング付きハンバーガーの大きい競争で26個を平らげ50ドルの賞金を稼いだり、腕時計を質入れし50ドルを借りたりなど、行き当たりばつたりのその日暮らしぶり。こんな時シャリーが南部演奏旅行の運転手募集広告を出す。トニーがこれに応募し、カーネギーホールの上階のシャリーの自宅で面接受験。先ず人種差別の厳しいDeep Southの演奏旅行に出ることや黒人との仕事に違和感がないかとかが確認され、今回の仕事は休みの無い8週間の長期に及ぶこと従ってNYへの帰りはクリスマス頃になる事や身の回りの世話・運転・スケジュール管理を含むことが言い渡される。給料は希望通りとすることが約束され、黒人が南部を旅行する時人種差別故のトラブルを避けるために遵守すべき事項を記載した「Green book」を渡される。出発当日の朝トニーの妻から旅の道中電話代は高いから必ず手紙を書くこと、クリスマスに帰る

ことを約束させられる。ピアノがシャリー、チェロがオレグ、ベースがジョージのチーム、シャリー・トリオが揃って南部演奏旅行へ出発。ピアノがスタンウェイであることを必ず確認することをシャリーに念押しされる。トニーとシャリーの会話がなかなか噛み合わないままピッツバーグ着。差別の残る都市に來るとシャリーの行動範囲が制限され、夜には部屋のベランダで孤独で物思いに沈む姿を目にするにつけ、トニーは現実社会の根強い伝統的差別慣習を目にしてあらためて驚くと共に認識を新たにす。聴衆の上流白人社会にシャリーは異様に気を遣う。トニーはシャリーのピアノ演奏を聴きその素晴らしさに圧倒され吃驚仰天し、天才であると確信する。俺には負けはないなどと嘯き賭け事に興じるトニーをシャリーが嗜める挿話も。オハイオ着。妻への手紙で「アイツは天才だ」と伝える。車中で当節流行の曲をシャリーに聴かせる。インディアナ州ハノーバー着。トニーは会場の下調べでピアノの中にゴミが散乱しピアノがスタンウ

エイでない事を見て、シャーリーの指示通り強硬に取り換えさせる。シャーリーがバーで殴り倒され袋叩きにされる事件が発生した際、トニーが現場に急行しピストル所持の真似をしてならず者を威嚇しやっとシャーリーを無事に救出。トニーは「これからは俺と共に行動しろ」とシャーリーに注文を付ける。道中車がオーバーヒートし、黒人ボスのため甲斐甲斐しく働くトニーの様子を農作業中の黒人が怪訝そうに見ると言う逆差別の風景も。ノースカロライナ着。メイ・デイツシュとしてシェフが考え抜いたメニューとしてケンタッキーズ・フライド・チキンが紹介される。道中でトニーがシャーリーに食べさせ味を覚えさせたものであったので二人して破顔一笑。シャーリーがトイレ差別を受けトニーがひと騒ぎして収拾。妻への手紙にシャーリーが言葉を選び指導して見違える程ロマンチックな手紙に変貌。ジョージア、メイコン着。シャーリーが黒人故に服装店で執拗な試着差別を受ける。メイコン警察からの連絡でシャーリーが裸で拘留されていることを知らされる。トニーが得意の口から出まかせの出鱈目で警察を誤魔化し釈放。

テネシー州メンフィス着。トニーの黒人差別主義の友達に会う。黒人をボスにしているトニーを見て仕事なら世話するぞとの誘いをトニーが断固拒絶。これを見たシャーリーは「正式なツアーマネージャーとして雇いたい」旨申し出る。シャーリーとトニーの語らいの際トニーがしみじみと「この世は複雑なことは良く分かっている。Dr. がクラシックに拘るのは大間違いで誰にも真似のできないシャーリー独自のピアノを弾け」と忠告。アーカンソー州リトルロック着。パトカーに追尾され止められ、どしゃ降りの雨の中外に出される。「黒人の夜間外出禁止」が拘留理由。ボスが黒人であることを口汚く罵る警官をトニーが殴り、二人とも留置される。シャーリーが弁護士に電話をかけた旨申し出て「その権利があること」を警察署が認めこれを許す。シャーリーはロバート・ケネディ司法長官に電話し、これを受けた司法長官は州知事に釈放命令を発令。警察署長以下署員の今までの大威張りや乱暴な扱いは一変して二人を釈放して一件落着。トニーはシャーリーの司法長官との親しい間柄を知り、改めてシャーリーが国を代表する著名

人であることを認識する。黒人専用ホテルでトニーは妻へ手紙を書くが、シャーリーが内容も表現も完璧と評価する。シャーリーの指導でトニーの筆力改善が顕著。バート・ミンガム、アラバマ着。演奏者でもVIPでも黒人故にレストランで食事が出来ないと言う伝統的な差別ルールに直面。過去にナット・キング・コールでさえ食事が出来ず袋叩きにあったとか。シャーリーは強い決意を示し「9回裏、ここで食事出来ないなら演奏を断る」と黒人専用のレストラン「オレンジバード」に向く。オレンジバードでトニーはシャーリーを「世界一のピアニスト」と紹介し、バンドマンも加わってピアノ・バンドで盛大なジャズセッションが始まる。オレンジバード全体が熱狂し演奏者・聴衆が一体で音楽に浸る。数々の黒人差別の現実を乗り越えて南部演奏旅行の全日程を終了し、NYのクリスマスに間に合う事を願いつつ帰途に就く。激しい吹雪の中車でトニーは疲労で熟睡してしまい、代わってシャーリーが運転してトニー家着。トニー家の賑やかなクリスマス祝会にシャーリーが登場。トニーの妻ドロレスと抱擁し「ご主人を長く

拝借しました。今お返ししましたよ」と感謝を込めて挨拶。黒人ボス、シャーリーと専属運転手の友情は最初は危うかったものの、数々の根強い人種差別の試練を乗り越えて確固たるものになって終幕。「deep south」演奏旅行はアメリカの患部を赤裸々に照らし出した「人種差別物語」であったが、曲折を経て明日のアメリカに微かに「希望」が見えた様な。

Outsider の映画事情

Outsiderにも多くの記憶に残る映画を思い出しつつ、ベルリン映画祭で浜口監督が「偶然と想像」で銀熊賞受賞と言う最新情報も伝わってくる。若かりし日強く印象に残った黒沢映画「用心棒」羅生門「七人の侍」天国と地獄「椿三十郎」「生きる」・・・や小津安二郎の「東京物語」への郷愁を感じつつも同時にもう一人の黒沢(清)の「スパイの妻」にも興味を惹かれる。映画outsiderながら最近では最新の「映画情報」にもやや敏感になって来た。映画の見方は年齢と共に変わって行く様に思う。石庭には見えない石が配置されておりこれを心の目で見ると言う。達人・配置されていると言う。達人

禁止していた世界を描いていたな
 と思い出しました。
 この映画を見た時は発想が面白く、本という象徴から訴えていることや、画面から出てくる緊張感がすごいなと思っていました。原作、『華氏451度』がタイミンが良く6月にNHKテレビの「100分de名著」に取り上げられました。本のほうは『華氏451度』と度がはいります。映画のほうは『華氏451』で度をつけていません。意味があるのか、見やすかったのか、ただ忘れただけなのかわからないですがうんちく好きには興味あります。フランソワ・トリュフォーは原作では交通事故で亡くなった主役の1人を生きた形にして作っています。他にも変更はあるようです。普通映画のオープニ

ングでタイトルや出演者他を紹介するのは字で出てきますが、本を所持できない世界を描いたこの映画では字はなくすべて読み上げました。「100分de名著」は本を紹介する番組ですが、解説の哲学者、戸田和久氏は初回の番組の初頭で映画のほうが好きだと言っているのは面白いです。中学生の時のこの映画をテレビで見て感銘を受けたそうで、その後ビデオやDVDで繰り返し見たと言っています。ディストピアを描いているということ、希望のない世界でユートピアの逆です。本を禁止されたこの社会では皆が同じ思考になるのが幸せと考えています。作者は問題を投げかけています。本を読めない世界ではテレビが重要な位置を占め、テレビ依存症と考える人達

が出てきますが、それは現在のゲーム依存症であったり、SNS依存症であったりもします。原作は1953年、テレビがアメリカで普及し始めたところに問題を書いているのがすごいとも。日本では1953年1月にやつとシャープが国産第一号のテレビを発売し2月にNHKがテレビ放送開始なのでテレビを知っている人はほとんどいなかったころと思います。「華氏451」ですが2018年にテレビ映画としてアメリカで新たに作り直され公開、同じ年日本では映画ではなく舞台化され公開されていました。演出は三谷幸喜作品に多数出演している俳優であり演出家の白井晃氏、上演台本は長塚圭史氏、常盤貴子さんの旦那さんです。YouTubeで予告編を

見る事ができ、舞台ならではの気持ちに伝わってきます。再演したら見に行きたいと思います。この映画は青春時代にアングラ文化発信地の一つアートシアター新宿文化で見たのも思い出です。東京では緊急事態宣言がまた出され映画館がまた営業できなくなっていたり、知り合いは会社が休みになり家にいたりします。コロナ禍で家にいることが多くなったり、また熟年世代になった今、家でアマゾンのプライムビデオで見直し、読んでいなかった原作もじっくり読んでコロナ禍をすごすのは良いなと思います。
 作り直しされた「華氏451」(2018)もプライムビデオで見ることができ、「ディープ・インパクト」はプライム会員なら無料で

ごまめ書房の映画の本

昭和映画屋渡世

坊っちゃんプロデューサー奮闘記

斎藤次男・著。『切腹』『男はつらいよ』製作の熱血漢が生み出した、歴史に埋もれた大衆娯楽映画の数々。現場に飛び散る汗、涙！ 1960年代の映画屋たちの熱気が甦る。映画評論家、書評等絶賛！
 定価 2200 円＋税

おしゃべり映画館

N雄とN子の21世紀マイベストシネマ

門馬徳行、岩館範子・共著。映画対談集。147本をシネマフリークが語りつくす。
 定価 2000 円＋税

映画館をはしごして

小泉 敦・著。暗闇の空間での筆者と映画作家の“対決”！ 観たものを言葉でとことん読み解く。
 定価 1900 円＋税

人生は映画とともに

今市文明・著。青春時代の映画を語り、ヨーロッパのロケ地を旅し、スターを語る。
 定価 1900 円＋税

観る・書く・撮る

シネマフリークここにあり

門馬徳行・著。フツーのおやじのヘンに熱っぽい映画評論プラス自作シナリオ集。定価 2800 円＋税

ばってん映画論

久保嘉之・著。ジェームズ・ボンドと俺が初めて出会ったとは、忘れもせんクリクリ坊主の中学2年の秋やっただけ。注目の娯楽映画評論集！
 定価 2000 円＋税

●自費出版のご用命も承っております。安く、丁寧に仕上げます。お気軽にご相談ください。

ごまめ書房
 〒270-0107
 千葉県流山市西深井 339-2
 電話 04-7156-7121
 FAX 04-7156-7122
 gomame.co.jp

す。YouTubeなら3作とも英語版（日本語字幕なし）で見ることが出来ます。YouTubeなので無料です。6月に放送された「100分de名著 華氏451度」は見過ぎたり録画できなかったとしても一週間以内ならNHKプラス（無料）、過ぎてしまったらNHKアーカイブ（有料）で見ることができ便利な世の中です。

そうだ、映画館に行こう 私の映画館のおもいで

とよまね
豊間根 洋行

初めての寄稿にて失礼いたしました。少林寺拳法のご縁を通して、石井宏明先生と映画の話で盛り上がり、お酒の力で気が大きくなり恐縮ながら寄稿をお引き受けしました。

私の生まれた年はオイルショック、第二次ベビーブームと言われている1973年です。

父母の影響もあり、映画は幼い頃から好きで、最近ではBSや地上

波でも昔見たかった作品が放映されていて、気になって録画してみるものの、すぐDVDのハードディスクがいっぱいになってしまいうのが悩み。映画館にもなかなか行けておらず・・・。

映画館は特別な空間ですので、見に行った時の記憶が蘇ります。誰と行った、アレを見たな。終わったあと興奮しながら感想を言い合ったな。

親に連れて行ってもらった「E.T.」、友達で行ったジャッキー・チェン、デートで行った（何を見たいか思い出せない・・・。映画どころではなかったのでしょう・・・）、一人で浸る等。

大きなスクリーン、音響は素晴らしい体験を提供してくれます。

近年の施設は昔に比べて格段に快適になりました。前の人の頭で見えない、隣の人が自分の肘置きを使つて気になる、2時間でおしりが痛くなる、かつてのようない些細な不満も解消されました。傾斜のついた座席、ゆったりシート。努力に感謝です。支えるためにも足を運ばなければ！最後に映画館に行ったのは、一年前、タイト

ルは「アンナ・カリーナ 君はおぼえているかい」でした。内容については、別の機会を頂けましたらお伝えしたいと思います。このように書いている間に「そうだ、映画館にいこう」とムクムクと心が躍りだしてきましたが、さて、何を見に行こうか。昔のように心躍る映画が少なくなつたと感じています。自分の好奇心の低下？時間がない？と言い訳を始める。いけませんね。

近年、邦画作品の上映数が洋画を上回っていると聞く。日本のクリエイティブが世界的に認められてきている表れもありますが、テレビドラマで見る俳優が出る、ネットで人気のアニメ映画などの宣伝を頻繁に目にする。一か八かの内容よりも、確実に観客動員が見込めるものが業界としても重宝されるのか。

映画はその世界に没入し、旅に連れて行ってくれるもの。まだまだ知らない外国の文化や空気に触れたい私は、洋画界に元氣を取り戻してもらいたい。やはり映画館での上映作品よりも、動画配信サービスに流れてしまっているの

しょうか。

才能のある制作者も規制の少なく、やりがいのある方を選択してしまう。

利便性を追求した結果、インターネットを通じて、いつでもどこでも、見られるようになった。利便性追求の代償として、作品と共に思い出す甘酸っぱい記憶は残らなくなつた。

そういえば、街なかに映画のポスター看板を見かけなくなつた。宣伝方法の変遷も興味深い。

最後に少林寺拳法のご縁で「シネマ気球」をご紹介頂きました、石井宏明先生には御礼申し上げます。映画の文化、歴史を調べてみようという、新たな面白みに出会うことが出来ました。皆様の寄稿を通じて、映画の世界をより一層楽しみたいと思っております。どうぞよろしく願っています。

2021年6月30日

（浦安道院・四段）

×

×

×

田舎の映画生活 4

アカデミー4部門受賞、納得！
『ボヘミアン・ラブソディ』

岩館範子

昨年、コロナウィルスが感染拡大してから、新聞で「ドライブインシアター復権」という記事を見。古いアメリカの映画なんかでしか観たことがなかったけど、ドライブインシアターが日本でも人気なんて知らなかった。レンタルビデオやシネコンの普及で下火になったということは、思ったより最近まであったんだ！ 読んだ記事は札幌の広告代理店が、47都道府県での開催を目指すイベントだった。費用は、インターネットのクラウドファンディングで確保と企業からの協賛金で賄うつもりら

しい。野外シアターのイベントを手掛ける東京の「Jo it Theater」も4月にクラウドファンディングをスタートして、集めた資金はこのイベントに充てて、ほかに映画をはじめとするエンターテインメント業界への寄付に回す。映画監督の堤幸彦さんや俳優の柄本佑さんたち、多くの映画関係者がこのプロジェクトに賛同しているという事だった。第1回目は、常設ドライブインシアターがあつた大磯ロングビーチで開催予定となつていたが、その後新聞記事は読んでいない。どうなつたんだろう…。

調べてみたら、同乗者以外3密にならず、最近注目されて開催が増えていた。

音源はFMラジオ電波を利用して送信するので、それぞれの車で音声を聞く。カーステレオを使う場合、エンジンを切っているとバッテリーが上がってしまうことがあるためアイドリングしておく方がいい、なんて知らなかった。その他には、車のライトを消す、サイドブレーキをかける、大音量にすぎないというマナーがある。これはフツウの事かな。

最近、キャンプも流行つて、近くのドライ

ブインシアターで映画を観るといふのも楽しそう。

今回見た作品は、
『ボヘミアン・ラブソディ』

ロックバンド・クイーンのヴォーカルだったフレディ・マーキュリーに焦点を当て、1970年のクイーン結成から1985年のライブ・エイド出演までを描いた伝記映画。どのようにしてスターに上り詰めていったのか栄光に隠された「苦悩」と「挫折」が描かれている。胸に響く、胸があつくなる、感動、興奮、全てあてはまる。

始まっておどろくのは、ラミ・マレックのフレディ・マーキュリーが本人そっくりというか、本人にしか見えない。話し方、立ち方、振り向き方、マイクの握り方、ライブ中の体のひねり方なんかまで全て、本人のクセを徹底的に研究している。今でいう「完コピ度」は高い。

クイーンの他のメンバー、ブライアン・メイ(グウィリム・リー)、ジョン・ディーコン(ジョセフ・マゼロ)、ロジャー・テイラー(ベン・ハーデイ)もそっくり。「ボヘミアン・ラブソディ」「ウィ・ウィル・ロック・ユー」「伝説のチャン

ピオン」など誰もが聴いたことがあるクイーンの曲、28曲が使用されているのもうれしい。フレディとバンドメンバーとの衝突と訣別、和解。恋人との悲恋や家族との確執、登場人物とのドラマが描かれ、孤独と闘い続けたフレディの姿がきちんと描かれている。ゲイだと思っていれば、女の恋人がいた。そのメアリーと婚約していたのに、フレディが浮気して、相手が男とわかり泣く泣く別れたのだ。別れてしまふけどフレディの事は理解しているのでずっと支えてくれる。ラストのライブシーンは、コンサート会場にいると錯覚させるような迫力がある。言葉では表現できないものを感じさせる。クイーンが存在を知ってる人なら感動できるはず。泣ける。

監督に、ブライアン・シンガーがクレジットされているが、途中降板。デクスター・フレッツチャーが残りの撮影とポスト・プロダクションで監督を務めて完成させた。ヒットして第91回アカデミー賞では、作品賞を含む5部門にノミネートされ、主演男優賞ほか4部門で受賞。これなら納得できる。

『ゆきゆきて、神軍』

1987年公開作品。太平洋戦争の飢餓地獄・ニューギニア戦線で生き残り、たったひとりの「神軍平等兵」と称して慰霊と戦争責任の追及を続けた奥崎謙三の破天荒な言動を追うドキュメンタリー。今村昌平企画、原一男監督。日本内外で多くの賞を受賞した。

神戸市で、妻とバッテリー商を営む奥崎、冒頭の巨大な看板にとんでもない事が書かれていてビビった。マイカーにも過激な事が書かれている。天皇誕生日、そんな車では近づけず止められたら、車の中に立てこもって演説していた。今度は自宅の屋上に、独居房を作ろうと思いつき、なぜか実寸を測るため神戸拘置所へ。入れてくれる訳がない。止める職員たちを罵倒する。ニューギニアで亡くなった元独立工兵隊第36連隊の戦友達の慰霊にも例の車で出発する。おだやかな時も、涙する時もあるけど、隊長古清水の部下銃殺事件の真相究明では、だんだん過激になつていく。もちろんアポなしだし、みなすぐ本場の事を話してはくれない。すんなり話せる訳がない。追求の果てに「戦争の狂気」が証言されることになる。

コロナで新作は少なく、出かけた日にやってたので、観なくてはいけないと思って観てしまった。大昔の作品なのに、2020年8月14日アップリンク吉祥寺ほか順次公開。観たのは9月だった。単に「戦争のせい」では片付けられないすごいものを観てしまった。こんな人物が本当にいたんだというのと、これが映画として成り立つんだと思った。ドキュメンタリーを観なれていないからかな。

『TENET テネット』

ウクライナ・キエフのオペラハウスにてテロ事件が発生した。特殊部隊に偽装して突入したCIA工作員の男は、ロシア人たちに捕らえられてしまうが、今回のテロと任務そのものがテストだった事が明かされる。そして彼に課された使命は、時間移動が可能になった未来から来た敵と闘い、第3次世界大戦勃発を防ぐことだった。ミッシェンのキーワードは「TENET」。監督はクリストファー・ノーランだし、観たい観たいと思っただけ、ノーラン史上最も難しい1作だった。

ロシア人に捕らえられた「名もなき男」(ジョン・デビッド・ワシントン。これがデンゼル・ワシントンの息子)が機密情報をもらしてしまいう前にと毒薬を口にするが、鎮静剤にすりかえられていて、目を覚ます。ある研究所で、時間逆行装置と「時間を逆行する弾丸」の存在を知らされる。そして相棒となるニール(ロバート・パティンソン)と出会う。弾丸の出どころは、ロシアの武器商人セイター(ケネス・ブラナー)であることを突き止める。妻のキャット(エリザベス・デビッキ)と接触して、セイターへの仲介を依頼する。この辺りから難しくなる。

巨大な時間逆行装置「アルゴリズム」は未来の科学者によって、過去のさまざまな場所に隠されている。そのうち8つをセイターが手に入れて、最後の1つを奪い合う、が時間を逆行してきたセイターに奪われる。時間の逆行が度々できて、装置の赤部屋(順行)、青の部屋(逆行)がでてきたり、過去の自分と会ったり、逆行しているところは、ビデオの逆回転の動きで動くのでわかりにくい。

「アルゴリズム」を起動させようとするセイター一味と「テネット」の赤・青チームの攻防が行われている所も、逆回転の動きをする人と赤・青チームがいて訳がわからない。名もなき男は赤チームから独立して「アルゴリズム」を奪いに行くけど、トンネルの中に閉じこめられる。青チームのオレンジ色のコードをつけてる誰かに助けられるけど、その男は頭を撃たれてしまう。「アルゴリズム」を手に入れ、脱出は青チームだったはずのニールが穴にロープを投げ込み成功する。作戦が成功し、再び「アルゴリズム」を過去に隠すことができる。名もなき男はニールにみなを過去に差し向けたのは誰なのか聞く。それは未来の名もなき男、本人だと告げ、去っていく。ニールのバックパックにオレンジ色のコードが付いている。撃ち殺されたはず。タイムトラベルは、過去のある時刻に瞬時にワープするが、逆行は過去のある時間までリアルタイムに時を戻るということ。時間を逆行した分だけ過去に行く。60歳で40年前に戻りたいと言っただけで40年前に着いた時には100歳になつていく。うーん。難しすぎて置いていかれてしまう。それが楽しいのか、そうではないのか。何回観ればよく理解できるのかわからない。DVD購入決定。

『博士と狂人』

2019年のアメリカ作品。世界最大の英語辞典「オックスフォード英語辞典」誕生に隠された真実の物語。タイトルも、内容も知らなかったけど、メル・ギブソンとショーン・ペン初共演となったら観なくちゃいけない。

貧しい家庭に生まれ、学士号を持たない異端のマレー(ギブソン)。エリートでありながら、精神を病んだアメリカ人の元軍医で殺人犯のマイナー(ペン)。2人の天才は、

辞典作りという壮大なロマンを共有し、固い絆で結ばれていく。しかし犯罪者が大英帝国の威信をかけた辞典作りに協力している事が明るみとなり、内務大臣ウィンストン・チャーチルや王室をも巻き込んだ事態へと発展してしまう。全米でベストセラーとなったノンフィクション「博士と狂人 世界最高の辞書OED」の誕生秘話。大好きなペンが出演していて嬉しかったけど、あるショッキングなシーンを観たら、震える…。

『ソング・トゥ・ソング』

2017年のアメリカドラマ映画。監督・脚本はテレンス・マリック。夢を追いかけて模索する4人の男女の姿を流麗な映像美で描いた詩的ドラマ。出演は、ルーニー・マラー、ライアン・ゴズリング、マイケル・ファスベンダー、ナタリー・ポートマン。他にケイト・ブランシェット、ホリー・ハンター、ベレニス・マルロー、ヴァル・キルマー。

音楽業界を舞台にした作品でミュージシャンたちも多数出演して

いるのが嬉しい。パティ・スミス、イギー・ポップ、レッド・ホット・チリ・ペッパーズ、ジョン・ライドンなどなど。マラーのバンドのヴォーカリストがキルマーって…。過激なパフォーマンスは、彼ならやりそうで違和感はなかった。ラブストーリーと言っても表面的な感じ。詩的、美しい、ファスベンダーのハンサムは認めるけど、この作品がよくわかるのは、もっと先かな。

『映画の奈落』を読んで「北陸代理戦争」を見る

流 漂 介

「北陸代理戦争」(1977年製作)は「仁義なき戦い」シリーズの後継作品で監督は同シリーズの1〜4作を担当した深作欣二監督。脚本は高田宏治。「仁義なき戦い」(1973)は戦後広島におけるやぐざの抗争に題材をとった作品だ。登場人物の名前は変えてあるが20数年経っても関係者は多く実在しており関係者に配慮をしながら作

ったであろうことは容易に推測できる。これに対して、「北陸代理戦争」は1970年代の福井で起きている現在進行形のやぐざの抗争を題材にとっている。「仁義なき戦い」以上に各方面への配慮が求められた。それでもフィクションという衣にくるめば非難をかかわせると考えたのか東映は柳の下の何匹目かの泥鰌を狙って映画化することを決めた。抗争の火種になる危険があるとして福井県警は撮影自粛を要請した。かくして映画はさまざまなトラブルをかかえながら完成する。しかし、主人公のモデ

ルが封切り後に敵対組織によって射殺されてしまう事件が起きた——。

『映画の奈落 北陸代理戦争事件』(国書刊行会・2014)は、

高田宏治のシナリオがどのような変遷をたどって決定稿に至ったか、映画製作の現場、実際の抗争事件を追いつながら立体的に描いている映画以上にスリリングな世界を垣間見ることが出来る。著者の伊藤彰彦は映画製作者・映画研究家の肩書をもつ脚本家でもあり、高田宏治が「仁義なき戦い」の重鎮脚本家・笠原和夫に対していかなる

挑戦をしたのか同業者である先輩をリスpektしながら分析を試みている。

◇

主人公のモデルとなる地元やぐざ川内組組長・川内弘は、怖いもの知らずでのしあがってきた。川内はやぐざとして命のやりとりをして懲役刑を何度か食らい修羅場をくぐって生きてきた。監獄に入っている間に兄貴分に妻を寝取られてしまうというようなこともあった。映画の題材としては面白い。射殺に至る経緯は複雑なのだが簡単に説明すると次のようになる。

やくざ組織には序列があり、やくざはそれを重んじて分をわきまえて行動する不文律がある。川内の兄貴分は菅谷組組長・菅谷政雄。菅谷組の兄貴分（親というのか）は山口組三代目組長・田岡一雄。菅谷は川内より上の立場にいる。川内は山口組組長に気に入られ、山口組組長から盃を受ける（舎弟分となる）。兄貴分である菅谷組組長は自分を飛び越して川内が盃を受けるのは面白くない（菅谷と川内は同格になるからだ）。川内組と菅谷組の両者の関係は悪化していた。そんななか川内を主人公に映画をつくる話を持ち上がった。反目する弟分が主人公の映画など菅谷には面白くない（菅谷を主人公にした映画「懲役十八年」神戸国際ギャング」などが作られているのだが）。映画のクランクイン。菅谷は川内を破門（謹慎処分）にした。映画が完成。川内組内にも組員間の重用の問題もあって叛旗を翻す者も。菅谷はヒットマンを川内に差し向け、射殺。それを知った山口組は、謹慎中の子分を殺害したのはいきすぎだとして、菅谷を絶縁（やくざ社会で最も重い処分。やくざ社会からの永久追放）する。

川内殺害後、川内組は菅谷暗殺を計画して七名の暗殺部隊を送った。彼ら川内組組員は当時上映されていたナチスの高官暗殺を描いた「暁の7人」(ルイス・ギルバート監督、ティモシー・ボトムズ主演)になぞらえて、その名も「暁の7人」と名乗った。ボディガードが多くその機会をつかめない――。映画以上にスリリングな展開である。

◇ 「北陸代理戦争」は「新仁義なき戦い」シリーズとして企画されたが、菅原文太が体調不良を理由に降板して松方弘樹に主役が回ってきた。渡瀬恒彦は主人公の片腕を演じたが、自身の運転する車が雪でスリップして車外に投げ出され足指を複雑骨折して降板、伊吹吾郎が代役となった。雪を運んだり除雪したり、親分の映画だということで川内組も全面支援。封切り間近で時間がない。徹夜続きの撮影。深作監督は一人では間に合わなかったたので、B班の監督として中島貞夫に応援を頼む。中島は「どんなタッチでいくか」と深作に相談するが、「すべて任す」というくらいに逼迫した状況だった。高橋洋子も高熱をおして出演した。

◇ 高田宏治の笠原和夫に対する挑戦はどういう形で収束したか――女たち(野川由美子・川内の妻役)の男勝りのキャラクター描写が後の高田脚本による「鬼龍院花子の生涯」「極道の妻たち」につながったと著者(伊藤彰彦)は分析する。

◇ この本で注目されるのは、銃殺されたモデルを紹介した撮影所スタッフ(進行主任)の並河正夫だ。彼の「すごいやくざがひとりいてるで」という話を高田は聞いてプロデューサー、並河とともに福井に取材に向く。並河は元やくざ。中村錦之助の用心棒をしていた縁で映画の仕事をするようになった。山下耕作「博奕打ち 総長賭博」やマキノ雅弘などの任侠映画の進行主任を務めた。著者の伊藤は本書の取材を始めるときに一番最初に会いたかったのが並河であるとしている。映画製作の顛末をどう考えているか。並河は同書の取材数か月前の2010年に死去している。高田がシナリオを完成させたとき、並河は台本を見て「この台本、おもしろいな」と語ったという(高田も深作も沈黙)。なにが面白くなかったのだろうか(川内

弘は脚本を絶賛した)。並河は川内の通夜に出る。東映退職後は、撮影所の駐車場の管理をしていた。愛犬を連れていた。霊柩車の並河に撮影所内のスタッフ全員で別れを告げた。並河をモデルに映画製作の裏話をつくれれば、それも面白いのではないだろうか。

◇ 思わぬ射殺事件により映画人らは「奈落」に突き落とされてしまった。そんなはずはないのに。なんで。危ないけれど人が死ぬようなことはないだろう。多くの人はそう考えて映画に関わっていたのではないだろうか。脚本家は先輩脚本家を凌駕するに足る面白い話にするにはどうしたらよいかと頭をひねり、製作現場は公開日に合わせてトラブルにもめげずに突貫工事のように映画をつくり、やくざはやくざでいかに面子を保つかに必死になり、警察は危ない映画はごめんだと撮影自粛を要請し、映画ファンは刺激を求めて映画館へ集まってくる。映画をめぐる狂騒を本にまとめる人がいる。その本をまた楽しむ読者がいる――。

× × ×

出会いの妙『ザ・ピーナッツバター・ファルコン』

久保嘉之

序

歳をとってから特に、いったい人と人が出会って知り合う確率は、どれくらいだろうと思うことが多くなった。単に挨拶を交わす程度ではなく、共に語らい打ち解け、嗜好や行動を同じくする人に出会う、確率である。決して高くはなからう、いや極めて低い筈である。まして私のように人づきあいが苦手、世間を狭くしている人間にとつては尚更である。自分の心をよく理解してくれている人のことを「知己」という。親友という意味でもある。そういう人が果たして身の回りに、どれほどいるのか五指で足りないくらいだと云える人は、多分恵まれているのだろう。でなければ相当努力した人か。

若い頃、「友達に選べ」とよく云われた。朱に交われば赤くなるで、友達の影響で悪行へ奔るのを恐れ、戒めたのであろう。だが選ぶためには、まず出会わなければならぬ。

これは選べない。偶然である。

だがいい出会いを得るためには、劣悪な環境より整った環境の方が、まさしく確率は高い。孟母三遷^{もうぼさんせん}という。また環境が人を創る、というのはそういうことではなからうか。出会って意気投合し、更に選別してお互いに「知己」となる。いずれにしても、人と人との出会いは玄妙にして、不可思議なものだと思わざるを得ない。

人は「知己」を得ることで、家族と共にいるような、いやそれ以上の充足感と解放感に充たされる。自分の可能性に自信を持つことができ、豊饒な安寧の中に漂っているのだ。

これから紹介する『ザ・ピーナッツバター・ファルコン』は、そんなことを考えさせてくれる映画でもある。——ウイズコロナのこと、ご時世、是非家族をご覧になることを、お薦めしたい。

一

ザック（ザック・ゴツツアードン）は二十二歳。身寄りもなく、

ダウン症という障害を持つ彼を、州は専用の施設もないことから、国営の介護施設であるブリットヘイヴン高齢者施設に委託している。いわば老人ホームに間借りしている、といった状態である。入居してからすでに二年半が経っていた。

ザックには、悪役プロレスラーになる、という夢があった。そのため敬愛する悪役レスラーであるソルトウォーター・レッドネックが経営する、レスラー養成学校の入学案内ビデオを、繰り返し観ている。今日も今日とて、付き合っている同室のカール老人（ブルース・ダーン）をして、

「今日だけで十回目だ。そいつを観るたびに五セント貰つてりや、俺は大金持ちだ」と云わしめるほどに、夢中なのである。

夢を叶えたくて、ザックはこれまで二度脱走を企て、失敗。彼がよく理解者でもある介護士のエレノア（ダコタ・ジョンソン）は、

「二度脱走したら、ここでは危険人物なの」だからもう逃げ出さ

ないと約束して、と優しく諭すが、ザックは怯まない。

「三度目の正直？ 脱走防止のため窓に新たに取り付けられた鉄格子を、器具で大きく広げてくれた元エンジニアのカールに、ザックは、

「君は最高の友達だ。俺にとつて本当の家族さ」

「友達つてのは、自分で選べる家族だ」おそらくカールのこの言葉が、本編の主題であらう。だがザックはまだ「知己」に出会ってはいない。

「僕の誕生パーティーには君も招待する」少し先走るが、書いておく。ザックは事あるごとに「パーティー」という言葉を、口にする。悪役レスラーになるのと同じくらい、家族を持たない彼には、家族同然の友人達とパーティーを開くのが夢なのである。同時にこれがラストでの、伏線にもなっている。

鉄格子の間を抜け出しやすくするため、身体に液体石鹸を塗るた

くったザックは、裸足にランニングシャツとブリーフのみで、施設を抜け出し夜の闇をひた走る。先に衣類と靴を外に投げておけよと可笑しくなるのだが、とりあえずこの設定も伏線となっている。

朝、船着き場についたザックは、係留してあるボートに潜り込む。桟橋の床で人が言い争っているのを目撃するが、夜通し走ってきた疲れと眠気には勝てず、シートを被って眠り込んでしまう。

口論の当事者であるタイラー（シャイア・ラブーフ……不精髭と帽子でしばらく誰だか気付かなかったが『トランスフォーマー』三部作のサム、彼である）は蟹漁の免許を持たず、金がないため捕獲籠も買えず、専らダンカン（ジョン・ホークス）の籠から蟹を盗み生計をたてていた。彼にしてみれば、元々死んだ兄マックの漁場であり、金さえあれば郡で十人だけしか持てない蟹漁の免許を取得できたのは、兄だったという思いがあったのである。彼の行為を咎め立てするダンカンほか従業員二人との口論は、兄の悪口を云われたこともあり、殴り合いに発展。だがタイラーはボコボコにやられてしまう。

泥だらけの顔を小川で洗いつつ、腹の虫は治まらない。タイラーは、腹癒せに蟹漁につかう捕獲網にガソリンをかけ燃やしてしまふ。気付いて追うダンカンとラットボーイ。ボートに乗り込み逃走をはかるタイラー。尚も追ってくる二人。湿地帯の葦の茂みに潜み、

ダンカンのボートをやり過ごそうとしたとき、後部のシートの下で変な声が聞こえた。慌ててシートを捲り、目覚めて事の成り行きに茫然としていたザックの口を塞ぎ、「おまえ誰だ？」二人は出会ったのである。

追跡は躲けたが、今度は自分のボートが動かなくなってしまった。荷物をまとめてバックパックにしまうと、散弾銃でボートの底に穴をあけ、未練気もなく歩き出すタイラー。遠浅の海がどこまでも続いている。待つてくれ、ザックは声をかける。

「怖いんだ。俺は泳げない」
裸を波に洗われながら、距離を置いて歩き出す二人。その向こうには茫漠と広がる海原。ロングに引くと、まるで海の上を歩いているようで、とても素敵なショットだ。ザックは問わず語りに悪役レスラーのソルトウォーターを尊敬して

おり、彼の学校を目指していることを、話す。

エレノアは、上司グレンに呼び付けられる。責任問題になるのを嫌う彼は、州に報告したくないからザックを連れ戻せと、エレノアに命じる。ザックが観ていたビデオに、逃げた先の手懸りがあるのでは、彼女はノースカロライナ州エイデンにプロレスラー養成学校があることを突き止め、そこまでの道筋を辿ることにする。

おそらく川を見張るために建てられたのであろう、今は子供たちの飛び込み台として使用されている櫓の近くまで来たとき、タイラーは、

「お別れだ。俺の名は？」

「知らない」

「よし。俺のことは忘れろ」心細くもあるザックは一緒に行こうと提案するが、

「俺に何の得が？」タイラーは迷惑だとばかり、袂を分かち。

大通りへ出てトラックにヒッチハイクしたタイラーは、船着き場で火を放ったことが大騒ぎとなり、漁師たちがこの先の道路で、犯人が通るかかろのを見張っていると聞かされる。「まづい！」適当な理由をつけてトラックを降りたタイ

ラーは、仕方なくもと来た道に戻り出す。

ザックと別れた場所まで来ると、何とそのザックが櫓の上で一人の少年に川へ飛び込めと、強要されているではないか。「やめろ！」「そいつは泳げないんだ」叫びながらタイラーは走り出す。少年は彼の方を振り向き、悪態を吐くとザックの背中を押す。川へ落ちるザック。タイラーは少年を殴り倒すと、自らも川へ身を躍らせる。ザックを岸へ助け上げると、追われる身であるタイラーは、ザックと行動を共にする方が目晦ましになるとでも思ったのか、レスラー養成所で学びたいというザックの意向を確認し、エイデンは目的地であるフロリダに行く途中にあるから、そこまで一緒に行つてやると告げる。喜ぶザック。

タイラーがなぜフロリダを目指すのか、この時点では瞭かにされていない。終盤エレノアに、フロリダのインディアン川の入り江にあるジュピターという漁師町で、観光客相手の釣り船を切り盛りするのが夢だ、そう語るシーンがあるのだが、おそらくこの段階ではタイラーに明確なヴィジョンはなかったであろう。知識はあったの

だろうが、半ば場当たりのフロリダへ行けば何とかなる、その程度の目的意識だったと思われる。

それが必死に夢を叶えようとするザックと行動を共にすることで、自分にも夢があるのだ、夢を叶えることが許されるのだと、次第に自分自身を見つめ直すことが出来るようになっていった、そう思わせてくれるのだ。タイラーには大好きだった兄マックを、死なせてしまったという、負い目があった。

二人で飲みに出た帰り、タイラーは猛烈な睡魔に襲われ、ハンドル操作を誤ったのである。兄を死なせてしまい、自分は生き残った。

これが逆だったらと、幾度思ったことだろう。何度か挿入される楽しかった兄との思い出が、そのことを如実に物語っている。その都度臍を噛む後悔に、タイラーは自身の将来に何の展望も見いだせず、自暴自棄になっていたのである。それがである、事あるごとにザックを励ますうち、その言葉が自分を鼓舞する激励ともなっていく。

……これは、この後の話である。タイラーは下着姿のザックに、バッグからTシャツを取り出すと手渡す。トウモロコシ畑の中を歩く二人。かなりの高さから俯瞰で

撮られているが、相応な広さである。Tシャツは着たものの、相変わらず裸足のままのザックは、

「足が痛いよ、普通の道路を歩かないか」訴えるが、返事はない。タイラーにしてみれば、舗装された道路など、いつ見張りに出くわすかも知れず、とんでもない話だった。歩きにくそうな足取りのま

ま後を追いつつ、ふと思いついたようにザックは、

「俺はダウン症候群なんだ」と打ち明ける。振り返ったタイラーは、どう答えたらいいのかという様子を一瞬みせ、「そんなことはどうでもいい」と云う。彼はどういう気持ちで、こんな返事をしたのだろう。自分には関係のないことだから、どうでもいいといったのか。それとも一緒に旅を続ける上で何ら支障はないからそう云ったのか。まさか未だ「知己」と呼べる仲になってもいないのに、人として生きていくのに問題はないと論じたわけではなからう。

二

主人公ザックを演じるザック・ゴツツアーゲンは、正真のダウン症候群である。

二人一緒に脚本と監督を担当し

たタイラー・ニルソンとマイケル・シュワルツが、障害を持つ俳優たちが集うキャンプを撮影に行った折、理知的な演技をするゴツツアーゲンを観て、閃くものがあつたのだろう、ダウン症を持つ役者が演じる役が少ないこともあり、彼のために脚本を書き映画を撮ろうと決意する。

で共同執筆による脚本がマーク・トウエインの『ハックルベリー・フィンの冒険』を下敷きにした、本編である。出来上がった映画は、地味だと目されたため宣伝も殆どされず、限定公開だったのだが、批評家や映画通が絶賛したのみならず口コミで噂が広まり、アツという間に全国規模へ拡大したという。さもありなんといった出来栄であるのは、太鼓判を押す。

先日、「宮本亜門とダウン症の青年たち」というサブタイトルが付けられた、『ハルカとカイト舞台に立つ』というTV番組を観た。一九七〇年代のアメリカが背景の『チョコレートドーナツ』という、二〇年暮れにパルコ劇場で上演された舞台劇の稽古風景を撮影した、ドキュメンタリーである。ルディ（東山紀之）とポール（谷原章介）の同性愛者が、母親に育児放

棄されたダウン症のマルコという少年を引き取り、家族として共に暮らし始めるのだが、当時のアメリカ社会に巖の如く聳える差別や偏見のために引き離され、マルコは二人を捜し回った挙句、死んでしまうという物語である。そのマルコを演じたのが、高橋永（はるか）十四歳と丹下開登（かいと）二十一歳、共にダウン症を持つダブルキャストである。思い切った企画だが、素晴らしい試みだと思う。

ご存知だとは思いますが、この作品は二〇一二年に制作されたトラヴィス・ファイン監督・脚本による映画『チョコレートドーナツ』を、舞台化したものである。映画でマルコ・デイレオンを演じたアイザック・レイヴァ（当時十三歳、彼もダウン症です）も素敵だったし、そして哀しかった。併せてお薦めしておきます。

ハルカは台詞は覚えたものの、演じる役の気持がなかなか理解できないため、どう表現したらいいのか判らない。カイトは出番になると台詞が出てこず、また出てきても切り出すタイミングに苦勞する。共演者や、特に演出を担当した宮本亜門は大変だったろうが、

辛抱強く励まし、指導しただけの甲斐ある出来栄となった。

最初の予定ではハルカがメインであったが、開演前に出演回数がハルカ十五回、カイト二十三回に、変更される。二人の仕上がり具合を観ての決定ではあったろうが、余儀ないことではあった。だがハルカとて人の子である、悔しさはある。当然落ち込む。その悔しさをバネにして、今後に活かしてほしい。亞門はそう云って慰める。

舞台は大盛況であった。喜ばしいことである。――障害を持ちながら活躍する人達を注目する場は、何もスポーツだけにとどまらない演劇にしろ映画にしろ、そういう人達にもっと場を提供できれば、双方の可能性は拡がり、振り幅は大きくなるだろう。

『チョコレートドーナツ』や、この『ザ・ピーナッツバター・フアルコン』は、そのことを証明してくれている。

――本編に戻ろう。

タイラーは、食料や当座必要なものを買うため、ザックに金を持つているか尋ねる。

「お金は持つてない。ポケットもない」タイラーはバックパックからズボンを取り出し、ザックに

渡す。どうやら二人の監督は、身に付けるものを一つずつ渡していくことで、親密度の深まりを表現しているようである。

「ここで待つてろ」タイラーはザックを残し、見つけた雑貨屋に入っていく。店の主人はタイラーが現われた途端、落ち着かなげな様子。取り敢えず買いたい商品を並べるが、金が足りない。ひとつずつ戻していく。残ったのは、ピーナッツバターと釣り針だけ。タイラーは二ドルで買えるウイスキーの小瓶はないか尋ねると、年輩いた主人は無いと答えた後、「どうも散弾銃に慣れてなくてね」タイラーが背負ったバックパックから覗く銃身が気になっていたのである。自分の迂闊さに気付いたタイラーがバックを下ろすと、自家製だがと云って、ひと口飲んだあとタイラーにウイスキーのボトルを差し出した。「あげるよ。私よりあなたが必要だろう」

そこへエレノアが入ってくる。ザックの写真を二人に見せ、「見かけませんでした?」

店主は当然知る筈がない。タイラーはひと目で彼女に惹かれた様子だが、知らないかと返答し、逆に「賞金は出るのか?」と尋ねる。そ

んなものはない、ホームから逃げ出した彼を心配して捜しているだけだから……

ザックの元へ戻ったタイラーは上機嫌であった。彼も自分と同じ〈お尋ね者〉だったのだ。追われる者同士という、仲間意識が芽生えたのだらう。「ルールを決めよう」タイラーは提案する。ルール①俺に遅れるな、ルール②指揮は俺、荷物は交代。タイラーはザックに長靴を渡す。バックパックに括り付けられていた白い長靴である。足が痛い云つていたのだから、最初に渡してやれよと、苦笑が出る。だがこれで親愛度は可成り深まったようだ。バックパックを背負い後ろから付けてくるザックを振り返ったタイラーは、「遅れるな、長靴を渡しただろ。……一番目のルールは?」

元気に答えるザック。「パーテイー」。やれやれ。

歩く道程をショートカットするため、タイラーは河を渡ることにする。泳げないと不安がるザックに、バッグとズボンを空気で膨らませ浮袋にしてザックに掴ませ、結んだロープを引っ張りながらタイラーは泳ぐ。中ほどまで進んだ時、大きな河船が近づいてくるの

に気付いたタイラーは、慌てて泳ぐスピードを速める。急がないと綱の先にいるザックが巻き込まれてしまう。このシーンも俯瞰で撮られている。二人と船の距離感がよく判り、危機感が増す。岸に着いたタイラーは、懸命にロープを引き寄せる。間一髪、警笛を鳴らしながら、河船の舳はザックを掠めて過ぎて行った。おそらくこのエピソードは、〈ハックルベリー〉に想を得たものだろう。緊張が解けへとへとになって倒れ込んだタイラーを、ザックが腕を掴んで助け起こす。凄いいかに驚くタイラー。再び二人は歩き始める。のだが、今度はザックが先頭で、タイラーは様子を窺うような素振りである。続く。ルール①は無視された形だが、ザックの腕力に威圧されてしよんぼりしたかのようで、ちよつと可笑しい。流木に並んで腰掛けた姿を後ろから撮ったショットに続いて、何かを思い付いたようにタイラーは河の中に入り、ザックを手招きする。泳ぎを教えることにしたのである。

その夜、悪玉のプロレスラーになると宣言するザックに、「何で悪玉なんだ?」

「俺は家族に捨てられた悪い人

間だから」

「おまえは悪くない。いい奴も捨てられる。人間の善悪は魂で決まる。おまえは善玉のヒーローだ、それは変えられない」

「ヒーローなんて無理だよ。だって俺はダウン症だ」しよげるザックに、

「そんなことはお前の持つ心根の優しさとは関係がない。何よりお前の腕力は、長所だよ」タイラーはそう云って慰める。

翌朝、歩きながらザックは「トレーニングしてくれないか」と頼む。少し考えてタイラーは頷く。バランスを取るため線路の上を歩かせたり、銃の撃ち方を教えたり（最初に撃つシーンでは、お約束通り衝撃で身体が弾き飛ばされるのだが、やはり笑える）等、我流トレーニングの様子が何度か繰り返して映し出される。

空き地に捨ててある？ ボートを発見。河下りに使える。状態を調べていると、すぐ傍の家から拳銃を手にした老人が現われる。黒人である。「盲目のジャスパーから盗む気か」向けられた銃口に、驚愕して思わずホールドアップする二人。

「白人か？ それとも黒人か？」

どう答えたらいいのか迷っていると、老人は発砲する。威嚇であったとみえ、弾は逸れボートに当たるが、二人は両手を上げたまま「白人です」とハモる。

「そうだろう。臭いで判った。

神を信じるか？」信仰深いジャスパーは、彷徨える羊に施しをしようと、ボート以外のがらくたは何でも持って行つていいと、筏の材料を提供してくれるのである。何となくの勢いでザックが洗礼を受けることになる。二人はせっせと筏造りに励む。……ふと思つたのは、ホームからザックが逃げ出す手助けをしてくれたカールも、雑貨屋の店主も、そしてジャスパーも、老人である。心優しい老人たちである。アメリカも高齢化が進んでいるのだなという感慨と共に、人生の酸いも甘いも噛み分けた彼らの好意が、この映画を暗いものにせず、逆に潤いを与えているのだな、ということであった。

日は傾きかけていた。急ごしらえの筏で河を下る二人、このシーンも並んで座る二人を、後ろから撮っている。亡き兄を思い出し、感傷的になり涙ぐむタイラー。そんな彼の肩を、ザックは強く抱きしめるのである。どうやら二人は

お互いに、相手を「知己」として認め合つたようだ。

日が落ちた。筏を岸へ上げたタイラーは、「一番目のルールは？」

「パーティー」と答えるザックに、タイラーは嬉しそうにその通りと酒瓶を渡し、野宿の準備を始める。焚火にあたりにながら回し飲みし、さんざん酔った二人。ザックは食べかけのピーナッツバターを顔へ塗り付け、ふざける。が、急に意気消沈したように、

「俺は弱い」弱音を吐く。タイラーは、

「名前を変えてみる。プロレスラーにはリングネームがあるだろう、もうひとりの自分になるんだ」とアドバイスする。ザックは素晴らしいアイデアだとばかり、鳥が羽ばたくように両手をぱたぱたさせ、「ファルコン（隼）！」と叫ぶ。だがこれでは短すぎると思つたのか、「ピーナッツバター・ファルコン！」と叫び直すのである。——そうこれが題名の由来である。

三

翌日、やっと見つけ出したとばかり、エレノアが二人の前に現れる。嘘を吐いたタイラーに文句を云い、ザックにホームへ戻るべく

説得を始める。絶対に戻らないと言いつける上半身裸のザックに、エレノアはTシャツを着せようとするが、自分で着られるとタイラーが口を挟む。ここに至つてエレノアの怒りに火が付いた。二人だけで話そうとタイラーをザックから離れた場所へ誘うと、

「一体どういうつもり。ダウン症の子を連れ回して……」

「俺は檻に入れてない」

「彼を適切にケアするのが、私の仕事よ」

「俺らは人生を楽しむよ」

「あなたを誘拐罪で逮捕させてやる」

「彼をどうする？」

「あなたには渡さない」

「将来を考えてやつてゐるのか。」

彼の夢を知つてゐるか？

「プロレスでしよう」

「もう止められないぜ。エイデンまで送ると約束した。……一緒に乗せてやる」

エレノアは呆れたという顔で、「筏で河下りなんてお断りよ」

ザックの呼ぶ声で振り返ったエレノアは、彼が自動車の鍵を海へ投げ捨てるのを見て、驚き慌てふためく。

「駄目だ、来て貰う」タイラー

に云われるまでもなく、エレノアには他に選択肢が無くなつてしまつたのである。

筏の上でもエレノアは、ザックの世話を焼く。「血糖値のために少し食べて」バッグの中から林檎やチョコを取り出す。そんな事にはお構いなくタイラーは、

「トレーニングしようぜ、日課だもんな。呼吸の練習だ。そうすれば血糖値も安定する」

ザックが顔を水に浸けたのを確認すると、

「ウスノロ扱いはやせ」
「そんな言葉、私は絶対に……」
「そう呼ぶのは彼を下にみている連中だ。君は呼ばないだけで同じことをしている」

おそらくタイラーの指摘は正しいのかもしれない。だが、はいそうですと肯んずるには、彼女の自尊心が許さなかつた。怒りのメーターが徐々に上昇する。ザックが顔を上げた。話はこれからとばかり、エレノアは「もう一度!」とザックに命令する。感情の機微を捕らえた演出で、思わず微笑が湧く。

「よくも私にそんなことを……」
この二年ボランティアとして、大勢の死に立ち会つてきた。うちの施設が彼向きだとは思わない。で

も私は最善を尽くしている」

再び顔を上げたザックの右手には、大きな魚が握られていた。驚くエレノア、喜ぶタイラー。このエピソードは何とも楽しい。これで昼食は手に入った。

焼いた魚にピーナツバターを塗つてかぶりつくシーン。クレインの先端から垂らされたロープに掴まり、ターザンもどきに海へ飛び込むシーン。寛いだひと時である。ここ何年も忘れていた解放感。意に染まない同行ではあつたが、エレノアは不思議と気持ちの安らぎを覚えていた。

「俺の家族だ。皆が死ぬ時までいつまでも、こうしていたい」ザックの言葉が、実感として身に沁むほどに。

——だが追跡の魔の手は、すぐ間近に迫つていたのである。

その夜、物の爆ぜる音で目覚めたタイラーが、漁具を仕舞つておく小屋から出てみると、紅蓮の炎を高く巻き上げて、筏が燃えている。驚く暇もなく、ダンカンと拳銃を手にした全身刺青だらけのラットボーイに前後を挟まれる。殴り倒され手をつけて謝るタイラー。だがダンカンの恨みは収まるべくもなく、

「損害は一万二千ドル、ワンシーズン分だ。お蔭でみんな廃業の危機だ」

「悪かつた。金は返す」

「俺がみんなを代表して落とし前を着ける。右か左か？」ダンカンは、タイラーの手の甲を、拳銃で撃ち抜こうというのである。あわや! の瞬間、散弾銃を手にしたザックが、エレノアを従えて現れる。

「撃てるのか？」ラットボーイは半信半疑。だがザックはすでに初心者ではなかつた。

「でかい散弾銃だ」ザックの気迫に圧されたか、二人は捨て台詞を残して逃げ去る。エレノアはタイラーの肩を抱いて事情を尋ねるが、「ちよつとした揉め事さ」彼は言葉を濁す。

幾ら腹立ち紛れだったとはいえ、やつてはいけないことをややつてしまった。ダンカンに追われていることより、「人間の善悪は魂で決まる」偉そうにザックに説教した自分はどうなんだ、罪の意識と悔恨を、タイラーはより深く見詰め出したようだ。

一難は去つた。だが翌日ザックにとつての新たな一難が、出来ずる。

その前にエピソードがひとつ挿入される。エレノアの手首に刺青された一文字に、

「それはTか？」とタイラー。

「Jよ。夫の頭文字。——亡くなつたわ」彼女にも辛い過去があつたのである。三人共に哀しい過去を背負っている、だからこそ今この瞬間のささやかな幸せが、より愛しく感じられるのだろう。だが果たしていつまで続くのだろうか。

……エレノアは上司グレンに、ザックを見つけ出し無事であることとの報告を、入れる。だが返つてきた答えは、意外を通り越したものであつた。何度も脱走を企てるザックは、危険人物であるから、逃げ出すのが不可能な麻薬依存症患者や売春婦を収容する施設へ、移動が決まつたというのである。

よしや連れ帰つたとして、本当にそれがザックのためになるのか。

三人は目指す目的地に漸く到着する——この家だよな、とタイラー。エレノアがドライブインで訊いてきた住所は、ここで確かに合っている。が、思い描いていた養成所とは、まったく異なる佇まいであつた。間違ひね、落胆するエレノア。だが半信半疑ながら、取

り敢えずタイラーが訪いを入れることにする。現れたのはクリントという初老の男性。タイラーが事情を説明し出すと、

「俺がソルトウォーター・レックドネックだが、とつくに引退して、運営していた養成所は十年前に閉校してしまつた」と告げる。

タイラーは、エレノアと共に後ろに控えるザックを指さし、「あんたはあいつのヒーローさ。まっすぐに心を捧げてる。プロレス学校に連れてくると約束したんだ。入門を夢見て、ここまで長旅を続けてきた。がっかりさせてしまふな」肩を落とす。そしてザックを振り返ると、「ソルトウォーターは引越した。このクリントは一般人だ」そう云うと、邪魔したねと二人を促し、もと来た道を戻り始める。

見送るクリント（トーマス・ヘイデン・チャーチ）の眼は、どこやら寂しげである。

目的が一瞬で消滅してしまつたザック。だが会えないとなると余計に思ひは募る。ザックは駄々をこね始める。ソルトウォーターに会いたい。

「ザック」エレノアが声をかける「彼は見付からないよ。そろそろ帰らなきゃ」

「帰りたくない。ここにいたいんだ」

「誰にでも帰るべき生活があるの」以前と違って、今はザックの気持に寄り添うようになっていくエレノアだが、しかも帰つたところで彼が置かれる環境がより劣悪なのは判つているのだが、行く宛もなく今夜泊まる場所さえない現状では、一旦戻つて善後策を講ずる以外、手段はなかつたであろう。

そこへ現役時代そのままに顔をペイントしたソルトウォーターが、車で駆け付ける。ザックは大喜び。更に「レスリングを教えてやるよ」と笑顔を向けたのである。ザックは飛び上がらんばかりである。庭にリングと同じ広さにロープを張り巡らしての、プロレス指導。相手をエルボーで倒し、すかさずフット・スタンプ。「何か知りたい技はあるか？」

ビデオで観たリングの外に相手を放り投げる技を是非教えて欲しい、と眼を輝かすザック。ロープの外で見学していたソルトウォーターの友人であるサムソンが、それを聞いて鼻で嗤う。

「アトミック・スローか。あれは観客を楽しませるために、スモ

ークと鏡を使ったやらせで、投げたように見せているだけなんだ。あれは無理だが、その代り他の技を教えよう。どうだサムソン」

「ロックアップは？」ロックアップからのボディースラム等々、その練習風景を傍らで見守りながらの、エレノアとタイラーの会話。「これがすべて終わつたら、どうするつもりなの？」

「ダンカンに金を返すよ。フロリダにも行く」ここでタイラーは、最初に紹介した夢を語るののである。どうやら彼にも、定まつた目的が出来たらしい。

「行つたことは？ 行きたいか？」どうやら序でに、人生の伴侶も定まつたようである。

「フロリダへ？」

四

ソルトウォーターに夕食に招かれた三人。座は盛り上がり、

「一通りの技を覚えりや対戦はできる。どうだ試合がしてみたかないか」ソルトウォーターの提案に、同席していたサムソンはまだ無理だと窘めるが、

「試合がしたい」ザックは大乘り気。

「練習だけじゃ退屈だ、セッテ

ィングしてやろう。明日ジェイコブの裏庭で試合がある」サムソンを振り返り「おまえ出るだろう。よし二人でやれ」

「ちよつと早いんじゃない」エレノアが心配そうに口を挟む。

「俺もいるし、サムソンが上手くやる」

「どうかな」サムソンは仏頂面。ソルトウォーターは苦笑気味に「今は不機嫌だが心配ない。試合をリードしてくれる」

ザックの初試合決定である。

翌日試合会場に現れたタイラーを見かけたダンカンの仲間が、彼に連絡を入れる。

ソルトウォーターは出来ることなら自分が試合に出たいほどに、満悦至極、大はしやぎである。ザックに二つ三つ細かい指示を与えると、楽しみだとはばかり控室を出て行く。残された二人。ザックは今更のように、心細くなったようだ。

「タイラー、怖いよ」

「駄目だ、怖気づくな、お前は強い。自分で云つてみる、云えよ」

「俺は強い」

「もつと自信を籠めて云え。自分の魂を信じるんだ。俺は強い」

「俺は強い！」よし、励まし終



『ザ・ピーナッツバター・ファルコン』ザック・ゴッツァーゲン（左）とシャイア・ラブーフ

えたタイラーは、衣装を作つてやると、材料を捜し始める。

——休憩時間、車で語らうタイラーとエレノア。彼女は不安そうである。先程間近で観た流血を伴った試合が、脳裡から離れないのである。ザックは大怪我をするのではないか。タイラーはそんな彼女の心配を、払拭しようと大童（わんぱく）。「さっきの試合は過激だったけど、ザックがやるのはそうじゃない。最後には勝たせて貰える」試合開始を告げる、選手紹介のアナウンス。

「彼がそんなに特別？ あなたには特別でも彼らには違う」

彼女の心配は、無理もないと思う。だが試合を止めさせることは、出来ない。ザックの夢を潰す訳に

はいかないのだ。時間が無い。「わかった」

「本当に？」タイラーは彼女の眼を見つめる。見つめ返すエレノア。タイラーはエレノアにキスをする。少し驚くが満更でもない様子の彼女。だがキスしている間に、タイラーはエレノアの手とハンドルを、手錠で繋いでしまうのである。

「心配するな、すぐ戻る」リングへ向かうタイラー。

登場したザックに観客は啞然、ソルトウォーターは目を丸くする。「段ボールの衣装だ」と

ファルコンを意匠した、タイラー手作りの衣装であった。ザックは手を大きく羽ばたくようにバサバサさせる。

試合開始である。だが試合前の

打ち合わせもあらばこそ、サムソンは徹底してザックを痛めつける。

「38年もやつてる。病気のガキの支援団体じゃねえ」殴りつける。

「何がファルコンだ。小鳥ちゃんに改名しやがれ」放り投げる。

「立てウスノロ、ここはお前の場所じゃねえ」ボディースラムをかます。

ソルトウォーターが話が違うと叫んでも、レフリーが手加減しろバカと注意しても、全くお構いなし。ザックは一方的に、やられっぱなしである。

グローブボックスからラジオペンチを見つけたエレノアは、手錠を外そうと悪戦苦闘。その最中、ダンカンとラットボーイがやって来たのを見掛ける。大変だ、タイラーに危急を知らせなければ。気持ちは逸るが、手錠は外れない。ダンカンがトルクレンチを片手に、リングへ向かっていく。

リングに倒れ込んだザックを、タイラーは懸命に励ます。「大丈夫か、まだやれるか？」苦しげながらも親指を立てるザック。よろめきつつ立ち上がり、

「おいサムソン、君はバーティーには呼ばない！」そう叫ぶと、懷に潜り込む。と見るや、何とサ

ムソンを頭上高々と持ち上げたのである。——ここから（暗転）まで、スローモーションで撮影される。

漸く手錠が外れ、危難を知らせに奔るエレノア。

ビデオで何千回と観たアトミック・スローで、サムソンを投げ飛ばすザック。

宙を飛ぶサムソン。口を開けてそれを見上げるラットボーイ。

リングサイドで必死に応援するタイラーの頭を、トルクレンチで殴りつけるダンカン。エレノアの悲鳴が被さる。

暗転。

待合室の長椅子に腰掛けるザック。医者から症状の説明を受けるエレノア。悲しそうだ。このシークエンスはフラッシュバックで表現され、不安感を募らせる。タイラーはどうなった？ まさか……再び暗転。

車を運転するエレノアが、助手席で眠るザックを起こす。車はフロリダの境界を越えようとしていた。ザックは後部座席へ手を伸ばし、頭に包帯を巻いて横たわっている男を、揺り起こす。

「着いたぞ、フロリダだ」

色 ― 一の厄介なる物

鈴木輝夫

八十年以上前に公開されたこの二本のアメリカ映画は、『超映画』と言っても宜しい様な紛う方なき大傑作である。更に驚嘆す可き事は、その一本はアメリカのテクニカラー社が開発して発展させた「テクニカラー」に因る、総天然色映画（何と古色蒼然足る言葉）でもあるのだ。私はテクニカラーの何とも言えない色調が堪らなく好きである。実を申せばテクニカラーなる色は本当の色などではないのだが、その本物らしくない彩度・明度・色相が最高の満足感を運び来るのだ。

最初の映画は、御存知、ジョン・フォード監督、ジョン・ウェイン主演の『駅馬車』。そして次の映画は、D・D・セルズニック監督、ビビアン・リーとクラーク・ゲーブル主演の超大作『風と共に去りぬ』。因みに我が日本での最初のカラー映画は、『風と共に去りぬ』から遅れる事十二年、昭和二十六年（一九五一年）に公開された松竹映画『カルメン故郷に帰る』で、木

下恵介監督、高峰秀子と佐田啓二主演である。その内容は、故郷信州の田舎街に「錦を飾る」陽気なストリップパーとその同僚ストリップ嬢二人の悲喜劇である。私が木下のこの作品を始めて見た時、そのクリアー極まる色合いに驚いた。濁りがなく「ヌケが良い」のだ。後年知ったのだが、この映画は「ポジ・ポジ方式」で撮影されたのだ。映画の撮影は通常ネガフィルムで行うのだが、我が国最初のカラー劇映画は、撮影からカラーポジフィルムで撮られた。

当初のカラーフィルムの感度はまだまだ低く、カラー映画が日本で一般化した時代の四分の一か五分の程度の感光度しかなく、その為『カルメン故郷に帰る』は大方がロケで成り立っている。そんな事情で万が一の失敗を恐れ、カラーフィルムとは全く別に、白黒フィルムでも同時に撮影された。劇映画のカラー化は映画史的に考えれば、一大革命であったのは間違いない所であつたろうが……。

何はともあれ、映画に色彩が付く事に因って表現の幅は考えられないぐらい大きく広がったのだが、私には逆に失って仕舞った物も多かったのではとも思っている。その不明瞭さ、その不確かさ、その怪しさ、その曖昧さ、その一途さ……。それらは別次元の話になるだろうから、前のヌケの続きに戻す。カラー劇映画には、その作品の内容に因っては「色の濁り」が表現の幅を拡めたり深めたりする事が、往々にしてあるのが現実でもある。色なる「曲者」は、兎も角、厄介なのである。

駅馬車は一心不乱に走る宛もインディアン（正確にはアパッチ族）に襲われるのを前提にするかの如くに、唯々、只管に疾駆し続ける。そして必然としてのインディアンへの襲撃。有り体に言って仕舞えば、映画『駅馬車』を見ている大多数の観客達は、心昂らせて兇暴なるインディアンの大襲撃を今や遅しと待ち望んでいたのだ、その惨劇

が始まり出すとやんややんやの大喝采の埒塙と化し、「正義は我にありの駅馬車の乗客達」に完全に自己同一化しているのであるから、「残酷極まりない兇暴なるインディアン達」の皆殺しを一も二もなく全き支持している。「もつと殺れもつと殺れ!!」と、内心、指嗾しているのだ。そこにこの『駅馬車』の、麻痺的快感に陥る絶大なる危うさがある。

何も大傑作『駅馬車』だけでなく、殺戮を旨とした映画一般の巧まざる危うさがそこにはある。凄まじい暴力性への甘美なる陶醉感。己達より下等と思える者達への動物的嗜虐性。只管に虐殺する事への獸性的本能。人間なる異常に知能の発達して仕舞った動物は、理性の裏側に自らが決して気付き得ないといんでもないデーモンを、密やかにして強かに宿しているのであらう。

駅馬車は人々の人生を、或いは人世を、或いは人性を乗せて疾駆しているのである。当たり前であ

る。乗っているのは須らく人であるのだから。様々な人生・人世・人性を持ち合わせた今迄全く会った事のない見ず知らずの人々なるが故に、そこには「ある絶対的意味」が、巧みなまでの狡猾さを秘めて内包されているのだ。西部の荒野を只管に只管に疾走する駅馬車。微塵の躊躇いも見せず襲撃し捲るアパッチ族の戦士。兇暴なる殺戮者を一致団結して反撃するアメリカ人の乗客達。西部劇のダイナミズムの白眉と言っても差支えなく、その心躍る快美な躍動感が凄惨を極める大虐殺を、全き正当化させる多大な要素になり得ている。絶対的正義に因る大殺戮——。

斯くて「正義の大虐殺」は多少の犠牲を払いながらも首尾良く貫徹され、「アメリカ合衆国の正義」は万々歳の内に見事なまでに維持されたのである。「アメリカ合衆国の揺るぎなき絶対正義」の元に、略奪者足る「野蛮極まりないインディアンなる蛮族」は辛くも誅滅され、国内の安寧秩序は敢然として維持されたのである。アメリカの揺るぎなき絶対正義は譬え如何なる敵であれ、全アメリカ人の暴力の総結集を以てしても誅滅しなければならぬ——。アメリカ

の「絶対の国是」である。『駅馬車』の主演はアメリカ版男伊達の代表ジョン・ウェイン。日本映画界の男伊達は勿論我らが高倉健その人。その健さんの背中には常として、唐獅子牡丹を始めとした眼にも鮮やかな刺青が凄絶なまでに彫り込まれているのだが、アメリカ版男伊達デューク（ウェインの愛称）の背中には如何な時にも、スター・アンド・ストライプス即ちアメリカの国旗が燦然としてはためているのだ。と同時に、その脇には必ずの様にあの乙旗（!!）が翻翻として翻っている感がある。「アメリカの全き正義」を身を以て体現している漢なのだから。ロシア戦争の罫、あの日本海々戦で長官・東郷平八郎大將座乗の旗艦三笠に、高々と掲げられた有名なあの乙旗である。即ち戦いの旗だ。ジョン・ウェインは何時にても背中に星条旗と乙旗を恭しく背負い、微塵の疑いもないパトリオット（愛国者）として、アメリカ映画の正義の最強なる代弁者となった。自由な国アメリカ合衆国に仇なす不逞の奴隷を撃ちてし罷まん——。それこそが漢足るジョン・ウェインの真骨頂なのだ。

ここからは、視点を百八十度ずらして『駅馬車』を考える事にする。駅馬車を襲ったアパッチ族達は、果してバルパロイ（野蛮なる敵の意で異民族を蔑む言葉）であったのか？ インディアン（この言葉も白い肌の侵略者達の大間違いから発した蔑みの命名）の観点に立つて考えれば、何所にあるかも知らない国から白い肌をした侵略者どもが、突然に襲い掛かって来たのだ。侵略者どもは辺り構わず赤い肌の我々の仲間を虐殺し、父祖伝来の我々の土地を根刮ぎ収奪したのだ。白き侵略者どもはこの地を「新大陸」などと勝手にほざいているのだが、インディアンなどと蔑まれた名を付けられた原住民達にすれば、「我々は父祖代々この地で日々の生業を立てて来たのであり、突然出現した白き野蛮人どもなどに、勝手に新大陸などと名付けられる謂れなど金輪際ないっ」である。完全なる正論である。反撃しなければジェノサイド（民族などの大虐殺）になるのは火を見るよりも明らかであり、原住民諸部族連合は渾身の憤怒を滾らせ、侵略者どもを襲撃して手当り次第に屠り捲った。白き侵略者達はその恐怖に恐れ戦き、前にも増しての原住民狩りに狂奔し出した。

アングロ・サクソン系を主とした白人達に取っては、インディアン狩りは正に「全き正義」の行為であった。

必然としての二つの正義の睨合い。随所で繰り返される二つの正義の角逐。絶対に譲れない二つの正義に因って朱に染まる新大陸と称された大地。名匠ジョン・フォードに、インディアンに対して別して強烈な差別意識があり得たとは思われない。ジェロニモ族の駅馬車襲撃は、唯々面白くアクシオン西部劇を作らんが為の一素材でしかなかった筈だ。アクションを売り物とする一連の西部劇では、残忍で頑強なる大悪人が不可欠な一大要素となる。名匠はその定理に従った迄に過ぎない。一素材として登場させられた原住民・ジェロニモ族の正義の襲撃は、結果として、見るも鮮やかな活力感をこの上なく現出させ、斯くて『駅馬車』なる映画は西部劇の最高傑作として伝説化したのである。

以後、それは「兇暴なる残虐な野蛮人インディアン」の確なる定着化でもあった。以降、赤い肌を持つ原住民インディアン諸部族への諸差別は、連綿として続いているのである。ネイティブ・アメリカ

カンであるインディアンを敵役とした西部劇はごまんとあるのだが、私に与えられたスペースには限りがあるので超名作『駅馬車』を以てその代表と為し、後は私の意のある所を類推して欲しい。猶、それらのアンチ作品としてインディアンを主人公にした名作も数多くあるのだが、これらも同様記すスペースがない。監督ジョン・フォードの名譽の為に書いて置くが、後年、ネイティブ・アメリカンであるインディアン達に、彼らを敵役とした映画を作った事に心から詫びて赦しを乞うた。

昨年、ミネソタ州ミネアポリス市で黒人男性が微罪容疑で逮捕時、白人警察官の度し難い暴行を受けて不幸にも死亡した。その時、偶然に撮られていた映像がインターネットを通じて全世界に流れ、忽ち大問題となって世界中を震撼させた。アメリカ建国以来の宿痾、白人の有色人種への差別。この事件とほぼ同時期、アメリカ映画史上最高傑作との誉れも高い超名作が、今後上映或いは放映出来なくなるかも知れない、との衝撃的ニュースが駆け巡った。その作品こそ例の『風と共に去りぬ』理由は

黒人女性奴隷の描き方であった。この映画の内容を一言で言えば、南北戦争前後のアメリカ南部を巡る話である。折しもアメリカでは、パワハラやセクハラの方が数多く槍玉に上っていた。更には、所謂 #MeToo なるハリウッドの女優達の赤裸々な発言がそれに追い討ちを駆けた。彼女らが必死の思いで上げた抗議の絶叫は、瞬く間に世界中に拡散したのだが、その抗議の発言は必然的に総ての差別への糾弾として拡がった。

ハリウッド女優達へのパワハラやセクハラ、又はその全く逆の現象である女優達の肉体を使つての配役獲得などは、ハリウッド黎明期から囁かれていてその悲喜劇は常に楽屋雀達の恰好の話題として取沙汰されたのだが、それらをテーマにした映画も数多く作られ、中には注目に値する様な作品も散見された。嫌がらせや差別に関してはこの御仁にも是非にも、御登場願わしいと存じ候う所なり。前アメリカ大統領ドナルド・トランプ閣下。多くの人が知っているの

別などは、世界全体でいの一に根絶しなければならぬイシューとしての認識が深まった。

アメリカに於ける差別を指弾するだけでは、公平さを欠く怨みがある。そこで我が国の差別に就いても記す。この老人の何気ないジョーク崩れの間抜け極まる一言が、今次のオリンピック・パラリンピックを危うくさせる激震となった。組織委員会々長森喜朗。森会長の『女性蔑視発言』は、立ち所にマス・メディアや識者達らの批判の集中砲火を浴び、彼は止むなく会長職を辞するに到った。

恐らく、彼には女性を蔑視する意図などさらさらなかったと思う。彼は軽いジョークを言う心算で、「女性が沢山入っている会議は時間がかる」などと発して笑いを取ろうとしただけだったろうが、それは森の認識なる物が全く以て甘かった。大甘であった。

軽口で最初に笑いを取って場を和ませ、その後やおら本筋の議論に誘導し様と目論んだのだろうが、このオッサンの機智のないベタな『親父ギャグ』なる代物は、全くウケる事なく大コケになり果て、己の首を絞める皮肉的で無惨なる結果を招来させて仕舞った。森会長

の女性蔑視発言なる代物が人種や国籍や性別の平等を謳う、オリ・パラ憲章に抵触するとの事でこの様な結果を招来したのだが、先に書いた如く、彼には恐らくそんな大それた意識など微塵もなく、極く卑俗的に譬えれば、下手糞なお笑い芸人が、ここぞと許りに笑いを取りに行った自慢のギャグが見事に失敗して大スベリしてすごと退散、と殆ど同様の事ではないのかと思われる。

組織委員会の会長と言う要職にある人物の発言と、下手なお笑い芸人のコケを同列で語るなどの批判もあるが、私にはその程度の低次元の問題だと思われる。こんな他愛ない失言を平気でする辺りが、『鯨の脳味噌を持つ男』と揶揄される所以であろうか……。あの様な発言を公式の場であれば、必ず、オリ・パラ開幕に反対する勢力、具体的に記せば、野党の大多数、それを陰に陽にと支援する左翼・左派・リベラル系マス・コミ、更にはそれらに手もなく同調する識者達に、絶好なる機会を自ら与える事になるのを全く気が付かない所など、矢張り、鯨の脳味噌を持つ男と言わざるを得ないのか。森前会長の女性蔑視発言なる物

を取り上げたが、それよりは実はこちらの差別の方が深刻であると思われる。世界経済フォーラムがこの度発表した「ジェンダーギャップ指数」である。それに因ると日本女性の社会的地位は、何と世界百二十位。世界最低クラス。総ての日本の女性達よ、奮勇を振って立ち上がれ。

差別に関しては次の深刻なる事象も絶対に書かねばならない。中国に於ける様々な差別と弾圧だ。ウイグル人、モンゴル人、チベット人。中国で大多数を占める漢民族に因る、ウイグル人・モンゴル人・チベット人に対する差別や弾圧は、言論・思想・報道の自由が何ら認められていない共産国家故、詳細かつ精緻なる情報は残念ながら確とは判らないのだが、インターネットや国外に脱出した彼らの親族などから臆げながら判る様になった。世界は果してそれに有効なる対抗策を取れるのか？ 中国以外にも同様な国家が沢山存在する。ロシア、北朝鮮、ミャンマー、ベラルーシ、シリア……書き出せば限りがない。更にはイスラム教を国教としている国々。この様に世界を観望すれば枚挙に遑がなくなるほどだ。

紙幅も尽き様としている。形だけでも何とか愚論を纏めねば『馱馬車』と『風と共に去りぬ』に就いて私の思う所を些か書いて来た。特にそれらに見られる差別性に就いて。更には『風と共に去りぬ』に就いては色彩に就いても。矢張り最後は最初に戻り、二作品に就いて書きそびれた事柄を記す。

『馱馬車』は万人の認める、超映画とも言える名作中の名作である。異論を挟む余地などはないと思うのだが、然に非ず、中には滅茶苦茶に腐す御仁もいるのだ。その代表として二人を上げるが、その二人共、困った事に私の好きな人物である。先ず一人目は、脚本家であり、映画評論家であり、人物評論家であり、社会時評家でもあった石堂淑朗。石堂は斯くの如く言う。

完璧な構成に驚いた。南北戦争の後遺症からアル中になつて彷徨^{さまよ}っている医者など、登場人物も実によく描けていると思うが、所詮は一般論から一歩も出ていない。旨いことは旨いがやはりバーボンで、スコッチではない。

私は思う、これぞ蘊蓄のある論難であろうと。一言居士、否々、これぞ「暴言居士」(?)。更にはもう一人の暴言居士フランソワ・トリュフォー監督の驚く可き一言。

一。

彼トリュフォーはジョン・フォードの死を聞いて斯くの如く叫んだと伝えられている。私にとつて意外であつたが、それにしても、何とも凄まじいまでの暴言であらうか。寧ろその正直さと素直さに、反つて好感すら持つて仕舞う。正に、寸鉄人を刺すの慣用句の如くの暴言は、発した者の知性の内実が真に問われているのだ。そして、私の赤つ恥になる様な話であるのだが、トリュフォーの様に正直さと素直さを以て偽りなく記す。映画『馱馬車』は、フランスの大作家であるモーパッサンの小説『脂肪の塊』を下敷とした作品であるのはそれなりに知つてはいたが、さて『脂肪の塊』とはどんな内容の小説だつたかはもうすっかり忘れていたのだ。

次は『風と共に去りぬ』に就いて。特にその色に関して。発色の基本原理はこの作品が製作される可成り前から欧米などの先進国では判つていたのだが、カラー劇映画はこの作品を以て嚆矢とする。光の三原色である赤・青紫・緑をそれぞれ別のフィルムに感光させ、更にその三本のフィルムを重ねて一本として色彩を作り出す。フィルムを複数重ねなければ色は出ないので、如何にしても画面自体の鮮鋭度は甘くなつて仕舞う。ではあるが、その鮮鋭度の甘さが逆に柔らかさや円やかさを醸し出して、テクニカラーの独特の色合いと上手い具合に融合し、表現それ自体には何とも言えない深みを与えてもいるのだ。

『風と共に去りぬ』を逸早く鑑賞した意外な日本人がいた。驚くのは戦時中だ。その人の名は松竹の高名な監督小津安二郎。戦時中報道班員として徴用された小津は、南方で日本軍が鹵獲したこの作品を見る機会を得た。彼は日本映画との桁違いな壮大なスケール感と、当時日本にはなかったカラー映画の素晴らしさに、心底驚嘆したと伝えられている。極めて日本的な情感だけをしつこい程丹念に描き続けた小津安二郎に、果して、戦時中に南方で鑑賞した『風と共に去りぬ』は、戦後、如何なる影響を与えたのだろうか。又は全く

与えなかったのか。実に興味のあ
る所である。

赤・黒・黄・白。人類の肌の色
は地域に因って皆違う。如何せん
差別は今も続く。残念ながら将来
も長く長く続くと予想される。所
与の諸条件は世界中の何人も如何
ともし難い。肌の色や性別などは
その典型である。「差別なる概念」
は、世界中如何なる所でも必ずの
ように存在している。極めて残念

リングに吼えろ！

「アンダードッグ」前・後編(監督
Ⅱ武正晴)

●前編

脚本Ⅱ足立紳。お笑い芸人がプ
ロボクサーに挑戦する。死に物狂
いでプロに迫る様が感動的。チャ
レンジ精神の大切さを教えてくれ
る。咬ませ犬・末永晃(森山未來)、
新人ボクサー・大村龍太(北村匠
海)、芸人・宮木瞬(勝地亮)が交
錯する。末永はかつて日本チャン
ピオンタイトル戦を闘った男。ラ
イバルは世界チャンピオンになり、
今は解説者。末永晃はまだ夢を追
っているよう。ジムの会長は夢を
諦めさせようとしている。末永は

至極ではあるが、それを否定する
事は真実その物を否定するに等し
い。

果して、我々は差別が存在しな
い様な世界を築く事が可能なのだ
ろうか？ 否、そんな事は所詮無
理で、これからも世界中のあらゆ
る所で、差別なる物はずっと続く
のだろうか？ 私にはその答は明
確には判らない。「人種差別絶対反
対」・「民族差別根絶」・「女性差別
糾弾」これらのスローガンは全く

別居して息子の太郎を妻(水川あ
さみ)に託し、風俗の運転手とし
て暮らしている。太郎は父親の強
い姿にあこがれている。妻は夫の
闘う姿を太郎に見せたくない。大
村龍太にも宮木瞬にもパートナ
ーがいる。瞬の父親は高名な俳優
(風間杜夫)。瞬には愛想をつかし
ているが、瞬のパートナーからチ
ケットをもらい試合を見に行く。
瞬の闘う姿に感動する。試合後病
院のベッドへ。瞬は昏睡状態。パ
ートナーにいい試合だったと伝え
てくれと言つて去る。かつてグラ
ブを交えた今は解説者の元世界チ
ャンピオンは、素人相手に無様な
試合をした末永にボクシングをも
うやめろと告げる。後編が期待で

正しく、微塵も反論の余地はない。
それらは宛も「戦争絶対反対」・
「核兵器全廃」・「反戦平和は全き正
義」と同様、如何なる意味に於て
も反論の余地すら見出せない。
であるからこそ、私はそこに疑
念の焰が吹き上がるのも偽らざる
事実である。人皆声高に絶叫する
「絶対正義」程危険な物はなく、時
として、その絶対正義なる事象を
疑つて見るのも必要なのではない
か。極めて皮肉っぽく申せば、そ

きる。131分。

●後編

最後、末永晃と大村龍太がグラ
ブを交える。大村は孤児院で育ち
半ぐれをしていた時期もあった。
同じ孤児院で育った女と結婚、今
は幸せに暮らしている。孤児院に
いたころ、末永が慰問に来てくれ
殴り倒された過去をもつ。末永の
日本タイトルマッチを見ている。
末永が運転手を務めるデリヘル讓
(瀧内公美)は同棲相手から子供
が虐待されており、子供を死なせ
てしまおうと思うが、未遂で済む。
女は刑務所へ。子供は施設へ。末
永は妻から別れ話を持ち出されて
おり、修復不可能な状態にある。
息子の太郎は末永の世界チャンピ

の様に疑い抜き疑い抜いた末、絶
対正義らしき物が仄見えて来るの
ではないか。勿論、明確な輪郭な
どとはとても言えないのだが、実
相の極々一部なりとは見え隠れす
るのではないか。

『駅馬車』と『風と共に去りぬ』
を久しぶりに見て、斯くの如くの
夢想にしばし揺蕩った。つまらな
い暴論・愚論を読了して下さった
皆々様に感謝申し上げます――。

――了――

オンを信じている。末永とデリヘ
ル讓は恋愛関係に。デリヘル讓の
出所を待つことを決意。

デリヘル讓の得意客である変態
気味の男はかつて大村の暴力によ
つて下半身不随の身にされた。刃
物を振るつて復讐する。大村は失
明の危機に陥るが回復する。デリ
ヘルの店を任されている男はヤク
ザへの上納金に常々悩まされてお
り、取り立て屋を刺すが、仲間に
ぼこぼこにされて入院。退院後は
刑務所暮らしが待っている。男は
年増のデリヘル讓(熊谷真美)と
の結婚を大村にもらす。ボクシン
グを通して男や女が結び付く。い
ろいろな生きざまが錯綜する。1
45分。

(T・S)

韓国映画百選

星 文子

韓国映画百年の歴史

韓国映画の初期の歴史は日本の植民地時代（1910-1945）と重なっている。活動写真が広く知られるようになったのは1903年ごろで、大衆文化としていち早く普及拡散したものの、上映作品は外国からの輸入に頼っていた。そうしたところ、1919年10月27日に連鎖劇「義理の仇討」（正確な意味は「正義の制裁」）が封切られ、映画史の起点となった。連鎖劇というのは演劇の途中に映画を上映して、それぞれの効果を併用する方式で、舞台では表現しづらい情景や場所をあらかじめ撮影しておいて、必要な瞬間に舞台の照明を消し映写して演劇の筋を映画の場面に連結させるもの。映画としては不完全な形式だが韓国資本・演出・俳優で作られており、これを記念して韓国では10月27日が「映画の日」に制定されている。

ほどなく無声映画の時代となり、

1923年には最初の劇映画「月下の誓い」が作られた。朝鮮総督府通信局の資本で作られたこの作品は、貯蓄を奨励する啓蒙映画だったというのが時代を感じさせる。続いて「沈清伝」や「春香伝」など大衆によく知られた物語が映画化された。しかし、無声映画時代の最高傑作であり問題作はなんといっても1926年にナ・ウンギュが監督・脚本・主演した「アラン」といえる。韓国映画の芸術的水準を一段高めたというこの映画の完全版は残念ながら現在見ることができないが、残されている部分だけでもナ・ウンギュの力リスマ性が十分にうかがい知れる名作だ。

ところで日本の占領期に制作された映画を「朝鮮映画」というが、1937年、日中戦争の開始とともに日本が本格的な軍国主義の道を進めはじめると朝鮮映画も統制の対象となった。1939年に公布された朝鮮映画令に基づき強力な検閲が実施され、1942年に

はすべての映画会社が朝鮮映画製作株式会社に統廃合された。民間映画社は映画製作ができなくなり、「内鮮一体」の名のもとに皇国臣民として報国することを奨励する御用映画が作られた。

1945年、日本の敗戦とともに朝鮮半島は植民地から解放され主権が回復したものの、38度線より南はアメリカ、北はソ連に占領され、南北の分断が固定化し、1950年には同族相食む朝鮮戦争が勃発する。しかし大韓民国樹立から朝鮮戦争の終結までの混乱期にも多くの作品が制作され1950年代中盤には映画の中興期を迎える。当時の主流はメロドラマや社会悲劇を扱った新派調の作品だった。

1960年4月の革命で李承晩の長期独裁政権が倒された後、過渡期の政府下で束の間検閲の空白期が生じ、「下女」（1960）、「誤発弾」（1961）、「三等課長」（1961）などの大胆な作品が生まれた。しかし1961年5月に朴

筆者より1980年代、はじめて出かけたソウルに魅了されて以来、韓国とも韓国語とも長い付き合い。2020年1月にソウルに行った折、KALの機内誌に韓国映画百年記念の記事が出ていた。面白かったので100選のうち、日本でも上映された映画を選んで、原稿を送ったところ、関田さんから「どうせなら全部」というお達し。それ以来ユーチューブで40〜90年代の映画を見まくり、その結果ありがたいことに『シネマ気球』掲載となりました。感謝。

正熙がクーデターで政権を握ると韓国映画の保護を名目に強力な統制が実施された。無数の作品が事前検閲で改作通告を受け、完成したフィルムも検閲を免れず、社会の暗い現実を描いた作品の上映は禁止された。そのような状況の中でも韓国映画は驚くほど成長し、シン・サンオク、キム・ギヨン、ユ・ヒョンモクなど50年代に登場した監督たちが多彩なジャンルの映画を生み出した。

1970年代にはTVの普及に伴い映画館を訪れる観客数が急速

に減少し韓国映画は衰退期を迎える。この時期の映画は60年代に比べ低俗あるいは通俗とけなされるが、産業資本主義の高度化、都市化、家族制度の変化など、軍事独裁政権下で韓国の青年層が直面していた憂鬱や不安の情緒を捉えた映画―「星たちの故郷」(1974)、「馬鹿たちの行進」(1975)など―が注目された。

1980年代は韓国映画の暗黒期と呼ばれる。愚民化政策の一環として映画での性描写に関する検閲が緩和され、エロティシズム映画が量産された。その一方で「風吹く良き日」(1980)、「コパン村の人々」(1982)などの社会リアリズム映画も制作された。

1990年代までの長期不況を経験した映画界に活力を吹き込んだのはイム・グオンテク監督の「將軍の息子」(1990)、「風の丘を越えて」西便制(ソピョンジェ)」(1993)だった。特に「風の丘を越えて」はソウルの封切り館で百万人を超える興行を記録した。

ついで「ザ・コンタクト」(1997)が若い観客の心を捉えるのに成功した。6百万人以上の観客を動員した「シュリ」(1999)は韓国映画産業に地盤変動をもたら

した。これ以降多額の製作費を投入し、映画の見せ場をふんだんに盛り込みシネコンのスクリーン数を最大限確保して大公開する戦略の映画が増えた。軍市政権が去り韓国社会に民主化が定着する過程で「ペパーミント・キャンディ」(2000)や「シルミド」(2003)など、近い過去を振り返るリアリズム映画も製作されている。

今日の韓国映画の隆盛を考えるうえで忘れてはならないのは制度的な変化だろう。まず1987年にシナリオの事前審議制度が廃止され、続いて1996年には憲法裁判所で映画の事前検閲が違憲判決を受けて廃止された。それによって映画の世界がどれほど広がったかは想像に難くない。社会の不条理を告発するリアリズム映画の写実主義的伝統の下、多様な題材や表現法が日の目を見ることとなった。かつての独裁政権の不正、政財界の暗部やタブーも映画のモチーフとして果敢に取り上げられている。

1998年に日本の大衆文化の解禁が及ぼした影響も少なくないだろう。それまでの競争相手は主にハリウッド映画だけだったのが、映画館で日本映画を普通に見られ

るようになったからだ。漫画が映画界に及ぼした影響も少なくなく「オールド・ボーイ」のように日本の漫画を原作とする作品も登場している。

2000年を前後して韓国映画は2つの欲望に捉えられた。ハリウッド映画と競争しうる規模の映画を夢見ながら、ヨーロッパの芸術映画のような作家主義の映画を持つことだった。驚くべきことは、このような欲望が大衆性と芸術性を併せ持つ監督、すなわちパク・チャヌク、ポン・ジュノのような監督の誕生を促したことだ。韓国映画は「シルミド」(2003)と「大極旗翻つて」(2004)が続けて1千万映画となって以来、国内市場でハリウッド映画との競争に勝利し、「グエムル―漢江の怪物」(2006)などの1千万映画を提供し続けている。韓国映画の観客は急増し、人口1人当たり年に4・18回(2018)という映画観覧回数は世界最高水準を記録中だ。この成長期にパク・チャヌク監督は「オールド・ボーイ」(2003)でカンヌ映画祭審査員大賞を受賞し、ポン・ジュノ監督は「パラサイト」(2019)でカンヌ映画祭パルムドールのみならず

アカデミー賞作品賞まで手にした。「パラサイト」は栄誉と1千万観客というタイトルを同時に手にしたのだ。これは韓国映画の質的、量的成長を示す象徴的な結果と言えよう。韓国政府はこれまでも大衆文化の映画やTVドラマ、K-popなどを輸出コンテンツとして世界に進出させるための支援を続けてきた。人口5千万余で国内需要に限りがある韓国では、この流れは今後さらに強まりそうだが、例えば日本の政策と比べると立つのが産業的な成功が不可避な点ではないかと思う。日本の場合、輸出されるのは伝統芸能中心で、自国の素晴らしい文化に自己陶醉しているか、どうせ外国人にはわかるはずがないと端から高をくくっている態度が見え隠れする。売れるかどうかは二の次なのだ。それに対し韓国方式は売れてなんぼ、儲かってなんぼというリアリズムが徹底しているため、成功するためのリサーチや対策を惜しまないし、それに基づいて努力を重ねていく。漫画にしてもキティちゃんに代表される「かわいい」文化にしても海外で人気が出たとたん「クール・ジャパン」なんて能天気な騒ぎ出す日本とは大違いである。

「パラサイト」のアカデミー賞作品賞受賞に次いで、ベテラン女優ユン・ヨジョンが「ミナリ」で助演女優賞を受賞したことで、日本で韓国映画を上映する映画館が増え、封切り時期も現在より早まることだろう。今後が楽しみである。

(注1)「韓国映画百年の歴史」の内容は映画評論家ジョン・ジョンヒョク氏の『韓国映画の進化』を参考にした。

(注2)ソウルで初めて映画館に行ったのはたぶん80年代末で、古い映画館特有のトイレの臭いと後ろの席の観客が食べるスルメの臭いや咀嚼音に閉口した記憶がある。最近ではあまり見かけないが、その頃、映画館はもとより長距離バスや汽車の中でもスルメを食べる人がよくいた。館内に売り子さんがいたようにも思う。

上映に先立ってスクリーンに太極旗が映し出され国歌が流れるので、その間起立姿勢で待機。そのあと流れるモノクロで画質の悪いニュース番組では当時の主要政策の一つだったセマウル運動によって

地方の村の暮らしがいかに良くなったかが映し出された。「セマウル運動」とは1970年に始まった勤勉・自助・協同精神による新しい村づくり運動を指す。

(注3)かつて、韓国映画は人氣がなく客の入りが少ないので映画館側があまり上映しなかった。それで国産映画の保護と外国映画の輸入制限を目的にスクリーンクォーター制が制定され、国産映画を年間何日以上上映しなければいけないと決められていた。現在、制限日数は年間上映日数の5分の1以上となっている。

(注4)数年前、ソウルで帰りの飛行機の時間まで暇をつぶそうとシネコンをのぞいたら、どこも「君の名は」ばかりやっついて、がっかりしたことがある。日本のアニメや漫画の人氣は韓国でも非常に高い。

韓国映画百選

2019年韓国では映画誕生百年を記念する多彩な行事が行われた。ハンギョレ新聞とcjj文化財

団は共同でこの百年の間に作られた映画約1万篇の中から百篇を選出する作業に取り掛かった。cjj文化財団とは音楽・映画・公演分野を支援して健全な文化の育成に寄与することを目的に2006年に設立された財団で、映画事業部のcjjエンターテインメントはその傘下にある。選考委員は映画監督、製作者、映画評論家、映画史研究者、映画祭の番組編成者ら39名。

ところで現存する作品で一番古いものは無声映画の「青春の十字路(1934)」で、それ以前のものは1篇も残っていない。保管状態がいい加減だったせいで行方不明になるか朝鮮戦争の混乱時などに焼失したものと思われる。1960年代の作品でも保存率は44パーセントにすぎない。1980年になっても全国同時に上映できるフィルムのコピーは6巻前後だったので封切館、二番館、三番館と回って最後にはボロボロになって古道具屋かゴミ箱行きだった。封切りした映画のフィルムの提出が義務化された1996年以降はさすがにほぼ100パーセント残っている。今回の選定では残念ながら現在観覧できないものは対象外

とされたため名画と定評のある「アリラン」や「晩秋(1966)」も対象外とされた。「晩秋」はその後二度リメイクされているほか、日本でもリメイクされている。

また1937〜45年の間に作られた、日本の戦争遂行体制への協力を推進・奨励する目的で作られた御用映画も対象外となっている。

もうひとつ興味深いのはセクハラ事件関連の監督の作品が除外されたことだ。したがって海外で人氣の高いキム・ギドク監督の作品は百選から締め出されている。これが日本だったらここまで徹底できるだろうか。

*「晩秋」は日本では「約束」という題で1972年、岸恵子、ショウケン主演、斎藤耕一監督でリメイクされている。
*40位の「裸足の青春」のキム・ギドク監督は同名の別人。
学歴社会の韓国では映画界も例外ではなく、監督も俳優も有名大卒や留学組も珍しくない。そんな中で、小卒、30代で映画を撮りはじめて海外で高い評価を得たキム・ギドク監督はある意味目障りな存在だったかもしれない。

選ばれた作品の年代別作品数は次の通り。参考までにその時代の歴史的背景を次ページに付記した。

〈年代別百選選出本数〉

30〜40年代 3本、50年代 5本、60年代 12本、70年代 8本、80年代 18本、90年代 24本、2000年代 26本、2010年代 4本。

〈ベスト100〉

*題名の後に☆マークのあるものはユーチューブで視聴可能。ただし題名をハングル入力しないと目的の映画にたどり着くのが難しいのと、日本語字幕を指定しても日本語訳の精度が低く、あまり参考にならないかもしれない。

1 「馬鹿たちの行進」 ☆

いつ解除されるとも知れない戒厳令の下で、将来に対する夢を抱くこともできず、変化の兆しも見えない暗鬱な時代に生きる若者たちの苦悩やあがきを描いた作品。全体の1割ほどが検閲でカットされた関係で前後の話のつながりの見えない不条理劇のような部分がある。

2 「誤発弾」 ☆

38度線の北側から朝鮮戦争の戦火を逃れてきた根無し草の家族が暮らしているのは解放村という名のバラック村。家族それぞれの屈折した生の在り方を通して戦争と近代の影が生み出した貧しさが端的に表されている。

3 「下女」 ☆

夫の給料と妻の縫製の内職で夫婦が手にした2階建ての洋館。妊娠中の妻の負担を減らすために雇い入れた下女は階級上昇を狙って夫を誘惑する。夫の占有をめぐると下女の対立を通して、人間の欲望と抑圧、恐怖と不安、タブーへの誘惑と処罰への怖れが家庭の空気を変えていく。子役時代のアン・ソングが出演している。

4 「風吹く良き日」 ☆

近代化に伴う階層分化が進むソウルの片隅で助け合いながら暮らす地方出身の3人の青年それぞれのエピソードが描かれる。子役時代、達者な演技で人気を誇ったアン・ソングだが、長いブランクを経て大学卒業後映画界にカムバックしてしばらくは鳴かず飛ばずの状態だった。それを一気に打ち破ったのがこの作品。

5 「八月のクリスマス」

写真館を経営するチョンウオンはもう若くはないうえに難病にかかっている。そんな彼の前に澁淵とした駐車取締り員のタリムが現れる。最初はおじさん扱いしていたタリムだが、一緒に過ごす時間が増えるにつれて彼に好意を抱くようになる。瑞々しくて胸がひりつくメロドラマはホ・ジノ監督のデビュー作。声優出身だけあってハン・ソッキュは滑舌も声もさすが。

6 「殺人の追憶」

1980年代にある農村で実際に起きた連続殺人事件を素材にスリラー調で展開していた映画は、なぜ犯人を捕まえられない時代だったのかという問いを発すること戒厳令下の80年代という時代そのものに照明を当てている。80年代を映し出す映像の暗さに比べて映画の最後2003年の映像はまぶしいほど明るいのが、どこか暗さを潜めているようだ。

ちなみに現実世界では事件はすでに時効になっていたが、2018年別件で服役中だった男が犯行を自白して、あっけなく解決した。

7 「荷馬車」 ☆

自動車が馬にとって代わろうとしていた時代に、親から受け継い

だ唯一の財産である馬で荷物を運ぶ馬方として暮らす主人公とその家族・隣人たちの人情物語。

8 「オールド・ボーイ」

日本の漫画が原作。ある日突然、理由もわからず拉致され、その後15年間も監禁され解放された男の犯人探しと復讐の念が思いがけない結末を迎える。

9 「達磨はなぜ東へ行ったのか」

登場人物は3人、台詞は禪問答のようで筋というほどの筋はなく、美学専攻の監督らしく、美しい山寺の風景で点綴された作品。ロカルノ映画祭で入賞した。

10 「コバン村の人々」 ☆

ソウルの片隅の貧しい村で、ミョンスクは再婚した夫と小さな八百屋を営んで暮らしていたが、そこに思いがけず前夫が現れる。前夫はスリの常習犯で新婚時代から何度も刑務所行きを繰り返し、結局仕方なく離婚したのだった。今はタクシートの運転手としてまっとうに暮らす前夫で、息子の実の父親でもあるチュソクと今の夫であるテソプの板挟みになったミョンスクの動揺と苦悩が描かれる。

11 「馬鹿宣言」 ☆

リアリズム映画を作ってきたイ・ジャンホ監督が革新的映画技法

韓国映画百選

ハンギョレ新聞・CJ文化財団共同選出

順位 題名 監督 製作年

- 1 馬鹿たちの行進 ハ・ギルチョン 1975
- 2 誤発弾 ユ・ヒョンモク 1961
- 3 下女 キム・ギヨン 1960
- 4 風吹く良き日 イ・ジャンホ 1980
- 5 八月のクリスマス ホ・ジノ 1998
- 6 殺人の追憶 ボン・ジュノ 2003
- 7 荷馬車 カン・デジン 1961
- 8 オールド・ボーイ パク・チャヌク 2003
- 9 達磨はなぜ東へ行ったのか ペ・ヨンギョン 1989
- 10 コバン村の人々 ペ・チャンホ 1982 (未)
- 11 馬鹿宣言 イ・ジャンホ 1983
- 12 家族の誕生 キム・テヨン 2006
- 13 江原道の力 ホン・サンス 1998
- 14 ギャグマン イ・ミョンセ 1989
- 15 浜辺の村 キム・スヨン 1965
- 16 冬の女 キム・ホソン 1977 (未)
- 17 結婚物語 キム・ウィソク 1992 (未)
- 18 境界都市1・2 ホン・ヒョンスク 2002・10 (未)
- 19 競馬場へ行く道 チャン・ソヌ 1991 (未)
- 20 鯨とリーコレサニャン ペ・チャンホ 1984
- 21 子猫をお願い チョン・ジェウン 2001
- 22 J S A パク・チャヌク 2000
- 23 グেমルー漢江の怪物ー ボン・ジュノ 2006
- 24 彼らも私たちのように パク・クァンス 1990
- 25 キルソドム イム・グォンテク 1986
- 26 金葉局の娘たち ユ・ヒョンモク 1963
- 27 ディープ・ブルー・ナイト ペ・チャンホ 1985
- 28 光州事件／花びら チャン・ソヌ 1996
- 29 旅人は休まない イ・ジャンホ 1988
- 30 小さなボール イ・ウォンセ 1981
- 31 南部軍ー愛と幻想のバルチザン チョン・ジョン 1990
- 32 ナヌムの家 ピョン・ヨンジュ 1995・1997・2000
- 33 ナンバー3 ソン・ノンハン 1997
- 34 帰らざる海兵 イ・マニ 1963
- 35 豚が井戸に落ちた日 ホン・サンス 1996
- 36 息もできない ヤン・イクチュン 2009
- 37 ロボット・テコンV キム・チョンギ 1976
- 38 母なる証明 ボン・ジュノ 2009
- 39 曼荼羅／マンダラ イム・グォンテク 1981
- 40 裸足の青春 キム・ギドク 1964
- 41 ムサン日記ー白い犬 パク・チョンボム 2010
- 42 未亡人 パク・ナムク 1955 (未)
- 43 迷夢 ヤン・ジュナム 1936
- 44 憎くてももう一度 チョン・ソヨン 1968
- 45 シークレット・サンシャイン イ・チャンドン 2007
- 46 浮気な家族 イム・サンス 2003
- 47 ペパーミント・キャンディー イ・チャンドン 2000
- 48 反則王 キム・ジウン 2000
- 49 星たちの故郷 イ・ジャンホ 1974
- 50 復讐者に憐れみを パク・チャヌク 2002
- 51 春の日は過ぎゆく ホ・ジノ 2001

- 52 新感染 ファイナル・エクスプレス ヨン・サンホ 2016
- 53 ビート キム・ソンス 1997 (未)
- 54 離れの客とお母さん シン・サンオク 1961
- 55 森浦への道 イ・マニ 1975
- 56 上溪洞オリンピック キム・ドンウォン 1988
- 57 風の丘を越えてー西便制 イム・グォンテク 1993
- 58 送還日記 キム・ドンウォン 2004
- 59 シュリ カン・ジェギユ 1999
- 60 ポエトリー アグネスの詩 2010 イ・チャンドン
- 61 嫁入りの日 イ・ビョンイル 1956
- 62 シバジ イム・グォンテク 1987
- 63 故郷の春 イ・グァンモ 1998
- 64 美しき青年ー全泰彦 パク・クァンス 1995
- 65 霧 キム・スヨン 1967
- 66 少女たちの遺言 キム・テヨン他 1999
- 67 糸車よ糸車よ (李朝女人残酷史) イ・ドウヨン 1984
- 68 英子の全盛時代 キム・ホソン 1975
- 69 オアシス イ・チャンドン 2002
- 70 ワイキキ・ブラザーズ イム・スルレ 2001
- 71 王の男 イ・ジュニク 2005
- 72 私たちの生涯最高の瞬間 イム・スルレ 2008
- 73 ウムクペミの恋 チャン・ソヌ 1990 (未)
- 74 牛の鈴音 イ・チュンニョル 2009
- 75 異魚島 キム・ギヨン 1977
- 76 情け容赦なし イ・ミョンセ 1999
- 77 自由万歳 チェ・インギユ 1946
- 78 自由夫人 ハン・ヒョンモ 1956
- 79 將軍の髭 イ・ソング 1968
- 80 ザ・コンタクト チャン・ユニョン 1997
- 81 ダイ・パッド リュ・スンワン 2000
- 82 地球を守れ！ チャン・ジュナン 2003
- 83 チスル オ・ミョル 2013
- 84 地獄花 シン・サンオク 1958
- 85 おばあちゃんの家 イ・ジョンヒャン 2002
- 86 チャッコ イム・グォンテク 1980 (未)
- 87 青春の十字路 アン・ジョンファ 1934 (未)
- 88 グリーン・フィッシュ イ・チャンドン 1997
- 89 最後の証人 イ・ドウヨン 1980 (未)
- 90 チェイサー ナ・ホンジン 2008
- 91 友へ／チング クァク・キョンテク 2001
- 92 チルスとマンス パク・クァンス 1988
- 93 トゥー・カップス カン・ウソク 1993
- 94 ストライキ前夜 チャンサンゴンメ 1990
- 95 避幕 イ・ドウヨン 1981
- 96 ピアコル イ・ガンチョン 1955
- 97 ホワイト・バッジ チョン・ジョン 1992
- 98 火女 キム・ギヨン 1971 (未)
- 99 休日 イ・マニ 1968 (未)
- 100 301・302 パク・チョルス 1995

*題名はシネコリア(cinecorea.org)の「日本公開作リスト」を参考に、日本で公開されたものは公開時の題名にし、それ以外は直訳にした。なお、映画とDVDで題名が違っている場合もある。(未)＝日本未公開。

<韓国映画界の主要な歴史的背景>

1945：日本の植民地からの解放と主権の回復
 1945～48：38度線以北はソ連に、以南はアメリカの占領下
 1948：大韓民国樹立。続いて朝鮮民主主義人民共和国樹立
 1948～60：李承晩長期独裁政権
 1950～53：朝鮮戦争
 1960：学生・市民の反独裁革命で李承晩退陣
 1961：軍事クーデターで朴正熙政権奪取。長期独裁政権が始まる
 1970～79：維新体制を布いて権力の強化を図る

1979：朴正熙暗殺される。軍事クーデターで全斗煥政権掌握
 1980：光州民主化運動
 1987：大統領の直接選挙制などが盛り込まれた民主化宣言発表
 1993：最初の文民政府発足
 1996：映画の事前検閲廃止
 1997：IMF経済危機。以後慢性的な不況
 1998：映画、歌曲、漫画など日本の大衆文化解禁される
 2018：板門店で南北首脳会談開催

を動員して作った作品。セリフは限られていて子どものナレーショで状況を説明する無声映画のような低速撮影と風刺的演技が特徴的。足の悪いトンチョル、がたいは大きいがちよつと頭の弱いユクトク、娼婦のヘヨン。それぞれ社会から疎外された三人は海辺の保養地でしばし楽しい時を過ごす。結局別れることになる。ソウルの宴会場で三人は思いがけず再会するが……監督曰く「80年代がこの映画を作った」。

12 「家族の誕生」

三つのエピソードが絡み合う独特のオムニバス構成。一人暮らしのミラのところに弟のヒョンチョルが20歳も年上の女性ムシンと一緒に訪ねてくる。その上ムシンの前夫の前の妻の連れ子チェヨンまでやってきて、ヒョンチョルはどこかへ行ってしまう、血縁でもない三人の同居生活が始まる。一方愛に生きる母が妻子ある男との間に子どもを産み、その後病死したためにソンギョンは年の離れた弟キョンソクの面倒を見ることになる。時は流れ成長したチェヨンとキョンソクは恋人になる。家父長的家族制度に縛られることなく、細心の人物描写と生動感あふれる

映像で家族関係の代案を軽々と提示した作品。

13 「江原道之力」

大学講師のサングオンと教え子のチスクは不倫の関係。チスクは気分転換に、サングオンは教授任用のためにそれぞれ江原道に旅立つ。彼らは同時に同じ場所にいないがら会うことはない。映画の最後、二人がソウルで再会する場面で、チスクは旅行前に手術を受けたことを明かす。

ホン・サンス監督の映画は一般的な韓国映画の常套的なパターンとは画然と違った新たな形式美を持つ。緩い物語構造で時空間を分節し、因果律を破壊する。善悪つけがたい平凡な人物の日常的な会話を通して他人の日常を手加減なく見せ、観客自らが判断して隠された意味を見つける過程に興味を持たせる。彼の作品は日常的であることが映画のありうることを教えてくれる。

14 「ギャグマン」☆

韓国最初のカルト映画。シナリオの事前審議や検閲、徒弟制度が監督たちの想像力をしぼりつけていた時代に、84年から87年まで、ペ・チャンホ監督の助監督を務めたイ・ミョンセ監督が放ったデ

ビュー作。作品中に数々の映画へのオマージュが散りばめられている。ペ・チャンホ監督が俳優として出演しているのも異色。

15 「浜辺の村」☆

同名の短編を映画化した文芸映画の代表作。浜辺の村に住むヘソンの夫や義弟、村の男たちを乗せた漁船が激しい暴風雨に遭って沈没し、義弟がたった一人生き還る。村の男サンスは寡婦になったヘソンに傍惚おぼれして、しつこく追い回し無理やり関係を結ぶ。その後二人は浜辺を離れ山の中でつましい暮らしを紡ぐが、穢れのない自然の中で暮らす女性たちの暮らしを叙情的な映像美で描き、韓国映画の美的水準を高めたと好評を得た。

16 「冬の女」☆

「星たちの故郷」「森浦への道」とともに暗黒期だった70年代の韓国映画を輝かせた記念碑的作品。大学に入学した日、イファはそれまで毎日のようにラブレターをくれた金持ちの息子ヨソプと初めて対面する。父の別荘でイファをハグしようとして拒否されたヨソプは、深い羞恥心から自殺を図る。激しい衝撃を受けたイファは自己を必要とする人々に献身して生きていく決心をする。学生運動に

熱中して停学処分を受けたソッキ、離婚後寂しいやもめ暮らしをしていた高校時代の恩師ホミン。当時の一般的道徳観や性的モラルに反するイファの言動は論難を引き起こしたが、それはその後の性的価値観の変貌を予測していた。一人息子として大事にされすぎて他人との距離感がつかめないヨソプの姿は今日にも通じるものがある。

17 「結婚物語」☆

1990年代、大企業が映画製作に進出し企画に沿った映画が作られ始めた。この作品はその始まりで、大衆のトレンドをリサーチしロマンチック・コメディ路線が選ばれた。この作品は1990年代現在の韓国の夫婦関係についての臨床報告のような映画だ。韓国の結婚制度がどれほど男性中心的で、結婚した女性が抑圧的な家長制に取り込まれる不幸な契約であることを明らかにしている。

18 「境界都市1・2」

在独の哲学者ソン・ドウヨル教授は反体制人士で、1991年以来十数回北朝鮮を訪問していることから親北勢力として韓国政府からスパイ容疑で逮捕令が出され入国禁止状態にある。ドイツ国籍の彼が33年ぶりに帰郷しようとし

ている。東西冷戦当時、分断されていたベルリンは境界都市と呼ばれていたが、地球上最後の境界都市となったソウルはたして彼を支援なく迎えてくれるのか？

2003年37年ぶりに家族とともに帰国を強行した彼は10日目に「解放以後最大の大物スパイ」として拘束される。それから5年後に裁判で無罪となり釈放されるまでの長い時間を記録したドキュメンタリー。

19 「競馬場へ行く道」 ☆

R (男) と J (女) はフランス留学中3年半同棲していた。Rに代筆してもらった学位論文が高い評価を受けJは大学に職を得た。

Jより遅れて帰国したRはそのことを恩にさせて関係を復活させようとするがJははつきりした返事をしない。Rには田舎に妻子がいるが、冷え切った関係にもかかわらず妻は離婚を承諾しない。どつちつかずのままRは再び外国へと旅立つ。セックスに関するあけすけな会話や場面が多いせいか好評と不評が極端に分かれる作品。

20 「鯨とリーコレサニヤン」 ☆

学校が嫌になった大学生ピョント、挫折した活動家では今乞食を業とするミヌが、貧しさのため娼

家に売られたショックで失語症になったチュンジャを故郷に帰すため、娼家を脱け出し追手と闘いながら3人でチュンジャの故郷に向かうロードムービー。戒厳令下の80年代という時代が民衆にどんな暮らしを強いたか、具体的には何も説明されていないが、小柄でひ弱な学生と口のきけない女性を主人公にすることで強い抑圧を逆に浮かび上がらせている。

21 「子猫をお願い」

仁川に住む商業学校の同窓生5人。現在は無職か契約職か貧しいアルバイト暮らし。頼るべき学閥も財力のある父母も特別な才能もない20歳の女性たちが実社会で悩み、あがき、思いやり、時には仲違いしながら自分の居場所を求める姿を描いた作品。

22 「JSA」

板門店の南北共同警戒区域で起きた銃撃事件の真相を中立国監督委員会の韓国系スイス人捜査官が解明していく。あるインタビューで「シユリ」に続いて南北分断をモチーフにした「JSA」に出演した点について質問されたソン・ガンホが「シユリ」では北の人が人間として描かれていない点が物足りなかったの…」と答えたのが印象に残っている。

が印象に残っている。

23 「グエムル―漢江の怪物―」

題名通り怪獣映画の枠組みを借りているが、怪獣映画にお決まりのカタルシスはなく、韓国社会や対米関係のあり方を鋭く風刺している。在韓米軍が大量に下水に廃棄した劇薬がハンガンに流れ込んだせいで突然変異的に怪物が誕生する。怪物はハンガンの河川敷で過ごしていた人々を襲い、売店の主人の娘を連れ去る。夜半死んだ

父親は警察に捜索してくれと訴えるがまともに相手にしてもらえない。しがたない庶民が被害に遭っても国家は何の力にもなってくれないのだ。そのうえ自分たちも手配されている中、主人一家は娘を救うべく怪物に立ち向かっていく。携帯電話の位置追跡システムが居場所を見つける手がかりになる点、着ぐるみではなくCGを駆使した怪物の動作がスピーディでアクロバティックな点など今時の怪獣映画ならではの面白みもある。

24 「彼らも私たちのように」

石炭産業合理化政策が始まった1989年が背景。デモの主導者として手配され逃走中の大学生キョンは、偽名で閉鎖の危機にある

炭鉱村に潜り込み練炭工場の雑役夫として働き始める。練炭工場社長の一人息子ソン Chol はこの村の喫茶店と飲み屋で暴君として君臨している。喫茶店で身売って暮らしているヨンスクはキョンの人柄に魅了され愛するようになり喫茶店の仕事をやめる。ヨンスクに執着するソン Chol はヨンスクに暴行し、止めようとしたキョンは前から彼に目をつけていた刑事に捕まってしまう。

25 「キルソドム」 ☆

若い恋人同士だったフアヨンとトンジン、朝鮮戦争で別れ別れになり、それぞれ家庭を持つて暮らしていた。離散家族の出会いの広場で奇跡のように再会した二人は、生き別れて江原道に住む息子を訪ねていく。遺伝子検査で親子である確率が高いと診断されたものの住む場所も暮らし向きも価値観もまるで異なる他者を息子として受け入れるのが難しい父と母それぞれ的心情を描く。

26 「金薬局の娘たち」 ☆

時代の変化に乗り遅れて廃業した漢方薬局にはヒ素を飲んで自殺した死者の話が伝えられている。その祟りで家運が傾いていくのではないか、娘たちの結婚生活に不

幸が続くのではないかと母親の気苦労は絶えない。父親は儒教的秩序に拘泥するばかりで現実に対処する能力がない。娘たちそれぞれのエピソードを通して前近代から近代へ移る過渡期に生きる人々の世界観や価値観の揺らぎが描かれている。

27 「ディープ・ブルー・ナイト」☆

アメリカンドリームに憧れる野心家のホビンは永住権を得るためにジェーンと契約結婚する。ジェーンは韓国で知り合った在韓米軍の兵士と結婚したが、その後離婚し偽装結婚を業としてきた。アメリカで疎外され孤独に苦しむジェーンは、共に暮らすうちにホビンを愛するようになる。契約期間が満了する頃、ジェーンは妊娠したと嘘をついてホビンを引き留めようとするが冷たく拒否される。二人は最後に砂漠へと離婚旅行に出かける。

28 「光州事件／花びら」

光州事件の現場に居合わせ、母を失い、悲惨な経験をした少女は、その後も突然襲ってくる光州の記憶に苛まれひきつけを起こし、叫び声をあげるのを抑えられないでいる。光州を被害者の記憶に投射された悪夢として、消そうとして

も消せない記憶として、言葉にしようとした瞬間狂気に襲われる苦痛として描き出している。

29 「旅人は休まない」☆

3年前に死んだ妻の遺骨を彼女の出身地の近くに撒くために旅立った東海岸で、男は偶然知り合った看護師と奇妙な因縁に導かれ、ソウルでの再会を約して別れるが……分断とそれに伴う故郷の喪失、離散の痛みを実験的な映像美学で具現した秀作。

30 「小さなボール」☆

産業化の途上で搾取され滅亡する労働者一家の年代記を描いた小説を作者自らシナリオ化したのが、事前検閲で差し戻され、別人のシナリオで映画化した作品も検閲で不具にされた状態で世に出された。塩田に住む一家が工場建設のために立ち退きを迫られる過程が、長男と隣家の娘の実らなかつた初恋を絡めて描かれている。塩田の広がる村の風景全体を見渡すロングショットの余白と、その余白を横切って歩いていく登場人物の姿は中心部から押し出され疎外された哀しみの情緒を如実に表現している。

31 「南部軍―愛と幻想のバルチザン」☆

韓国映画としては初めて智異山

のバルチザンを討伐の対象としてではなくシンパシーを込めて描いた作品と評価されている。バルチザンとは朝鮮戦争前後に智異山一帯で武装闘争を繰り広げた遊撃隊を指すが、構成員は共產主義者やそのシンパの農民・労働者などであった。豪華なキャストやスペクタクルな戦闘場面など商業映画の要素とジャンルの面白さにも並々ならぬものがある。

32 「ナムの家」

旧日本軍慰安婦だったおばあさんたちの名誉回復、補償を求める闘いと日常生活を撮影したドキュメンタリー。若い女性監督ピョン・ヨンジュが1995年、1997年、2008年おばあさんと共に過ごしながら記録した三部作。

33 「ナンバー3」

ヤクザの頭目がナンバー2の造反に遭ったのを助けた功を認められた下っ端ヤクザのテジュ、問答無用、何事も灰皿で解決を図る「灰皿」、田舎ヤクザのチョピルが繰り広げる跡目争いに肉体派の刑事マ・ドンバルが絡む。「グリーン・フィッシュ」に続いてソン・ガンホがヤクザ役で存在感を示した作品。

34 「帰らざる海兵」☆

朝鮮戦争を題材にした戦争映画で、最高の作品の一つ。海兵隊も参加した米軍の仁川上陸作戦で劣勢を盛り返した韓国軍は北進を続けるが、中国軍の参戦で状況は一変する。極寒の最中、海兵隊も前線で中国軍と対峙する。山の稜線の手前からずっと向こうまで続く兵士の列。第1波を何とかかわしたと思うと、すぐ後ろに第2波が……海戦術という言葉が実感できる大規模な戦闘場面は圧巻と云うほかない。反共意識を前面に出して北朝鮮を敵対的關係で描写することなく、多様な個性を立体的に配してアクション、ドラマ、笑いの中に戦争の悲劇性を溶かし込んでいる。

35 「豚が井戸に落ちた日」

子どもの死をきっかけに夫婦仲が冷め始めた中年の夫婦。営業マンの夫は出張先で女を買い、妻は売れない小説家と情熱的な時を過ごす。ホン・サンス監督のデビュー作。

監督の作品は国外ではその芸術性や緻密な細部描写、巧まざるユーモアなどで高い評価を得ているのに比べ本国ではあまり評価されていない。しかしこの度の百選には「江原道の力」(1998)も13

位に入っていて、ファンとしては喜ばしい。

36 「息もできない」

相手かまわず悪態をつき暴力をふるうチンピラのサンファンは暴力づくで露店を立ち退かせ脅迫まがい借金を取り立てるやくざだ。

ある日偶然気の強い女高生のヨニと知り合い、次第に親しくなっていく。いつだったかソウルでTVをつけたらこの映画をやっていた。次々と飛び出す悪態と暴力沙汰が凄まじくて、好きな作品なのに見ていられなかった。世の中にはTV向きじゃない映画があるようだ。

37 「ロボット・テコンV」☆

「マジンガーZ」に刺激されて作られた韓国最初のロボットアニメ。1976年に封切られ、13万3、600人が観覧して、その年の観客動員数第2位を記録する大成功を収めた。テコンVも敵役のロボットも操縦士の動作に連動して得意技を繰り出すように設計されているが、テコンVの操縦士は韓国固有の武術テコンドーのチャンピオンで、テコンドーを駆使するのが興味深い。メカニックデザインをはじめ「マジンガーZ」など日本のアニメの剽窃であることは明らかだが、泥臭さが妙に懐かしさを

感じさせる。ちなみに当時韓国の子どもたちは「マジンガーZ」を韓国製のアニメだと信じて見ていたという。

38 「母なる証明」

田舎の町に母と息子が二人きりで暮らしている。息子はちょっと足りないが、顔はきれいで優しい。母親はそんな息子を溺愛し、闇の鍼治療や薬草の販売をして日を送っている。そんなある日息子が殺人の容疑で逮捕される。母は息子の無実を信じて自力で真相を探ろうとするが、その過程で町のすさんだ裏の顔が浮かび上がる。

39 「曼荼羅／マンダラ」☆

厳しい修行を通してこそ悟りが開けると信じて6年間精進してきた若い僧が、一人の破戒僧と知り合い対話を重ねながら成長していく過程を、見事なカメラワークで捉えている。人間のくびきから逃れられないままさまよい苦しむ姿を描いて、韓国映画に新たな可能性を開いた画期的な作品と評価される。

40 「裸足の青春」☆

青春映画の嚆矢と呼ばれるこの作品はソウルで観客25万人を動員した最高の興業作。朝鮮戦争が終わって10余年の後、

孤児のチンピラと良家の娘が偶然出会い身分違いの恋に落ちる。「泥だらけの純情」(1963、中原康監督)の剽窃ではないかという疑惑を受けたが、社会的な抑圧と経済的窮乏にあえぐうら寂しい街の様子など、当時の時代背景やそこから醸し出される悲劇的情緒が画面に込められている。

41 「ムサン日記／白い犬」

北朝鮮を脱出し亡命してきた人たちが韓国社会で働いて暮らすようにするが、脱北者だという理由でまともな就職口も見つけられず、苦しい暮らしの中でお互い同士が騙しあい不信を募らせていく。パク・チョンボム監督は主人公役と演出を同時にこなしながら、韓国社会の闇をスクリーン上に展開している。スン Chol はポスター張りの仕事で何とか糊口をしのいでいる。彼の楽しみは週に一度教会に行くことで、同じ教会に通うスンギョンが好きでも自分の貧しい身の上を思っただけで近づくのではない。居候させてもらっている脱北者のキョン Chol は闇の送金ブローカーとして豪勢に暮らしていたが叔父に詐欺に遭い、追われる身となる。高跳びしようとしてスン Chol に彼の飼った犬の小屋に

隠しておいたお金を持ってきてくれと頼むが……。

42 「未亡人」☆

韓国最初の女性監督パク・ナモクの唯一の作品。朝鮮戦争で夫を亡くした未亡人は亡夫の友人だった社長の援助を受けて一人娘と暮らしている。海に行った日、目を離したすきに娘が溺れるが、居合わせた青年に助けられて事なきを得る。後日街で再会した未亡人と青年は親しくなり結婚を考えるようになるが、定職もなく頼まれ仕事で日を送る青年は街で初恋の女性と偶然再会し姿を消す。主人公の未亡人が女性としての欲望と母性の分かれ道で苦悩する姿が描かれている。映画の最後の部分の音声が残念。

43 「迷夢」☆

息の詰まる結婚生活に倦んだエスは自由な欲望に従ってデパートで買い物し、若い男とホテルで甘い時間を過ごし、当代随一の舞踏家の公演を見て一途に熱を上げる。舞踏家の乗った汽車に追いつくためにタクシー運転手に速度違反をさせることも辞さないが、近代女性の奔放なセクシュアリティは結局早々に断罪されて終わりを

迎える。

44 「憎くてももう一度」☆

シノはソウルで知り合ったヘヨンと恋愛をするが、田舎から突然妻子が訪ねて来たことですべてを知ったヘヨンは一人でお腹の子を育てようと決心してソウルを離れる。8年後、このままでは息子のヨンシンが私生児になると考えたヘヨンはシノに子どもの養育を頼む。貧しい暮らしから突然何不由ない生活の中に放り込まれたヨンシンだが、母恋しさに耐えられず、結局母の下へ戻る。

45 「シークレット・サンシャイン」

夫と死別し一人息子を連れて夫の故郷に引越してきた女性。家を買いたいと漏らしたせいで大金を持つっていると誤解され息子を誘拐されてしまう。犯人が判明するまでの息詰まる時間。犯人への憎しみの気持ち捨てきれず苦しむ主人公は、誘われて似非キリスト教の集会に参加することで犯人を赦せるようになる。赦しを告げようと犯人に会いに刑務所に向かう主人公：脇役に徹したソン・ガンホがさすがにいい味を出している。

46 「浮気な家族」

家庭内のセックスでは快感を得られない夫と妻。夫は日常の一部

のように遊戯的な浮気を繰り返し、妻は高校生に性の手ほどきをする。夫の父親は朝鮮戦争のとき母や姉妹を残して父と38度線の南に避難してきた寂しさに耐えきれずアルコール中毒で体を壊して亡くなる。夫の母親は15年前から小学校の同級生と付き合っていて夫を亡くしてもさばさばしたものだ。現在の結婚制度が人を幸せにするシステムからかけ離れている現実を大胆な描写で描いている。

47 「ペーパーミント・キャンディ」

1999年春、鉄道自殺を図ろうとしている40歳の男の脳裏に時間をさかのぼって浮かぶ過去の映像。4日前、銃を購入。意識のない初恋のスニムを見舞う。94年夏、妻と夫それぞれの浮気。昔拷問した青年と偶然再会。87年春、仕事でスニムの住んでいる群山に行く。84年秋、はじめての拷問体験。80年5月、戒厳軍として光州に向かう。79年秋、ピクニックでスニムと言葉を交わす。その時々々の出来事が男の歩んできた道、さらに言えば韓国が歩んできた道を象徴的に表している。

48 「反則王」

遅刻の常習者で営業成績もパツとしない銀行員のテホはいつも上

司に怒られヘッドロックを掛けられている。ある日偶然見つけたレスリングジムで彼はプロレスの修業を始める。職場でも家でも怒られてばかりの彼が反則の技術を身につけ、かつて憧れていたタイガーマスクを被ってリングで縦横に暴れる様は痛快で笑いを誘われる。そのように夜はレスラーとして自分を解き放つすべてを身につけても昼間の銀行員としての彼は相変わらず不甲斐ない小心者のままというのもリアリティがある。

49 「星たちの故郷」☆

初恋の男に捨てられたキョンアは天性の明朗さで中年男性の後妻になる。しかし過去に中絶手術を受けたことが知られ別れる。キョンアは酒に親しむようになり、遂にはホステスに転落してしまう。ある日画家のムノと出会い同棲するようになるが、アルコール漬けの生活に疲れたムノはソウルを離れる決心をする。大学進学を機に地方から上京した明るい性格のキョンアがひとり雪の降る中で寂しく死ぬまでが描かれる。

50 「復讐者に憐れみを」

工員のリュウは重い腎臓病の姉に移植手術を受けさせようと退職金で臓器密売人から腎臓を買う手

はずをつけるが、手術には別に手術費がかかることを知って絶望する。社長の娘を誘拐して身代金を手に入れるのに成功するが、弟の負担になることを苦にした姉は既に自殺していた。リュウが故郷の川辺に姉を葬っている間に社長の娘は事故で溺死する。娘の死に氣落ちした社長は会社も豪邸も売り払って犯人探しに専念する。誘拐犯がリュウとガールフレンドだと知った社長は二人に復讐するが、ガールフレンドが所属するテロ集団に襲われる。めった刺しにされて血を流しながらも、まるで歌舞伎のようになかなか死なないラストも興行成績が振るわなかった一因かもしれない。とにかく血生臭い場面が多い作品で、背景にある階層分化の深刻ささえも隠れてしまいがち。

51 「春の日は過ぎゆく」

録音技師のサンウは地方ラジオ局のPDウンスと自然の音を採集して聞かせるラジオ番組のために録音旅行に出かける。一緒に仕事しながら2人は自然に親しくなり、サンウは彼女の部屋に泊るようになる。ソウルで働くサンウと江陵に住むウンスの間の距離は車で4時間以上かかるが、若いサンウは

会いたい気持ちを抑えかねて訪ねていく。2人の関係は冬に始まり、春が過ぎ、夏を迎えるころ、年上のウンスはサンウの一途な優しさが負担になり始める。「なぜ愛は変わるのか?」というセリフが印象的。

52「新感染ファイナルエクスプレス」

正体不明のビールスが全国に拡散し、緊急災難警報が発令される中、唯一の安全地帯ブサンに向けて人々の生き延びるための死闘が繰り広げられる。今回のコロナの拡散で再び脚光を浴びるようになった作品。

53「ビート」

生まれつきのファイター・ミンは高校を中退後、暴力団に身を預けた親友デスの誘いを振り切つて、もう一人の親友ファンギュと小さなトッポッキ屋を始める。ところが彼らが買った場所は区画整理のために既に公有地になっていて、店もお金もすべて失つてしまう。仕方なくミンはフリーのファイターとしてデスの組で働く。美貌のお嬢様ロミとの恋も描かれるが、中心をなすのは男同士の友情で、組織を守るためにデスが始末されたことを知ったミンは愛の巢にロミを残して単身デスの敵を討ちにバイクを走らせる。映画の序

盤、主人公が夜の道路を目を閉じたまま両手離して全力疾走する場面は鮮烈な印象。

54「離れの客とお母さん」☆

儒教的秩序に従えば上流家庭では親兄弟や親戚でもない男女が同居するとか、みだりに言葉交わすことはタブーであった。普段の生活でも男(主人)の空間と女子どもの空間は画然と分けられていて、自由に移動できるのは幼い子どものみだった。このことを踏まえておかないと、この作品が優柔不断な男女の煮え切らない恋の話と感ぜられるかもしれない。ちなみに兄の友人の画家が間借りしていたのは、主人が書斎あるいは客間として使う空間で、この映画では女性たちが起居する部屋とは別棟になっている。

55「森浦への道」☆

真冬の雪道で、飯場を渡り歩く人夫と出獄して十余年ぶりに故郷の森浦に帰る男が出会う。二人が入った酒場の主人は、借金を踏み倒して逃げた酌婦ペッカを捕まえてきてくれたら謝礼を払うと言う。懐に余裕のない二人はその気になつてペッカを追いかけて、程なく見つけるがそのまま三人で旅を続ける。駅に着いた三人はそれぞれの

道に分かれて旅立つ。わびしく寒々とした雪の中の冬の旅路は彼らの人生がこれまでもこれからも決して明るく穏やかなものではありえないことを語っているようだ。

56「上溪洞オリンピック」

90年代活発に展開された韓国ドキュメンタリー運動の出発点として、社会に直接的に抵抗する独立映画精神の籠った作品。1988年ソウルオリンピックの開催に先立ち、都市の美観を損ねるという理由で貧しい庶民の住む街が強制的に撤去された。キム・ドンウオン監督は撤去民とともに暮らしていたチョン・イル神父から裁判の証拠資料を撮影してくれと頼まれ家庭用のビデオで撮影した。そのため作品は画質も粗く画面も揺れ動いているが、撤去民と苦楽を共にした時間に比例して住民の日常を親しく映し出している。

57「風の丘を越えて〜西便制」

パンソリの神髄を会得させるために目を見えなくされた娘と、父親である師匠の凄絶な物語。韓国映画としては異例に銀座のセゾン劇場で封切られた最初の映画と記憶している。そのせいか普段韓国映画を見ない層にもアピールした。ちなみにパンソリとは歌い手が長

鼓のリズムに合わせて叙事的な物語を台詞・身振りを交えて歌う民俗伝統芸能。韓国映画字幕翻訳の第一人者と定評のある根本理恵さんが初めて担当した作品でもある。

58「送還日記」

転向を拒否したまま長期間服役した人民軍捕虜、北朝鮮の工作員やスパイを非転向長期囚と呼ぶ。彼らは全部で百人余り。短くても15年、長い人は43年間服役していたが時代の流れに沿って徐々に釈放され97年末までにすべて出所した。釈放後韓国内に引き取り人がある人を除く大部分の人たちは何か所かで共同生活をしてきた。

2000年6月15日の南北共同宣言や南北赤十字会談後、北朝鮮への帰還運動が活発になり、同年9月に北朝鮮への帰還を希望する63人が板門店を通つてバスで帰国するまでをドキュメンタリー風にまとめた作品。

59「シュリ」

CGを駆使し韓国映画史上最高の製作費を投入したこの作品は1999年2月13日に封切られ、半年以上という異例のロングランを続け観客動員数は621万人を記録し、同年秋には東京映画祭でも上映されている。これ以前にも多

くのスパイものが制作されたが、反共の国是を反映し補完するものがほとんどだった。ところがこの映画では東西冷戦構造をスパイ映画の舞台装置として活用したハリウッドのアクション映画をお手本に、エンターテインメントに特化し南北の分断や対立をスリルやサスペンスを生み出す要素として扱っている。

60 「ボエトリー アグネスの詩」

ミジヤは離婚して釜山で働く娘に代わってソウル近郊の小都市で思春期の孫の世話をして暮らしている。町の文化院で詩の講座を受講し始めたミジヤは見過ごしていた事物の美しさに感動するたびに、それを手帳に書き留めるようになる。しかし穏やかな日常は孫の同級生が自殺したことで崩れ去る。孫や友だちが自殺した少女に性的暴力を加えていたのだった。被害者側の父兄も加害者側の父兄も学校関係者も外聞を慮って内密に事を収めようとする。賠償金を払うことで示談が成立するが、孫には反省の色もなく加害者が何ら刑罰を受けないまま真相が闇に葬られてしまうことに納得できないミジヤは少女の死を悼む一編の詩を残して去る。

61 「嫁入りの日」☆

結婚を通じた階級転覆の物語。家柄も実力もパツとしないメン進士（下っ端役人）は一人娘のカツプニを権勢家のキム判書（長官）の息子ミオンに嫁がせて姻戚になろうとする。婚姻の日取りが決まるとメン進士は結婚によつて手にすることになる富と名誉のことを思つて恵比寿顔だ。そうしたある日キム判書と同じ村の人がミオンはちんばだと漏らす。お見合いもせず結納品に目がくらんで婚姻を決めたメン進士は居ても立ってもいられない。財物も結婚も放棄できない彼は小間使いのイップニを身代わりすることにする。ところが式の当日現れたミオンは五体満足の上に美男。相手の真心を知るためにわざと嘘の噂を流したのだった。悔しがるメン進士。ミオンと式を挙げたイップニは申し訳なきにすべてを打ち明ける（当時は身分の低い召使が正室になることはありえなかった）が、ミオンは心根の美しい娘を伴侶に迎えたことを喜ぶ。

62 「シバジ」

朝鮮王朝時代、上流階級の妻の役割は跡継ぎを産むことだった。息子が生まれない場合は妾を置く

のは当然視され、この映画のように代理母も存在した。原題の「シバジ」とは直訳すると「種受け」という意味だ。シバジが産むのが男の子であれば即刻跡取りとして産みの母から引き離され、女兒ならシバジが引き取るのが決まりだった。この映画の主人公もシバジだった母が産んだ娘という設定。

63 「故郷の春」

カメラを固定したロングショットとロングテークで1952年から53年の小さな村の時空間が、まるでその時代の風景や日常を記録するように映し出される。画面にはその時代を生きた多様な人間群像が行きかい、アメリカ軍政時代から朝鮮戦争の休戦まで続く時代の空気が盛り込まれている。薄暗い画面は朝鮮戦争直後の韓国社会の殺伐とした反共主義やアメリカという新たな君臨者、激のよう

64 「美しき青年―全泰壹」☆

実話をもとにした作品。チョン・テイル（全泰壹）は1965年17歳のとき零細工場が密集する清溪川の平和市場の縫製工場で働き

始める。換気装置もなく日の当たらない薄暗い蛍光灯の下で長時間労働を強いられ、肺炎になれば解雇される工員の姿に衝撃を受け、労働条件改善のために社長と協議し役所に嘆願するなど努力するが一向に変化の兆しも見えない。1970年抗議のために、何の効力も持たない労働基準法の本を焼く予定だったのが、平和的なデモを警官が力で抑え込もうとしたことに憤りを感じ「労働者は機械ではない」と叫びながら灯油をかぶって自殺する。享年22歳。この作品では彼の評伝を書いている知識人活動家の目を通してチョン・テイルの生涯をたどっている。現在（1975年）の場面はカラー、過去（1965〜70年）はモノクロで表現することで現在と過去をつなぐ悲劇的な現実を冷静に見つめるための距離感を演出している。

65 「霧」☆

ソウルの製薬会社に勤めるキジュンは母の墓参りと休暇を兼ねて、惨めな幼年時代を過ごしたムジンにやってくる。社長の娘と結婚したキジュンは、まもなく専務に就任する予定だ。夜半から朝方、深い霧の降りるムジンは夢想的で非現実的であると同時に脱日常的な

空間だ。現実に対する敗北意識と幻想に対する虚無感を抱くキジュンは、ここに留まる短い時間に現実からの逸脱を夢見る。彼は友だちの家で知り合った中学の音楽教師インスクと翌日会って情を交わす。しかしソウルへ連れて行つてというインスクの頼みも顧みず、妻からの電報を受け取った彼は休暇を切り上げて帰京する。

新たな映像表現の革命を成就した作品として評価されている。

66 「少女たちの遺言」

女子高を舞台にしたホラー。身体検査の日、ミナは赤い表紙の交換日記を拾う。その交換日記の持ち主のヒョシンとシヌンは仲良しだったが、教室でキスしたことから級友たちに仲間外れにされ無視されるようになっていた。日記を読みながらミナは二人に感情移入し超自然的な体験をする。久しぶりに会ったヒョシンとシヌンは屋上で話し込むが、シヌンが階下に降りた後ヒョシンが投身自殺する。自殺の原因が恨みを抱いて死んだ靈魂の祟りではなく学校という未熟な社会の中の不条理にあるという点でこれまでの学校怪談と一線を画している。

67 「糸車よ糸車よ（李朝女人残

酷史）」☆

朝鮮時代、家父長制度の犠牲となつた数多くの女性たちの物語をキルレの教養な人生を通して描いた作品。貧しい士大夫の娘キルレは家計を助けるため幼くして勢力家の士大夫の死んだ息子に嫁ぐ。未婚のまま死ぬと怨霊になると信じられており、また嫁が貞節を守り続けられれば家門の榮譽にもなり税金も軽減されるからだつた。しかしキルレは夫の一族の身内の男に犯された上に家を追い出されてしまう。下女の身分に落とされたキルレは行く当てもなくさまよううち下男のユンボに助けられ、二人である家の召使として働く。そこでキルレは主人に夜伽を強要され、怒ったユンボは主人を殺してしまふ。逃げる途中ユンボは家門の復活を知り士大夫として暮らすことになる。ところが結婚後三年たつてもキルレは子宝に恵まれず、妾を置いて甲斐がない。そこでユンボはキルレにほかの男に身を任せるよう強要し、その結果息子が生まれるとキルレに短刀を渡す。

68 「英子の全盛時代」☆

お金を稼ぐために上京した英子は社長の家でお手伝いさんとして働くうちに、社長の工場の従業員

のチャンスと親しくなるが、令状が来てチャンスはベトナムに行つてしまう。その留守に英子は社長のバカ息子に強姦された挙句、家を追い出されてしまう。仕方なく縫製工場に勤めるが辛い労働の割に給料はいくらにもならない。バスの車掌をしていたとき満員のバスから振り落とされて左腕を失くす。除隊したチャンスがやつと見つけ出したとき英子は娼婦になっていた。チャンスはそんな生活から英子を救い出そうとするが、しがない労働者の力の及ぶところではない。一緒にいると共倒れになることを悟って英子は姿を消す。「英子の全盛時代」とは何とも皮肉なタイトルである。

69 「オアシス」

轢逃げ事故で服役し、出所したばかりのチョンドウが被害者の家を訪ねて行くと、家族は引越しの最中で、お詫びに持つて行った果物籠も受け取ってもらえない。その上部屋には脳性麻痺の女性ユンジュが一人残されている。前科者で常識がなく20代後半になつても定職にもつけず、家族からも疎んじられているチョンドウだが、ユンジュがどうしているか気がかかりで訪ねて行くうちに二人は親し

くなる。疎外された者同士の愛の物語。

70 「ワイキキ・ブラザース」

学生のおかげからギター一筋のソノウはワイキキ・ブラザースというバンドのリーダー。ナイトクラブで演奏してきたが、不景気やカラオケの隆盛のせいで仕事が減り、食べていくのもやつとだ。所帯持ちのメンバーは見切りをつけてやめていき、残ったメンバーも女性をめぐるいざこざなどで抜けていく。10年ぶりに帰った故郷で高校の同級生と再会するが、音楽をやめた友だちもそれぞれに屈託を抱えている。そうした中、高校時代に憧れていたソニと再会したソノウは、彼女を歌手に迎えて再び舞台に立つ。

71 「王の男」

累計動員観客数1,230万1,289人という封切り当時興行成績第一位のヒット作。燕山君治下の朝鮮王朝時代（1494〜1506）、都にやってきた2人の旅回りの芸人が燕山君に仕えることになり、宮廷の陰謀や策略に巻き込まれて行く。ちなみに燕山君は暴政が極まり、映画のラストで描かれるように廃位されたため王でありながら「君」と呼ばれる。

72 「私たちの生涯最高の瞬間」

女子ハンドボール選手としてオリンピック二連覇の立役者のミスクは所属チームが解散すると生活のために大型スーパードで働き始める。危機に瀕した国家代表チームの監督代行として、日本のプロチームの監督として活躍していたヘギョンが呼ばれる。ヘギョンはミスクらベテラン選手を呼び集め戦力強化に努める。初盤から高度な訓練を取り入れた指導に個性の強い新進選手たちが反発し、ベテランたちとのけんかに発展する。それを問題視した協会委員は世界的なスター選手のスピンルを監督に任命するが……ハンドボールという地味な種目を取り上げたスポーツ映画。

73 「ウムクペミの恋」☆

ソウル郊外の小さな縫製工場で隣り合って仕事する男女が惹かれあう。共に既婚者で子持ちだが、どちらの家庭もとくに破綻をきたしていて、女の夫はDVだ。貧しい二人はホテル代わりにビニールハウスで激しく求めあう。ある日二人が愛を交わしている最中にビニールハウスの持ち主に踏み込まれ、村にいづらなくなった二人は夜逃げしてソウルの場末に隠れ住

む。居場所を突き止めた男の妻は、男の着衣を引き裂き股座を掴んで無理やり男の実家に引き立てていく。

韓国では2018年にデジタル・リマスター版がリバイバル上映されたが、日本未公開のこの作品が、昨今の韓国映画隆盛の波に乗って上映される日を期待したい。

74 「牛の鈴音」

終生土地を守り生きてきた農夫のチェ老人には30年間使役してきた牛が1頭いる。寿命をとくに超えても生きているのが不思議なこの牛は老人の最良の友であり最高の農具、唯一の自家用車だ。独立映画としては異例の300万観客を集めた作品。

75 「異魚島」

「異魚島」は韓国の映画史で最も変わった映画を作ってきたキム・ギョン監督の作品の中でも一番変わった作品だ。彼が反復してきた悪魔的、あるいは原始的な女性像を最高の強度で集約した作品で、無能な男性対強い女性という設定。異魚島には女性だけが住んでいて、男性は生殖のためには必要だが家長制的結婚制度には縛られない島の風習が描かれる。

76 「情け容赦なし」

白昼街中の路上で端正な身なりの男が殺人を犯して逃走する。この事件を担当することになった強力班の刑事たちは身なりも言動もヤクザっぽい。神出鬼没の犯人は急行列車内の追撃も逃れて、ままと逃げおおせる。立ち回り先を知った刑事と犯人の激しい雨の中の対決シーン。ストーリー自体は単純だが高速撮影、アニメーションなど多様な技法を生かした感覚的でリズム感のある映像は視覚的快感を与えてくれる。

77 「自由万歳」☆

独立運動家のハン・ジュンは仲間の裏切りで逮捕され監獄に入っていたが、脱獄に成功して看護師ヘジャの家に身を隠している。ハン・ジュン一派は武装蜂起をするためにミヒヤンのアパートに移る。しかしミヒヤンの後をつけていた憲兵たちに発覚し、ミヒヤンは射殺され、ハン・ジュンも重傷を負って入院する。ハン・ジュンを愛するヘジャは命がけで彼を病室から脱出させる。

78 「自由夫人」☆

韓国映画に欠くことのできない「夫人」シリーズの嚆矢として、既婚女性の性、結婚制度の枠外のセクシュアリティに重点が置かれ

ている。家庭の主婦オ・ソニョンは乞われて洋品店の店員として働くようになる。ある夜ソニョンは隣家に住む青年チュノに出会う。定職もなく日々ダンスホールに入りするチュノに誘われてダンスホールに出かけたソニョンはすっかりダンスにはまり、家庭を顧みず夜毎ダンスパーティーに出かけるようになる。しかし自由を謳歌した女性は遂には断罪されるという「迷夢」以来の韓国映画の伝統がここでも生きている。

79 「將軍の髭」☆

韓国モダンリズム映画の代表作。陰鬱なソウルの冬の日、ある写真記者が死ぬ。刑事が関係者に話を聞いていく。質問は誰が殺したのかから、なぜ自殺したのかに移っていく。そして自殺した主人公が書いた小説が完成度の高いアニメーションで描かれる。一種の実験映画のようなジヤムセクションのような作品。

80 「ザ・コンタクト」

突然去ってしまった恋人を忘れられず心を閉ざして暮らしている男性と、友だちの恋人に片思いしている通販のコールセンターで働く女性が偶然インターネットでやり取りするようになり、対話を繰

り返すうちに実際に会う約束をするが、約束の場所まで来ていながらあと一歩が踏み出せない男性。メロドラマといえば、これまで家族との葛藤や経済的な問題、身分の違いなどと絡めるのが定石だったが、この映画ではあくまでも個人対個人の関係として描かれているところが新鮮で若い世代に支持された。ちなみにこの場面はまだ映画館だったころの団成社の近くで撮影されている。現在、団成社は貴金属店のビルになってしまったが建物のアプローチ部分には映画関連資料が展示され、地下には韓国映画資料館がある(ただし一般観覧不可)。

81 「ダイ・バッド」

独学で映画を学んだリュ・スンワン監督の短編三編、中編一編のオムニバス。肉体のぶつかり合いが暴力という形でこれでもかと展開される。ストーリーがなくはないが「我戦う、故に我あり」とでもないように、さしたる理由もなくけんかに明け暮れ退くことを知らずに、遂には殺してしまう展開をスクリーンで見るには体力と気が欠かせないだろう。

82 「地球を守れ！」

まもなく異星人によって地球が

滅ぼされると信じるピョングは、平素異星人アンドロメダ王子ではないかと疑っていたカン社長を拉致し、独特の拷問にかける。狂気が極に達する利那カン社長はさいわい警察に救出されるが、ホッとした瞬間予測不能の事件が発生して何もかもおしまいになる。これまで韓国の商業映画では弱者が最後に勝利するというストーリーで不平等や不条理に基づく鬱憤や厭世主義を解消する代理満足を与えてきた。しかしこの作品では強者が最後に勝利を得るという現実的な展開にすることでSF的な世界を現実に変換して皮肉っている。

83 「チスル」☆

1948年済州島で、38度線以南だけの政府の樹立に反対した人々が武装蜂起する。アメリカ軍政がそれを武力で強圧的に鎮めようとする過程で多くの無辜の人々が犠牲になった。抗争勢力をせん滅するために中山間部の村が丸ごと焼き払われ老若男女を問わず皆殺しにされたが、この作品ではその様子が生々しく描かれている。

84 「地獄花」☆

ソウルに行ったまま消息の知らない兄を捜しに、除隊したばかりの弟が地方から上京してくる。や

つと捜し当てた兄は米軍相手の娼婦ソーニャのヒモとして、よろまかした米軍物資を横流しして自堕落な毎日を送っていた。兄は一山当てたらソーニャを連れて田舎に帰るつもりだが、彼女は色よい返事をしない。そんなある日ソーニャは弟を誘惑して一夜を共にする。最初は遊びのつもりだったソーニャだが、兄と違って純朴でまじめでハンサムな弟に心を移す。兄は軍用物資を積んだ列車を車両ごと強奪する計画を立てるが、兄が邪魔になったソーニャは彼を監獄送りにしようと憲兵に計画を密告する。一人の女をめぐる兄弟間の三角関係を描いた作品。米軍部隊のみならず内部でのパティイの様子まで盛り込まれていて資料的にも貴重な作品。

85 「おばあちゃんの家」

都会に住む7歳のサンウはシングルマザーである母親の仕事の都合で夏休み田舎のおばあちゃんの家で預けられる。電気もガスもトイレもない家に一人で暮らす口のきけない文盲のおばあちゃんにも田舎の暮らしにも初めは馴染めなかったサンウがやがておばあちゃんと心を通わすようになるまでの過程が温かい目線で描かれている。

86 「チャッコ」☆

朝鮮戦争のときバルチザン討伐隊長だったソン・ギョルは智異山でチャッコというパルチザンを逮捕するが、一瞬油断したすきに逃してしまふ。チャッコとは小鼻の大きさが違うことからついたあだ名。ソン・ギョルは彼を追いかけることには生涯を費やし財産も蕩尽してしまふ。結局行路病者として収容所に運ばれた彼は、そこに思いがけずチャッコを見出す。同郷の二人の間に交錯する長い年月をフラッシュバックで行き来しながら、分断の歴史と「アカ」の幽霊が迫る側と追われる側双方の生をいかに無慈悲に打ち砕いたかを描き出している。

87 「青春の十字路」

典型的な新派調の無声映画。ある家に養子に入ったものの同じ村の上流層の子弟に嫁を奪われたヨンボクは当てもなくソウルに向かう。間もなく駅で荷運びをする仕事に就き、近所のガソリンスタンドで働くヨンヒと恋人になる。田舎にいた妹のヨンオクは母親が死んだのを機に上京し兄を捜すが、見つけれないままカフエの女給となる。ヨンオクはカフエに出入りする同郷のケチョルに利用され、

それを知った兄のヨンボクはケチヨル一味に復讐する。

88 「グリーン・フィッシュ」

除隊して故郷に帰ったマクトンはナイトクラブで働くようになり、裏の世界に足を踏み入れることになる。ヤクザ同士の抗争とクラブの歌手ミエをめぐるボスとマクトンの三角関係という展開は目新しいものではないが、新都市開発で故郷を失くし、これという夢もなく自分のアイデンティティを喪失したまま、あつけなく生を終えるマクトンの姿は哀切極まりない。

89 「最後の証人」 ☆

醸造所主人殺人事件の原因を調査していた刑事が探り出したのは30年ほど前バルチザン部隊の司令官が残した娘と宝物の所有をめぐる確執だった。刑事が手掛かりを求めて旅をする各地の風景や刑事もの特有の緊迫感、登場人物の陰謀や乱闘場面などから当時の殺伐とした時代の雰囲気が十分感じ取れる。

90 「チエイサー」 ☆

ナ・ホンジン監督の長編デビュー作はスリラー。追うものと追われるものの追撃戦を通して極度の不安と緊張感を引き出すのに成功している。俳優たちの荒い息遣い

や体の震えまでそのまま生かした繊細な演出は映画全般に現場感と緊張感をもたらし、恐怖感を高めている。スリラーでは最後まで犯人がわからないものと最初からわかっているものがあるが、この作品は後者。わかっているながら決定的な証拠をつかめず、釈放してさらなる犯行につながる。そこに警察組織が守るべき法と面子、今は出張マッサージの経営者である元警官への優越感や縄張り意識という構図を絡めてストーリーに厚みを出している。サイコパスの連続殺人犯を演じたハ・ジョンウの演技は鳥肌もの。

91 「友へ/チング」

港町プサンでそれぞれ違う環境で育ち性格も違う4人の少年の友情が13歳、18歳、20歳、27歳と歳月の流れの中で変わっていく様子を描いた作品。続編も作られている。

92 「チルスとマンズ」 ☆

反共法違反の非転向長期囚を父に持つマンズは連座制でまともな就職はおろかパスポートさえもらえず（つまり海外に出稼ぎにも行けず）塗装工として働いている。米軍基地で娼婦をされていて結婚し渡米した姉から招請状が来るのを

待っているマンズはチルスの助手として働き始める。高層ビルの上の巨大看板を塗り終えた二人はしばし焼酎を飲んで憂さ晴らしをする。それを見た人々が政治的意図を持った立て籠もり事件と誤解し、警察や救急隊まで出動する騒ぎに発展する。この作品は仰々しいスローガンのない政治映画で韓国ニューウエーブの始まりを告げるパク・クァンス監督のデビュー作。

93 「トウー・カップス」

「笑い死にしてもいい」というコピーとともに登場したこの映画は感傷主義を排し徹底してキヤラクターと状況で勝負している。賄賂をもらうのが当たり前のチョ刑事と新入りで四角四面のカン刑事がコンビを組み、不法行為の横行する韓国ソウルの江南のど真ん中で右往左往しながら捜査をしていく。ピンポンのような会話のやり取りやギャグのような展開はそれまでのコメディ映画にはなかったスタイルで好評を受けてシリーズ化された。

94 「ストライキ前夜」 ☆

労働争議を扱った韓国最初の映画で、検閲を回避し商業映画の製作・配給方式の制約を避けるために16ミリフィルムで撮影された。

一般劇場ではなく学生街、工場、デモ現場などで上映され推定で30万人以上が観覧したという。

ある金属加工工場に勤務するハンスは同僚やガールフレンドが労働運動に熱心なのに、班長になって昇給することに未練があつて冷ややかな態度をとっていた。しかし罷業に踏み切った同僚たちが血まみれで会社側の雇ったヤクザに引き摺られて行くのを見たハンスは、機械を止め工具を振り上げてストライキに参加していく。

ちなみにチャンサンゴンメというのは5人の映画製作者集団の名前で、1996年に憲法裁判所で映画の事前検閲制度が違憲であるという判決を勝ち取った原告でもある。

95 「避幕」 ☆

欲望と死、復讐を主題にした作品で、巫俗（韓国のシャーマニズム）を素材としてではなく生と社会の矛盾を暴く媒介として利用している。避幕とはかつて人が死ぬ直前にしばらく安置しておいた離れ屋をさす。1980年にヴェネチア国際映画祭のノン・コンペティション部門で特別監督賞を受賞し、国際社会に韓国映画の存在を知らしめた。

96 「ピアコル」☆

反共の国是を反映した作品でありながら、パルチザンを人間として捉えた作品。1953年朝鮮戦争停戦後も智異山に留まっていたパルチザンの群像を通して極限状態に置かれた人間の欲望や葛藤、罪の意識や権力関係が赤裸々に描かれている。規律が失われ次第に内面が崩壊していく人間心理を密度の高いドラマに仕立て、戦争映画の形式を借りて究極的には戦後の韓国社会の風景を映し出している。

97 「ホワイト・バッジ」☆

韓国のベトナム戦争参戦を正面から扱った最初の映画。全斗煥政権が朴正熙とは別の形の軍事政権

筆者の近況等（順不同）

門馬徳行Ⅱ田中邦衛が旅立った。特に印象が強いシーンを二つ『北の国から』で暮れか正月に人恋しくなった親子3人が、知人の家を訪ねる。が、窓から一家団欒する様子を見て入れなくなる田中が、一瞬見せた孤独と切ない表情。『若者たち』で、学歴などの理由で恋人に振られた田中が、未だに「大学へ行け！」と絶叫しながら暴れまくる痛切な場面。ともに圧巻な芝居を見せた彼に合掌。
堀江広子Ⅱマスク効果なのか、ここんとこ風邪もひきません。でも何となく心が満たされなのは、友人とお酒を呑みながら口角泡飛ばしおしやべりする事、夫と楽しむ喫茶店でのコーヒータイム、何度も行きたい温泉旅行、これら全てが

を目論んでいた1980年現在を背景に、ベトナム参戦の後遺症に苦しむ小説家の生活を追って現在と過去を行き来する。当時の韓国社会がやみくもに美化したベトナム参戦の本質を大胆に問いつけている。韓国は1965年から73年までの8年間5万余の兵力をベトナムに派兵し、その代価に軍の装備を近代化する資金を受け取った。しかし米軍の傭兵として参戦した相当数は死傷し、あるいは後遺症に苦しむことになる。ベトナム参戦によるPTSDに苛まれる帰還兵の姿はこの作品以降「息もできない」などにも登場する。

98 「火女」☆

3位の「下女」の増補版ともい

出来ないからと思ひ知りました。政府の税金の無駄遣いには腹が立つのに、自身のぜいたくには甘い私です。

星文子Ⅱパソコンで映画を見る楽しみに目覚めたお蔭で、引き籠もり生活も退屈知らず。最新の韓国映画を日本封切り前

に見る贅沢を満喫中。

森田洋Ⅱ今回は、クラシック映画中心に、おすすめて書いてみました。緊急事態宣言が出ていない場合、用事のついでに、渋谷の名画座にいけます。新作もハリウッド映画中心にみえています。ノマド

ランド「秘密への招待状」「アウトボスト37（2014）あたりは、結構よかったです。この原稿が完成する頃、きつと劇場でいろいろな作品をみていると思います。（4/5）

片桐公男Ⅱコロナ禍「都県境をまたぐ移

うべき作品。女性たちが欲望のままに突つ走る姿に比べ、男性に主體性がなく受動的な構図は11年前の前作より明確に描かれている。「下女」に比べるとサスペンス色が濃い作品。

99 「休日」☆

休日ごとにデートする男と女。貧しくて喫茶店でコーヒを飲むお金もなく寒い冬の日に南山公園のベンチで過ごす。うなりを上げて激しく吹付ける風は視界を遮るように砂埃を巻き上げる。画面のこちら側においても寒さを感じるほどに。女は妊娠中で、今日にでも手術費を工面しなければならぬ。男が金策のため知り合いを訪ね歩くとき、映し出される1968年

動を自粛せよ」との呼びかけで、仕方なくウォーキングやジョギングで我慢しています。そんな中、「野の花」の撮影をはじめました。「厄介モノ」扱いしていた雑草にも意外と綺麗な花が咲くことがわかりました。

岩館範子Ⅱテレンス・マリックは、ストーリーボードなどをもとに撮影するのが苦手で、その日の撮影がどうなるのか、どのようになっても自然にその流れを受け止めてどこに行くのか見る。何か物事を起こそうとしたり、自らアクションを起こしたりすると、どうも最初から作られていたようなものに思えてしまうし、

だんだん演劇を観ているような感覚になつてしまふ。演劇は素晴らしいけど、映画が演劇のように見えて欲しくないから、何も疑問を持たず、長い間映画を観て

のソウルの貧しくうら寂しい風景が二人のやるせない心情を物語るようだ。

100 「301・302」☆

おいしい料理でお腹を満たし、セックスをするのが楽しみだったソニヒは、料理に対する情熱の度が過ぎて夫から顧みられなくなると過食気味となり太り始める。結局離婚したソニヒが引越したマンションの隣人ユニは母の再婚相手の義父にずっと犯されていたせいでセックスもできず、食事ほとんど取れない。過食と拒食という摂食障害を通して女性の身体と欲望、心理に対する洞察を盛り込んだ作品で、20年以上たった今も現代的な問題意識が際立っている。

きた。確かに、比較的最近だけど演劇を観てみたいと言った記憶がある。何の作品だったか、2本くらいあったかな。そんなに多くはないけど、それを嫌っての作り方なんだとわかった。そんな監督もいる。このマリック作品に俳優たちはみんな出演したがる。不思議。

関田孝正Ⅱ私の場合、ワクチンは7月20日に2回目の接種を終えます。感染拡大が少しでも収まることを願わずにはいられません。コロナ前から飲み屋にはあまり行かなくなりましたが、短縮営業とか休業とか聞くとなぜか行きにくくなります。旅行もあまり行きませんが、いつでも行けるという解放感が大切です。新宿や渋谷の小さな映画館にもたまには行つてみたい。

記憶から欠落した映画

「愛のコリーダ 修復版」

「愛のコリーダ」(大島渚監督)は1976年に初公開された。「修復版」は3度目の公開だ(2度目は2000年に「愛のコリーダ2000」として公開)。今回初めて見たと思っていたのだが、自分の映画ノートをめくると1977年に見ている。大島渚のポルノ映画として話題になったのだが、記憶から欠落している。こういうこともある。

映画は、阿部定(松田英子)が愛人の吉蔵(藤竜也)を絞め殺して一物を袋ごと根元から切断し持ち去った事件を、二人の出会いから殺害まで描いている。交合シーンのアップが続くのではないかと思っていたが、そうでもなかった。映画の性質上、待合を舞台にした撮影が多いが、ところどころに挟まれる屋外のシーンが全体を映画らしくしている。それが息抜きにもなっている。土手を主人公の吉蔵を乗せた人力車が走っていくシーン、雨の中を定と吉蔵が相合傘で歩くのを俯瞰でとらえて通りすがりの女をからかうシーン、定がパトロンである校長先生に会って

帰ってくる汽車の中、駅舎。吉蔵が床屋から出てくる古い町並みを俯瞰でとらえたシーン。とくに、この後、着流しの吉蔵が行進する日本軍とすれ違うシーンは、なんとも感慨深い。死へ向かって突き進もうとする兵隊。対して吉蔵は時代の波とは無縁に生きているように見える。が彼も、死期を半ば覚悟しているのか。阿部定の事件は2・26事件が起きた1936年(昭和11年)に起こっている。

便所に行く以外は結びあつて二人。身も心も一心同体といった体だ。松田英子の幸せそうな笑顔がいい。その笑顔は妖艶というのではない。正に幸せそのもの。吉蔵のあそこは、してもすぐ固くなるという。店の女は酒を呑んで床に入ったきりの彼らを変態と呼ぶ。そう言う女を定は怒って叩く。定は気性が荒い。妻と就寝中の吉蔵の家に石を投げたり、嫉妬は並大抵ではない。独占欲が異常に強い。吉蔵は妻との離婚など考えていなかったのだろう。定と付き合っていればいつか肉も皮もとろけて骸骨になるかもしれないとつぶやく。もう死ぬしかないと思悟していていた?そこで首を絞めさせた?吉蔵は、とことん定

に愛された。

映画はユーモアもある。定のパトロンである校長先生は堅い人らしい。その堅さを陰茎の固さになぞらえて定は吉蔵に話して二人して笑う。校長は定に「真面目に生きなさい」と諭すが、定はそのことも吉に話して面白がる。この不真面目なところもおかしい。吉蔵は芸者の大年増ともたわむれてしまう。これにはあきれる。

定が吉蔵を殺害する頃、定は校長からネズミの死んだ臭いがすると言われる。体液のにおい、それとも吉が死にかけていた?修復版ということだが、初公開時はヘアはモザイクでかくしたので、う規制がゆるくなつて今回はそれをなくしたのか。切り取られた一物にはボカシはない。切り離されれば猥褻ではなくなるらしい。「コリーダ」とは闘牛という意味らしい。まさに命を懸けた二人の闘い。

藤竜也は、この映画出演前も日活映画でアクションスター(裕次郎以後のアクション映画は「日活ニューアクション」と呼ばれていた)として人気を誇っていた。この映画出演後も活躍を続けている。松田英子は、その後「本番」女優のレッテルを貼られて消えてしま

ったのかと思っていたが、「聖母観音大菩薩」(若松孝二監督。1977)「大奥浮世風呂」(関本郁夫監督。1977)などに出演している。「聖母観音大菩薩」は、当時の私の映画メモによると、脚本の佐々木守はメルヘンの世界を描いたつもりだろうが、ぎくしやくした映画になってしまった」とある。女優は1作でも記憶に残る映画があればいいと思う。

阿部定事件を扱った映画は何本かある。「明治・大正・昭和 猟奇女犯罪史」(石井輝男監督。1969)。ドラマの最後に本物の阿部定が出演して、吉田輝雄のインタビュに答え、画面から遠ざかつて行った。また「愛のコリーダ」公開の前年1975年、日活ロマンポルノとして宮下順子主演で「実録 阿部定」(田中登監督)が作られている。私の映画メモには「退屈」とある。

1976年、スチール写真とシナリオで構成した単行本『愛のコリーダ』(三書房)が警視庁により猥褻容疑で摘発された。1979年、東京地裁で無罪判決。1982年、東京高裁が一審判決を支持、「無罪」判決が確定した。

(関田孝正)